



Dialog with the Public

京都大学アカデミックデイ 2016

研究について、
いろいろな人と語り合いませんか？



2016年9月18日（日）10:00 - 16:00 | 百周年時計台記念館

開催日時 2016年9月18日(日) 10時00分から16時00分

会場 百周年時計台記念館

- 目次
1. 概要
 - 1-1. イベント概要
 - 1-2. 山極総長からのメッセージ
 - 1-3. 会場配置図
 2. プログラム
 - 2-1. 研究者と立ち話(ポスター/展示)
 - 2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話(サイエンスカフェ)
 - 2-3. お茶を片手に座談会(トークライブ/展示)
 - 2-4. 研究者の本棚(特設図書館)
 - 2-5. 対話マラソンのための給水ポイント(ドリンクコーナー)
 3. アンケート
 - 3-1. 来場者アンケート
 - 3-2. 出展者アンケート
 - 3-3. 京都大学アカデミックデイ賞
 4. 出展者情報
 - 4-1. 研究者と立ち話(ポスター/展示)
 - 4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話(サイエンスカフェ)
 - 4-3. 出展参加者一覧
 5. その他
 - 5-1. 出展研究者向け事前説明会
 - 5-2. イベント終了後の学内限定タイム(出展者交流)
 - 5-3. 広報物
 6. 支援体制・準備スケジュール
 - 6-1. 支援体制
 - 6-2. スタッフリスト
 - 6-3. 準備スケジュール
 - 6-4. デザイン・制作物スケジュール
 7. (資料)ブックリスト

1. 概要

1-1. イベント概要

2016年9月18日、百周年時計台記念館で「京都大学アカデミックデイ 2016」を開催しました。第6回目となる今年は、大学院生を含む研究者195人が57組（近隣の高校からの出展4組を含む）の研究プロジェクトにおいて発表しました。台風が近づくあいにくの天候にも関わらず、来場者は420人に上りました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

企画のデザインや運営は学術研究支援室（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働し、対話が促進されるプログラム4つを用意しました。

様々な分野の研究に触れられるポスター展示の「研究者と立ち話」、研究者とじっくり対話できる「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、テーマに沿って研究者と来場者が議論する「お茶を片手に座談会」、そして参加研究者のお勧め図書を紹介する「研究者の本棚」です。会場のあちこちで、研究者と来場者の対話が生まれました。また、会場内には、「対話マラソンのための給水ポイント」を設置し、飲み物を無料で提供しました。

来場者にはアンケート調査への協力を依頼しました。寄せられた回答の中から、企画や出展に関する意見やコメントを出展者にフィードバックすることで、今後の対話活動をさらに発展させていきます。



会場（百周年時計台記念館）

1-2. 山極総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご来場のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。情報技術が目覚しく発展し、世界の情勢が急激に激動するなか、京都大学は地球社会の調和ある共存を目標にして多元的な課題の解決に果敢に挑戦しております。そのために私は、京都大学を世界や社会へ通じるための「窓」として位置づけ、新しい時代の要請に応えていこうと思います。窓、すなわち WINDOW にちなんで、次のような方針を掲げています。Wild and Wise（野生的で賢い学生を育てる）、International and Innovative（国際的で革新的な能力を重視する）、Natural and Noble（自然に学び、高潔な人格を育てる）、Diverse and Dynamic（多様で変化に満ちた世界を理解する）、Original and Optimistic（独創性を明るい気分とともに育てる）、Women and Wish（女性が輝く、希望に満ちた環境を作る）、という計画です。そして、京都大学の学術研究の成果を市民に還元するとともに、市民の理解と支持を得て、共に学術研究を推進していこうと考えています。



京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者とが直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、研究が営まれているさまや、同じ1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。そしてこの機会に是非、研究者に疑問を投げかけてください。みなさまとの対話は、研究者にとって自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す機会となります。そして、成果還元の可能性や新たな活躍の場が広がって行きます。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 山極壽一

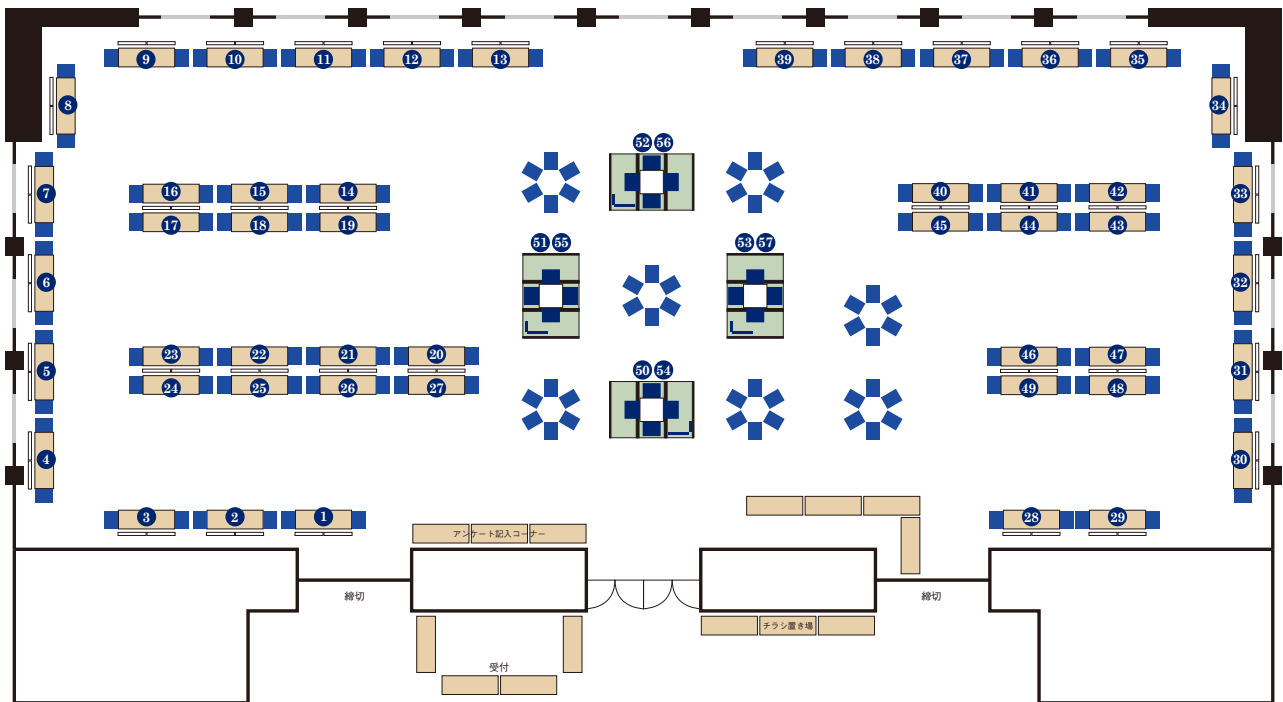
1-3. 会場配置図

1-3-1. 「京都大学アカデミックデイ」配置図

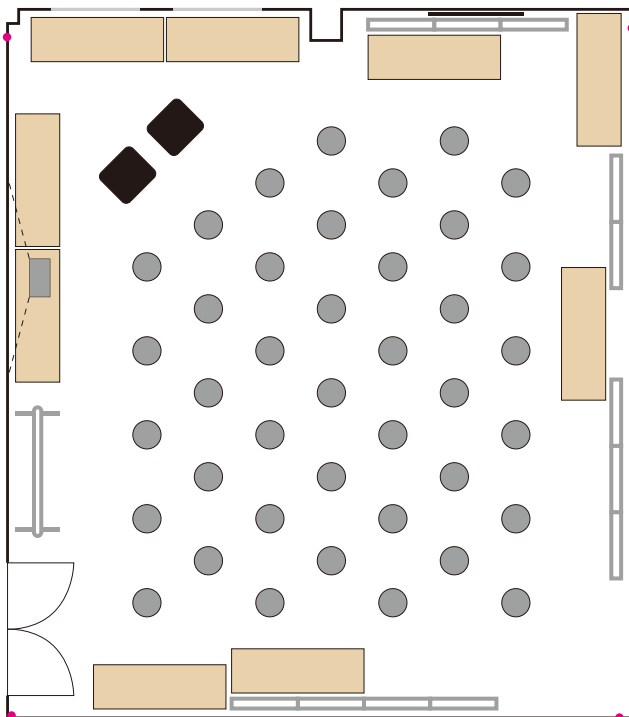


■ 1-3-2. 各コーナーレイアウト

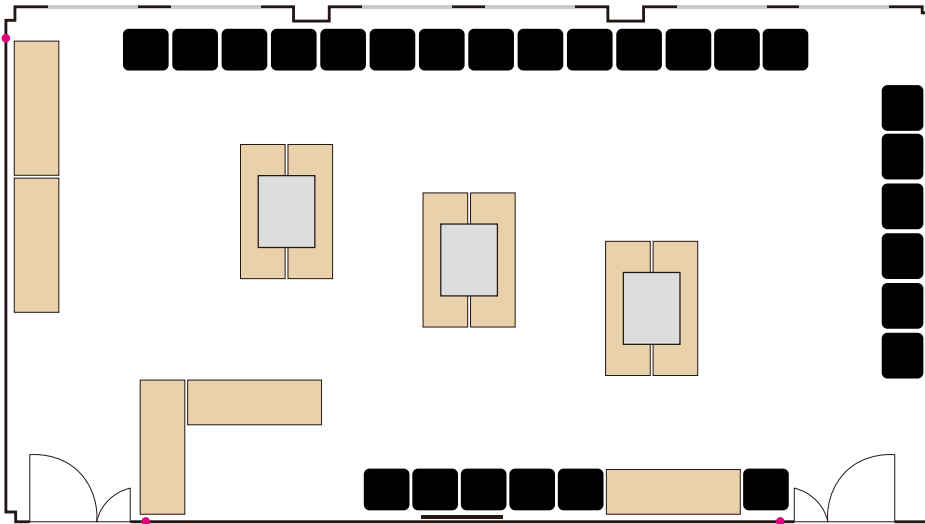
- 国際交流ホール：研究者と立ち話（ポスター／展示）・ちゃぶ台囲んで膝詰め対話（サイエンスカフェ）



- 会議室IV：お茶を片手に座談会（トークライブ／展示）



● 会議室Ⅲ：研究者の本棚（特設図書館）



2. プログラム

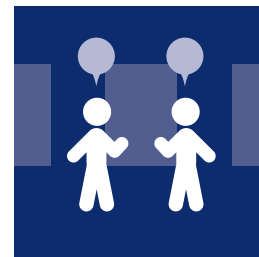
2-1. 研究者と立ち話（ポスター／展示）

■ 2-1-1. 概要

日時 9月18日（日曜日）10時00分～16時00分

会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

大学研究者、高校生などによる研究紹介のコーナー。会場には49のポスター展示がずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました。また、ポスターの前に模型やサンプル、資料等を並べ、それらを使って研究の紹介をする研究者の姿も多く見られました。さまざまな立場で研究をしている人が一同に集っていたため、研究者同士の交流も深まり、互いに刺激をしよう場になっていました。



■ 2-1-2. 「研究者と立ち話」ガイドツアー

「なんとなく話しかけづらい」「数が多すぎてどの話を聞けばよいのか迷ってしまう」といった来場者からの声に応えるため、京都大学アカデミックデイでは学生サポーターによるガイドツアーを導入しています。京都大学の学生がツアーガイド役となり、来場者と一緒に「研究者と立ち話」を回る企画です。

協力：有限会社関西教育考学



■ 2-1-3. 「研究者と立ち話」出展一覧

● 京都大学

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
キムカブジン（化学研究所）	「小さな磁石を用いたメモリーデバイス」
松田道行（大学院生命科学研究科）	「ネズミと会話ってできるの？」
金賢得（大学院理学研究科）	「最もシンプルな分子—水素のおとぎ話」
伊藤喜宏（防災研究所）	「スロー地震を地震災害軽減に利用する」
杉本直志（iPS細胞研究所）	「iPS細胞技術による血小板製剤の開発」
田中貴浩（大学院理学研究科）	「待ちに待った重力波物理学の到来」
大本義正（大学院情報学研究科）	「「仮想」を「実感」するためのあれこれ」
田中功（大学院工学研究科）	「ナノ構造からの新しい材料開発」
田鶴寿弥子（生存圏研究所）	「科学でみる木の文化」
松田素二（大学院文学研究科）	「アフリカの潜在力が世界を救う」
藪塚武史（大学院エネルギー科学研究科）	「生命体の骨格をつくるアパタイトの科学」
名倉康太（大学院人間・環境学研究科）	「純有機磁性ナノ粒子の開発と臨床応用」
秋吉一成（大学院工学研究科）	「ナノ材料で病気を治す」
井上康博（再生医科学研究所）	「生物の形の折り線図」
趙亮（総合生存学館）	「皆で作る京都市避難所割当マップ」
小杉緑子（大学院農学研究科）	「桐生水文試験地へようこそ」
八田太一（iPS細胞研究所）	「痛みってナニ？」
成田千尋（大学院文学研究科）	「東アジア国際関係からみた沖縄返還」
辻伸泰（大学院工学研究科）	「バルクナノメタル：常識を覆す構造材料」
西郷南海子（大学院教育学研究科）	「生きることが「アート」であるということ」
田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池 元素戦略研究拠点ユニット） 田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）	「元素戦略プロジェクト」
吉田健太郎（大学院理学研究科）	「超弦理論とはなにか？」
川嶋宏彰（大学院情報学研究科）	「視線・表情・間合いを読むコンピュータ」
齊藤博英（iPS細胞研究所）	「RNA ～細胞の運命を自在に操る～」
有賀哲也（学際融合教育研究推進センター高大接続科学教育ユニット ELCAS）	「京都大学×高校生の研究＝「ELCAS」」
畑中悠佑（大学院医学研究科）	「模倣される病—神経回路の病的遷移」
乾晴行（大学院工学研究科）	「炎を制する—超耐熱構造材料」
横川隆司（大学院工学研究科）	「機械加工と生体分子で創るナノシステム」
入江一浩（大学院農学研究科）	「アルツハイマー病のより正確な診断手法」
松田直樹（大学院工学研究科）	「音で見る—超音波による非破壊検査—」
中村輝石（大学院理学研究科）	「素粒子実験って何してんの？」

城綾実（物質—細胞統合システム拠点）	「科学とアートの“想像力”が出会うとき」
大庭弘継（大学院文学研究科）	「人道のための戦争？よりマシな悪を選ぶ」
竹脇出（大学院工学研究科）	「繰返す震度7地震に対する建物の耐震性」
篠原美都（大学院医学研究科） 篠原隆司（大学院医学研究科）	「幹細胞が精子を作る活性には周期がある」 「精子を作る幹細胞とその技術」
村上章（大学院農学研究科）	「『土と水の科学』と農業水利施設」
小松直樹（大学院人間・環境学研究科）	「六方晶窒化ホウ素のはく離と化学修飾」
余田成男（大学院理学研究科）	「成層圏と対流圏をつなぐ極端気象変動」
林智昭（大学院人間・環境学研究科）	「英語も生きている！」
和泉悠（大学院文学研究科）	「悪口ってなに？「悪口」で学ぶ言語哲学」
清水美里（大学院教育学研究科）	「ダムから考える植民地台湾」
高塚和夫（福井謙一記念研究センター）	「分子内の電子のダイナミクスを観る・操る」
紺屋あかり（東南アジア研究所）	「南の島に生きる」
杉山弘（大学院理学研究科）	「遺伝子スイッチでガンを治す」
佐藤彰洋（大学院情報学研究科）	「地域の持続可能性を計る」

● 高等学校・高等専門学校

学校名	出展タイトル
兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕	「兵庫県中南部の形成過程をモデル化する」
兵庫県立加古川東高等学校 自然科学部	「微小重力、岩石風化と災害、粉体時計の研究」
大阪府立長尾高等学校 理科研究同好会	「船橋川の水質Ⅱ & 周辺断層に関する研究」
京都府立城南菱創高等学校 科学部	「ハイランドカープの塩分耐性」

「研究者と立ち話」レポート1

13:00~16:00の間、「研究者と立ち話」のツアーガイドを担当しました。午前中から荒天だったこともあり、会場に来る人数自体はそこまで多くはありませんでしたが、一度入ると長時間熱心にポスター展示を見ている人が多く、時間がたつにつれて会場に人が増えていきました。

約30分かけて3~4つのブースを訪れる、という形式でツアーガイドを3回行いました。各回1人ずつの計3名、うち高校生2名、大学院生1名です。お客さんが興味のある分野を参考にして、会場を1周しながらそれに近い分野のポスター展示を複数選びました。選ぶポイントは、パンフレットに記載された情報だけでなく、実際に展示物や発表者の様子（人数、質問できそうな雰囲気か）を見て決めることも必要かと思えます。高校生2名はいずれも理系、特に生物学関係の発表に興味があるとのことだったので、再生医療や生態学のブースを選び訪れました。大学院生のお客さんに関しては特に希望はないとのことだったので、なるべく同じ分野のポスターが被らないように（更に、知人なので専門分野も知っていたため、それともあえて被らないように）、ランダムに3つ選びました。

小人数ではありましたが3回ツアーガイドをさせていただき間、発表者の様々な工夫を確認できました。ポスターの内容をA4に印刷したレジュメを配布しているブースがありました。持ち帰り可能にすることで家族や知人のお土産にすることや、後で気になった時にいつでも見直すことができるかもしれません（内容的に配布できない分野の研究もあるかと思われます）。また、多くのブースで顕微鏡や分子模型、サンプルにしている生物なども一緒に展示していました。おそらく材料工学や生命科学系のブースが多かったためでし

よう。モニターを持参しポスターでは表現できない映像資料を見せているところも多かったです。小型PCでパワーポイントのスライドでの説明を予備的に行っているブースもありました。

準備物だけでなく、実際にお客さんと話をする上でも発表者が気に留めるべき大事なポイントが2つありました。聞き手の背景知識と、聞き手のリアルタイムの反応です。これら2つに注意して説明のスピードや内容を柔軟に変化させることができる発表者のブースでは、お客さんとの対話がうまくいっていました。今回来場者には所属や興味のある学問分野などを任意で記入していただいた名札を首から下げてもらいましたが、発表者にとってこれがよい判断材料になったと思います。「高校生ならもう少しゆっくり説明した方がいいな」「(臍に落ちない顔をしているから)いつでも質問してきていいですよ」と、適切な対応に結びついていました。名札の記入は任意の為、白紙の人も居ましたが、もっと積極的に呼びかけてもいいかもしれません。

お客さんの感想としては、高校生から「色々なことを幅広く見てまわるよい機会でした」との感想をいただきました。大学院生からは「お堅い雰囲気無く、居心地の良い空気が出来上がっている」との感想をいただきました。「一般の人にとってはその研究が日常生活にどうつながっているか、どう役に立つのかといったことが関心事で、そのへんをうまく説明できるとよい発表になるだろう」という意見もいただきました。

発表者(生命科学系のブース)にも感想を聞いたところ、「高校生と中高年が多かった。熱心に質問する人もいたりして、強い関心をうかがわせる」との感想をいただきました。

最後に私自身の所感としましては、今回はツアーガイドの役割について考えさせられました。今年は昨年度までと比べ、ツアーガイドの需要が少なかったように感じました。来場者の多くが、入場後まっすぐ目当てのブースに向かって行ったり、自由に回り始める姿が多く見受けられました(ブースの場所を尋ねられたりはしましたが)。京都大学アカデミックデイの形式にそろそろ来場者が慣れてきたためなのか、雨天だったことで何気なく来場したというよりは、初めから強い目的意識を持った人が多く集まったためなのか、はわかりません。そういったお客さんについては、無理に声をかけてツアーに参加してもらう必要もないかもしれません。ただし、ツアーガイド後になんとか要領を得たからあとは自分でいろいろ見て回ります、というお客さんも居たので、ツアーガイドの意義はまだまだありそうだな、と思いました。また、見たい分野が初めから決まっているお客さんは、全くの異分野のブースには足が向きにくいかもしれませんが、ツアーガイドのブースのチョイスによっては思いもかけない出会いをもたらすことができるかもしれないなと思いました。実際、理系のお客さんと人文学系のブースに赴いた際、意外と食いつきが良くて、積極的に質問していたことが印象的でした。来場者の雰囲気に合わせてツアーガイドの仕事もやり方を変えていく必要があるかもしれませんが、一般市民にとってのアカデミックな世界であったり、学生や研究者にとっては異分野の研究であったり、そういった各々の未知の世界へお客さんを導くことがツアーガイドの仕事であると考えています。

農学研究科 修士2年 倉田康平

「研究者と立ち話」レポート2

ツアーの概要、詳細内容、感想の三点に分けてご報告します。

午後のツアーは13時半から16時の間で行い、2組案内しました。1組は親子で高校1年生の男性とその母親、もう1組は40歳くらいの男性でした。ツアーの看板に目を向け興味を持っていそうな方に声をかけ、関心分野や参加のきっかけなどを伺い、ご案内しました。

1組目は、生物の中でも特に小さなレベルの話に興味があるとのことだったので、移動中に自分の研究の話も交えつつご案内しました。ポスターを訪れると、まずは担当者の方に学年と興味を簡単に紹介しました。その後はどんどん自分から積極的に質問をして楽しんでいる様子でした。質疑応答の中で「今ちょうど学校で〇〇の勉強をしていて……」という話をしていたので、次はそれに関連したポスターを訪れました。更に、一人だと聞きにくいですが興味があるものとして宇宙の研究を聞き、ツアーを終えました。

2組目は、ご自身が脳の病気をお持ちで脳の研究に関心があるとのことだったので、初めは脳関連のポスターをご案内しました。ポスター毎の合間にご自身の話をよくして下さったので、そのお話も伺いつつツア

一を行いました。歩きながらふと立ち止まり目を留めるポスターがあったので、後半は経済や文化など幅広いポスターを訪れました。

1組あたり3、4カ所回るのに1時間ほど時間を割き、15時半以降は一般参加者に帰宅の準備をお願いする仕事にシフトしました。

感想として、今回2組とも生物に興味を持たれていたことは、自分の専門が生態学であったことや医療関係の出展が多かった点から、幸いだったと感じます。ツアーとしてもまとまりが出来ましたし、個人的にも勉強になり楽しかったです。自分の専門についても質問して下さったのは、趣旨には反するかもしれませんが純粋に嬉しかったです。またツアーの意義としては質問の補助というよりは、ポスターの移動間に前の内容のラップアップを行う話し相手になったり、中高の学習内容と先端研究の知識の穴埋めを補助したりする役割が担えたと思います。

地球環境学舎 修士2年 原田真実

2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話（サイエンスカフェ）

■ 2-2-1. 概要

日時 9月18日（日曜日）10時30分～12時00分／13時30分～15時00分

会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話（サイエンスカフェ）」では、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と大学の研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には3帖の畳から成る4つのちゃぶ台ブースが設置され、10時30分から12時00分の間に4つ、13時30分から15時00分の間に4つ、計8つの研究者／グループが対話に臨みました。各研究グループは、どんな研究を行っているのか、なぜその研究をすることになったのか、などを来場者と語り合いました。

本企画でも、学生サポーターが案内役を務めました。



■ 2-2-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名 (所属)	出展タイトル
9月18日(日) 10:30~12:00	北川進 (物質一細胞統合システム拠点)	「ナノ空間の世界と化学」
	坂出健 (大学院経済学研究科)	「国際政治経済学への招待状」
	中野伸一 (生態学研究センター)	「琵琶湖にひそむちよっと変わった食物連鎖」
	和田敬仁 (大学院医学研究科)	「いのちのバトン—ヒト遺伝を考えよう」
9月18日(日) 13:30~15:00	榊茂好 (福井謙一記念研究センター)	「自動車触媒とコンピュータ計算化学」
	鈴木晶子 (大学院教育学研究科)	「人工知能は社会や学校をどう変えるか」
	梁雪峰 (大学院情報学研究科)	「写真からあなたの気分が分かる (かも)」
	谷垣実 (原子炉実験所)	「福島を見守る「目」」

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」レポート1

今回ちゃぶ台コーナーは二部 (10:30-12:00、13:30-15:00) に分かれていて、私は後半のちゃぶ台コーナーを担当しました。

福島を見守る「目」(原子炉実験所 谷垣実 助教)

人工知能は社会や学校をどう変えるか(大学院教育学研究科 鈴木晶子 教授)

写真からあなたの気分が分かる(かも)(大学院情報学研究科 ^{リャンシューフン} 梁雪峰 准教授)

自動車触媒とコンピュータ計算化学(福井謙一記念研究センター 榊茂好 シニアリサーチフェロー(名誉教授))

後半のちゃぶ台では、以上の4つのテーマが話し合われました。先生方の発表方法はそれぞれ異なっていて、谷垣先生はPCでスライドを見せ、実験所のパンフレットなど配布資料を配り、また実際に放射線測定器を用いて市販の塩を測り、放射線が出ていることを確かめるといった方法も使用していました。梁先生はPCで英語のスライドを見せつつ英語の説明、また日本語の通訳をつけ、写真をカラープリントで二枚印刷した紙を配布し使用していました。榊先生はPCでの様々なスライドを用いて話を進め、配布資料も配っていました。鈴木先生は特に個性的で、1時間半のコーナーを三部に分け、その都度異なる議題で話を進めていく方式をとっていました。毎回参加者にはポストイットなどで事前に意見を集め、また質問も随時受け答えていく形式で議論を進めていました。今回はPCでスライドを見せながら話をする先生方が多かったです。天候不良のため大きなディスプレイを持ってくるのをあきらめた、と話す先生もいらっしゃいました。

一番人が集まったのは鈴木先生のコーナーでした。人工知能というテーマに興味を抱いた方が多かったこと、三部構成となっていて毎回異なった話をされたこと、さらに参加型の形式のため加わりやすい形式となっていたことが理由として挙げられると思います。休憩用の椅子まで引っ張り込むほど人が集まったのですが、声が届きにくい範囲にまで広がってしまったこと、また他のちゃぶ台に人が集まらない要因にもなっていたようです。一方、教授と参加者が一対一になったちゃぶ台もあり、教授も参加者の方も話を切り上げるタイミングを失い長い時間話し続けてしまうといった様子も見られました。そういう場合、途中で自分が入って他の人を呼び込んだりした結果、一対一といった状況はなくなりましたが、対処が少し遅れたことが反省点としてあります。また先生の話が理解できていない、もしくは興味を持ちづらそうにしている場合は身近な話にもっていきような質問を横から入れるなどして、参加者の方も分からないことを気軽に質問していけるような雰囲気づくりを心がけました。

今後の改善点としては、どのような話をしているのかわかるような看板かミニポスターのようなものを設置してほしいといった声を複数の先生方からいただきました。そうすることで途中から来られた方も話に加わりやすく、また人込みになかなか入っていけない方も概要をつかむことができる、さらに研究者の方もそれを示しながら大勢の人に説明することができるという利点があるとおっしゃっていました。また午前と午後で分けてしまうとその研究者の方の研究内容は半日しか公表されないことになってしまうので、その点でもポスターのようなものを設置することはより広い周知に広がり良いと思いました。また、人工知能のテーマにつきましては今回の構成や意見交換のやり方は座談会のものに近く、さらに人々の興味を引き付ける話題でもあるので、ちゃぶ台ではなく座談会で行われるほうがより適しているのではと思いました。またどうしても人数が増えてくると、周囲のポスター発表の声にまぎれ、声が聞こえにくいという点に関して、会場の真ん中ではなくはじの方でやってはどうか（ポスターコーナーと分ける）、などという意見もありましたが、そうすると人目につきにくく人が集まりにくいという問題も考えられるので、検討が必要です。

悪天候にも関わらず多くの来場者にお越しいただき、みなさん興味深そうに研究者の方々とお話をしてくださいました。いかに自分の研究を他者へ伝えるか、という点について自分自身も大変勉強になりました。有難うございました。

農学部 4年 楊木萌

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」レポート2

担当は午後の1時半から3時。今回は雨の日ということもあり、どのちゃぶ台も十分に話を聞くことが出来たようであった。

3つのちゃぶ台があったが、どのちゃぶ台も特徴があったので、一つ一つ様子を紹介していきたい。

一つ目は、教育学研究科のちゃぶ台が一番最初の時間で、先生が大きな声で、人かけをし、席を増補するなどして、10数人ぐらい集め、終盤には研究内容についての意見を聞いていた。

その後、院生の方が順次担当し、30分ごとに区切っており、一般の方とのやり取りが目立ったちゃぶ台であった。

二つ目は、情報学研究科のちゃぶ台。先生がコンピューターを用いて、説明というより研究を語っているような雰囲気、熱心に話をしている方が多く40分以上話をしていたので、様子を伺うと英語で話をしており、お互いにどのタイミングで区切りをつけるかに困っていたようにも見えた。先生の画面の説明の様子からは、その内容への思いが強いことが伝わってくるようで、聞いている方は時間を忘れて画面を見ていた。

三つ目は、福井謙一記念研究センターのちゃぶ台。こちらも先生がコンピューターを用いており、研究内容を相手の様子を見ながら間をおいて話していた。3, 4, 50代の男性が聞きに来られ、理解したい様子で、お互いに疑問点を確認しながら話をしているようで、30分以上話しているのも見られた。

ちゃぶ台での発表は、座ることが出来るため、落ち着いて深く話をすることが出来る一方で、つい長くなったりなど、聞きたい方もどのタイミングで座っていいのか、様々な対応が必要になるので、難しい面もあるようだった。京都大学アカデミックデイでは細かな時間分けはしていないので、今後のちゃぶ台では、出展者側に人数を増やしたり、事前にどういう状況になりやすいか知らせておくと、出展者にとっても有意義な時間であると思った。

理学部 4年 降旗大岳

2-3. お茶を片手に座談会（トークライブ／展示）

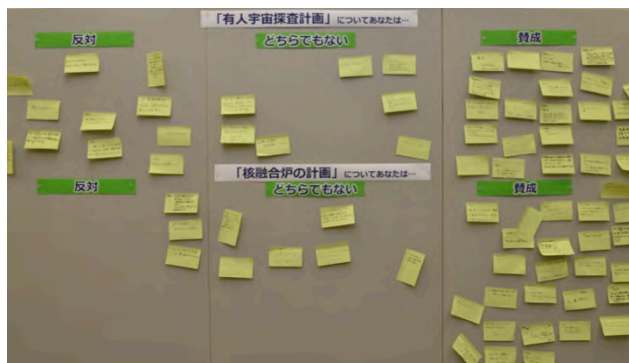
2-3-1. 概要

日時 9月18日（日曜日） トークライブ：13時00分～14時30分

展示：10時00分～16時00分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室IV

一つのテーマに沿ってみんなで語り合うトークライブ「お茶を片手に座談会」。今回は、巨額な費用を必要とする「巨大科学」を俎上に乗せました。宇宙科学やエネルギー科学、iPS細胞研究など、巨大科学を進めるには「カネの壁」「理解の壁」「分野間の壁」「文明の壁」などいくつかの「壁」が存在します。これからも日本は、いや人類は、巨大科学を進め続けられるのか。または巨大科学は駆逐されていくのか。京都大学からは核融合が専門の笠田准教授、哲学が専門の呉羽研究員が登壇、巨大科学のあり方について、フロアも巻き込んでの白熱した議論が交わされました。また、関連ポスター、模型、資料を展示し、座談会の前後にご覧いただけるコーナーを設けました。



■ 2-3-2. トークテーマ・参加者一覧

● テーマ 「進撃の巨大科学」

日時 9月18日（日曜日）13時00分～14時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室IV

登壇者 笠田竜太（エネルギー工学研究所 准教授）
呉羽真（宇宙総合学研究ユニット 特定研究員）
塩瀬隆之（総合博物館 准教授）

司会 吉岡佐知子（学術研究支援室 リサーチ・アドミニストレーター）





「お茶を片手に座談会」レポート

今年の座談会テーマは「進撃の巨大科学」。2013年にアニメが話題となった「進撃の巨人」をもじったネーミングは特に高校生・大学生層に受けていたように思います。来場者も昨年度に比べると若い世代が多く見受けられました。

午前中は展示のコーナー。登壇者の笠田先生がフランスに建設中のITERのレゴ模型を持ってきてくださり、その写真をTwitterに投稿すると興味を持った方々が続々と見に来てくださいました。レゴ模型が呼び水にもなり、登壇者の方々が用意してくださったポスターを見て、巨大科学への意見を付箋に書いていただくこともできました。座談会の前に、ある程度来場者がどのようなことに疑問を抱いているのか、興味を持っているのか登壇者の方も知ることができ、座談会に良い効果を与えられたのではないのでしょうか。

そして13時から座談会が始まりました。会場は椅子が足りなくなるほどの大盛況となりました。来場された方から順に付箋とペンをお渡ししていましたが、特にペンが途中で足りなくなり、京都大学アカデミックデイ会場全体からかき集めていただくことになりました。この状況にはスタッフの僕もびっくりしました。

まず笠田先生と呉羽先生から、巨大科学や、それぞれのご専門である核融合や宇宙科学に関するレクチャーをしていただきました。笠田先生はプレゼンの表紙をアニメのロゴ風にしてその場を盛り上げてくださるとともに、核融合実現への熱い思いを伝えていただきました。呉羽先生は宇宙科学研究の一端にいらながらも自分が哲学者であるという立場から、一般の方々の視点を意識した説明をいただきました。

その後、来場者に意見を書いた付箋を貼ってもらい、それを元に来場者を巻き込んだ議論を行いました。意見としては「(核融合・宇宙科学に)賛成」という意見が多数を占めていましたが、否定側の意見もうまく拾えていて、充実した議論になっていました。昨年よりも、来場者の方からの発言が多くなっていたように思いました。

全体として、途中退席する来場者もほとんど見られず、満足度の高い座談会であったと思います。Twitter上や、他のウェブマガジン等でも、「わかりやすかった!」といった感想が挙げられていました。ただ個人的には、例えば「1万円あったらどちらに何円投資しますか?」という問いかけをするなど、一般の方々が“もし自分だったら”、という視点を持つ機会を用意できれば、より科学を身近に感じられる、よりオープンサイエンスな場になったのではないかと、思います。来年度も、研究者と一般の方々が膝を突き合わせて、今年度よりもっと深く議論できる場ができたらいいなと、期待しております!

農学部4年 伊左治俊策

2-4. 研究者の本棚（特設図書館）

■ 2-4-1. 概要

日時 9月18日（日曜日）10時00分～17時00分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、その本と、本を選んだコメントを紹介・展示しました。来場者が本を手にとり、本から研究者のことを知り、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。

※本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。

協力：京都大学生生活協同組合



「研究者の本棚」レポート

「研究者の本棚」コーナーは、出展される研究者の方それぞれに「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」を募集し、来場者に書籍を紹介するものです。今年も学術書から小説、漫画までさまざまな本が本棚に並びました。研究者の方にも本棚コーナーの趣旨を理解していただいております、こうして多様な書籍が並ぶことで来場者の興味を大いに惹くことに成功していると、今年の様子を見て改めて思いました。

午前中の来場者はさほど多くなく、数人ほどが出入りする程度でしたが、午後以降は徐々に顔を出す人も増えました。ピークはメイン会場の一般公開が終了する16時以降で、室内は立ち読みする人や椅子に座って本を読む人でいっぱいになりました。ただ、このコーナーの趣旨を考えると一般公開中の来場者数がやや少なかったように感じます。もちろん研究者と来場者が直接対話することが大事です。しかしメイン会場でも本棚コーナーの宣伝を積極的にしていくことで来場者の方に本棚へ足を運んでいただければ、研究者の方々、またその研究内容をより身近に感じていただけるのではないのでしょうか。

工学部4年 吉田雄介

■ 2-4-2. 関連企画

京都大学アカデミックデイ参加研究者のお勧めの本について、他の施設でも特設コーナーが設置されました。

● 附属図書館

京都大学アカデミックデイ 2016 開催前後の9月8日から10月31日にかけて約2ヶ月間、附属図書館1階ラーニング・コモンズ内にて、京都大学アカデミックデイ参加研究者がセレクトした本のうち、「若者にお勧めしたい本」と「自分の研究に関連して紹介したい本」から約40点をレビューとともに展示しました。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1371966>



● 京大生協ショッフルネ（書籍コーナー）

京都大学アカデミックデイ 2016 開催前の9月1日から9月17日にかけての約2週間、ショッフルネ一階イベントスペース展示にて「研究者の本棚」が再現され、展示されていた本の販売が行われました。



2-5. 対話マラソンのための給水ポイント（ドリンクコーナー）

■ 概要

日時 9月18日（日曜日）10時00分～15時30分
会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

京都大学アカデミックデイでは、コーヒーやお茶を提供するドリンクコーナーを用意しました。このコーナーには、「好きなお飲物を片手に、対話の場へお戻りください」と記したサインを置きました。昼のコーナーやトークライブでは、飲み物も楽しみながら、来場者と研究者が対話をする場面が見られました。



3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい


京都大学アカデミックデイでは、来場者のみなさまに2種類のアンケートにご協力いただきました。

1種類目は、「対話マラソンのための給水ポイント（ドリンクコーナー）」でお使いいただいた「ドリンクと交換アンケート」。「京都大学アカデミックデイ」をどこで知ったのか？ どのような方にお越しいただいたのか？ を主催者が知ることがこのアンケートの目的でした。

もう1種類は、お帰りの際にご協力いただいた「記念品と交換アンケート」です。「京都大学アカデミックデイ」の満足度や研究者との対話で印象に残ったことなどをご記入いただきました。



● ドリンクと交換アンケート (A5 サイズ : 148×210mm)



京都大学アカデミックデイ 2016

ドリンクと交換アンケート

早めに記入!

以下のアンケートにご記入いただくと、「対話マラソンのための給水ポイント」(カフェコーナー)でご使用いただけるドリンクチケットになります。15:30までにカフェコーナーにお持ちください。ドリンクチケットと交換させていただきます。
※15:30を過ぎてもアンケートは受付にて回収しておりますので、ぜひご記入ください

2016.9.18

Q 1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催を最初にどこで知りましたか？
 ポスター・チラシを見て ① 高校 ② 京都大学 ③ その他の大学(大学名:)
 ④ 地下鉄 ⑤ 市バス ⑥ その他の公共施設(施設名:)
 ⑧ 新聞記事(紙名:) ⑨ 雑誌 ⑩ ラジオ
 ⑪ 京都大学ホームページ ⑫ ツイッター、フェイスブック
 ⑬ メーリングリスト、メルマガ
 ⑭ 「京都大学アカデミックデイ」関係者・出展者からの紹介
 ⑮ 会場に来て初めて知った(a. 当日配布チラシを見て b. 時計台に来て)
 ⑯ その他()

Q 2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？(複数回答可)
 ① 春秋講義 ② 京大ウィーク ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ
 ⑤ 京都大学アカデミックデイ(過去 回参加)

Q 3. 京都大学ホームページや京都大学Facebookサイトを閲覧されたことはありますか？
 ① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない


Q 4. 科学・技術に関心がありますか？
 ① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない
 ④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q 5. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？
 ① はい ② いいえ ③ わからない

Q 6. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？
 ① 見つめられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
 ② 見つめられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
 ③ 見つめられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つめられない。
 ④ わからない

Q 7. ご自身について教えてください。
 ① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生
 ⑦ 京大教員・研究者(年齢 代) ⑧ 京大職員(年齢 代) ⑨ その他(ご職業、年齢 代)

Q 8. お住まいの都道府県はどちらですか。
 ① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他(都・道・府・県)


Dialog with the Public

ご協力、ありがとうございました。

● ドリンクチケット (名刺サイズ : 55×91mm)

何度でも使える


ドリンクチケット



*対話マラソンのための給水ポイント
(カフェコーナー)で、ご提示ください

京都大学アカデミックデイ 2016

● 記念品と交換アンケート (A5 サイズ : 148×210mm)

 京都大学アカデミックデイ 2016

記念品と交換アンケート 帰る前に記入!

以下のアンケートにご記入の上、受付までお持ちください。京都大学アカデミックデイ特製ボールペンを差し上げます。※品切れの場合はご容赦ください

2016.9.18

本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。


Q1. 本日の「京都大学アカデミックデイ」は、総合的にみて満足できましたか？
最も近いものを1つだけお答えください。
① 満足できた ② どちらともいえない ③ 満足できなかった

Q2. 来年の「京都大学アカデミックデイ」に、また来たいと思いますか？
最も近いものを1つだけお答えください。
① そう思う ② どちらともいえない ③ そう思わない

Q3. 本日の「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？
例：「ワクワクしたで賞」、「ぼくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからも研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号(出展番号はパンフレットを参照)	賞の名前
<input type="text"/>	賞
<input type="text"/>	賞
<input type="text"/>	賞

Q4. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。
良かった点 悪かった点


ご協力、ありがとうございました。

● 記念品 (クリップボールペン)

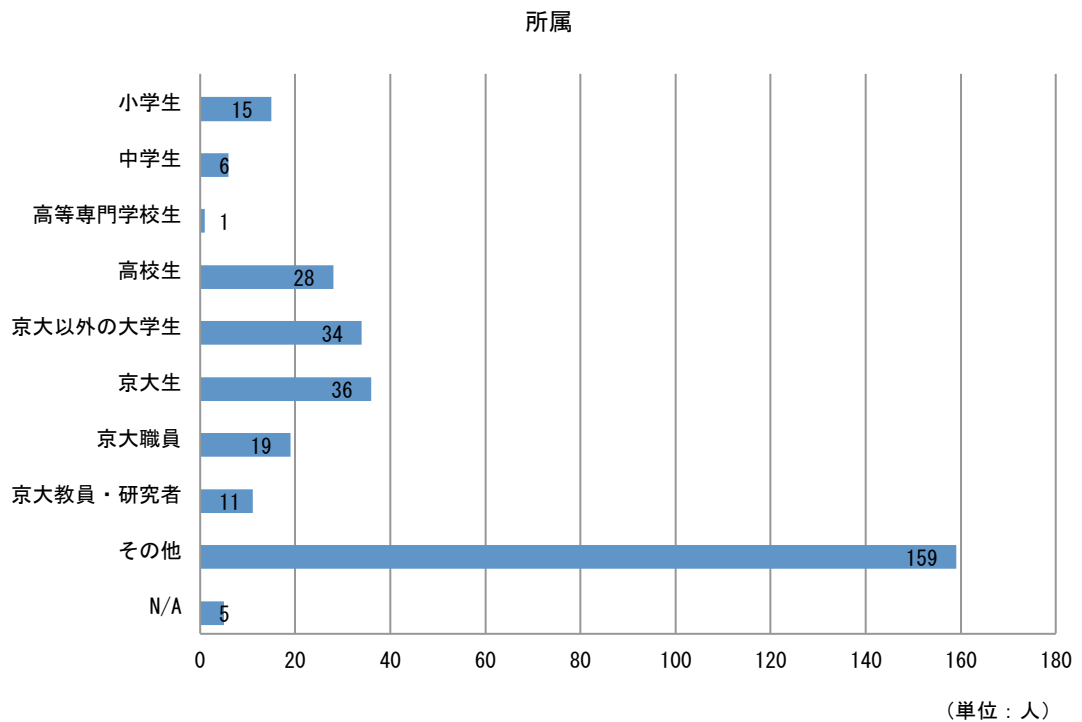
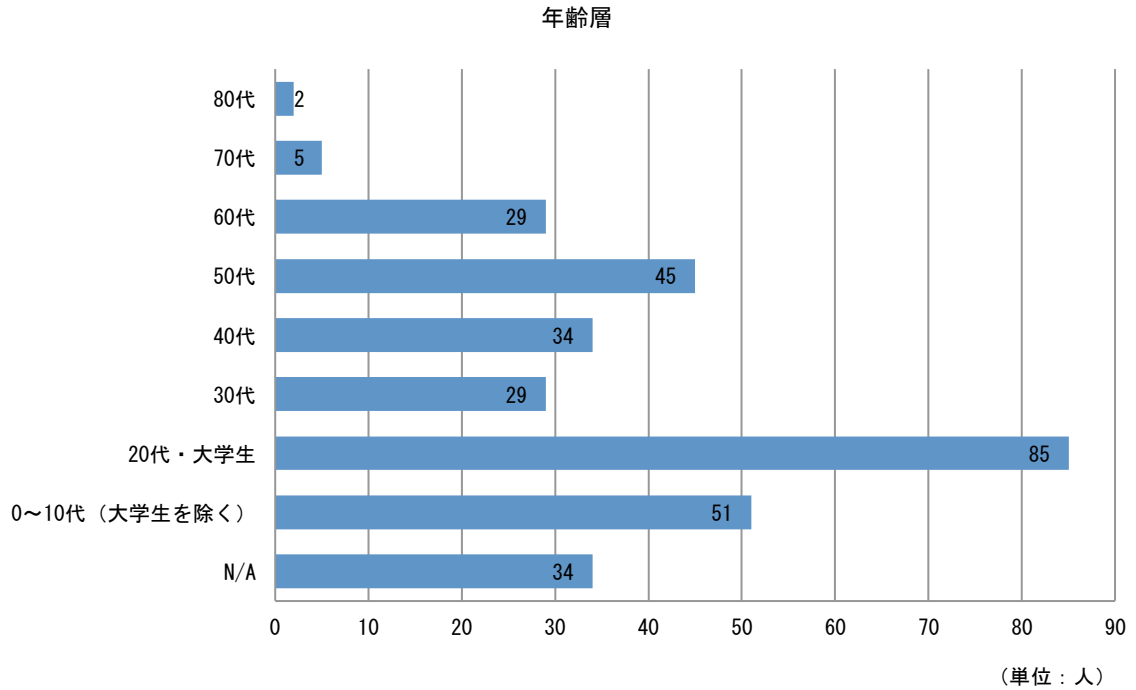


■ 3-1-2. 「ドリンクと交換アンケート」の結果

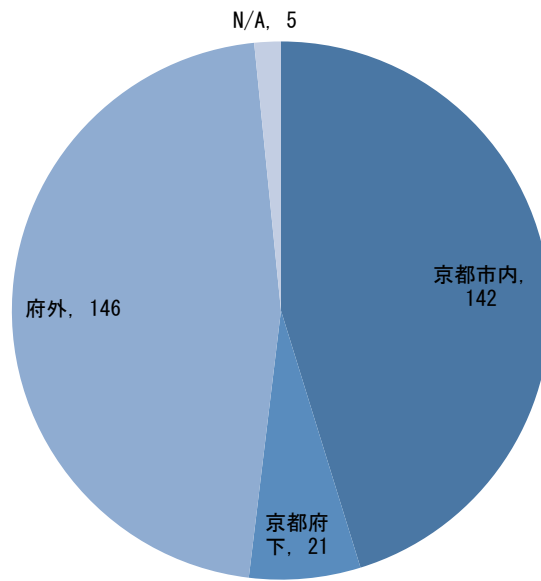
来場者 421 人

回答者数 314 人（回収率 75%）

● 来場者はどのような方だったのか？

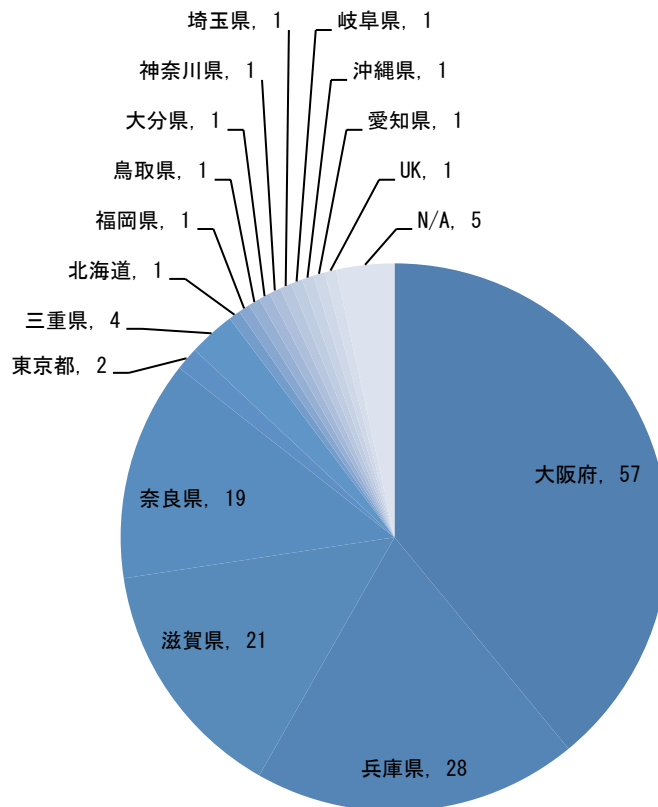


・住まい



(単位：人)

府外からの来場者内訳

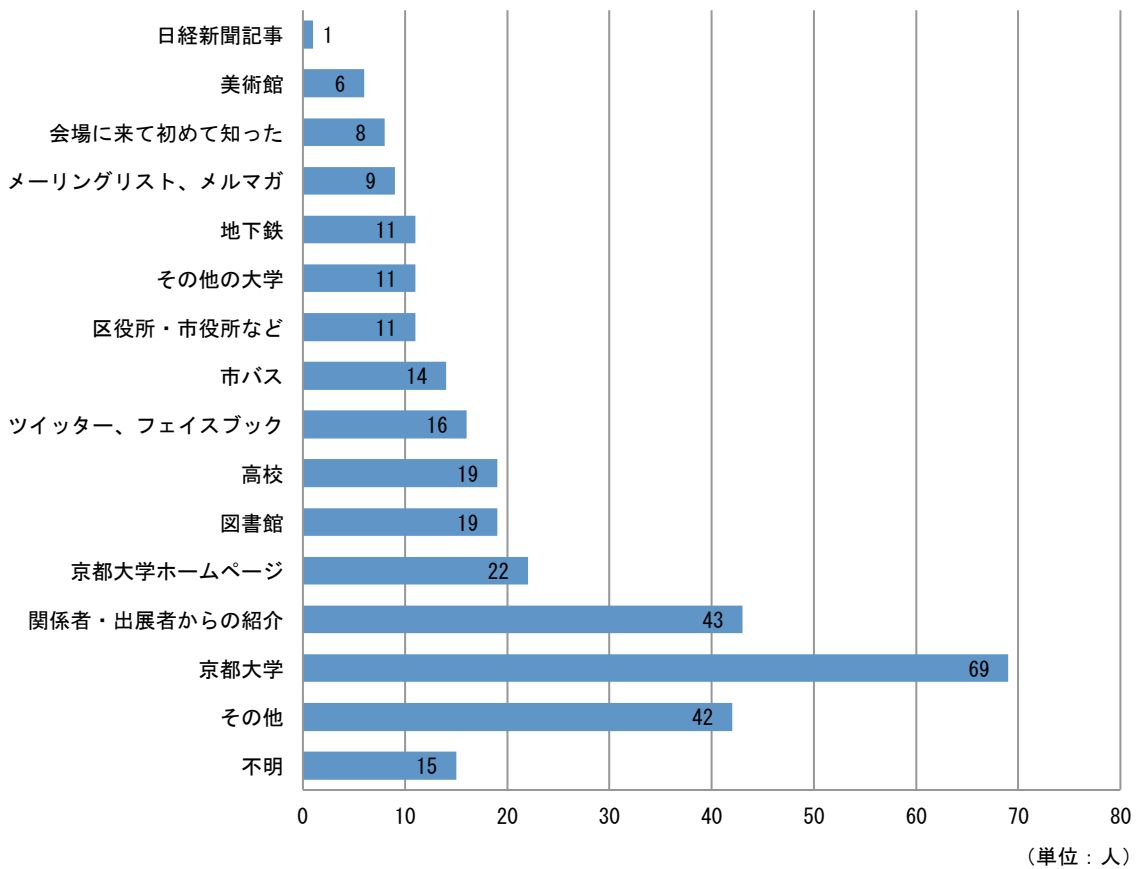


(単位：人)

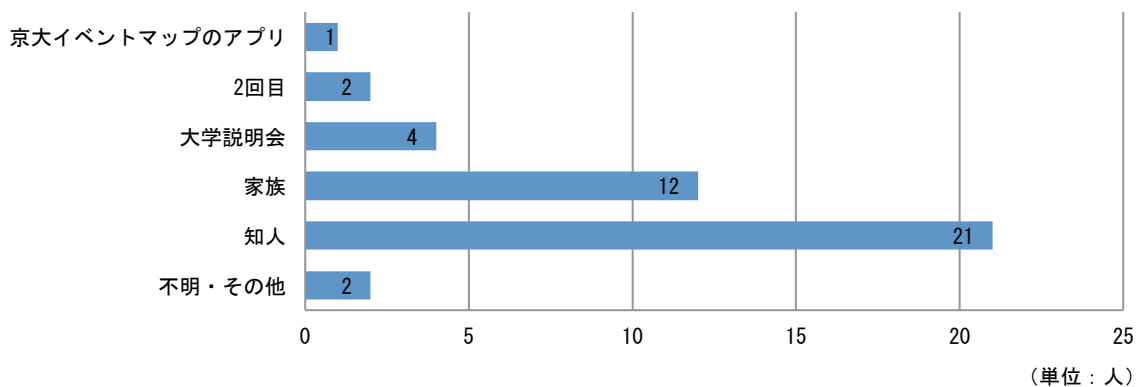
● 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

・「京都大学アカデミックデイ」の開催を知ったところ（複数回答可）

京都大学アカデミックデイの開催を知ったところ(全体)

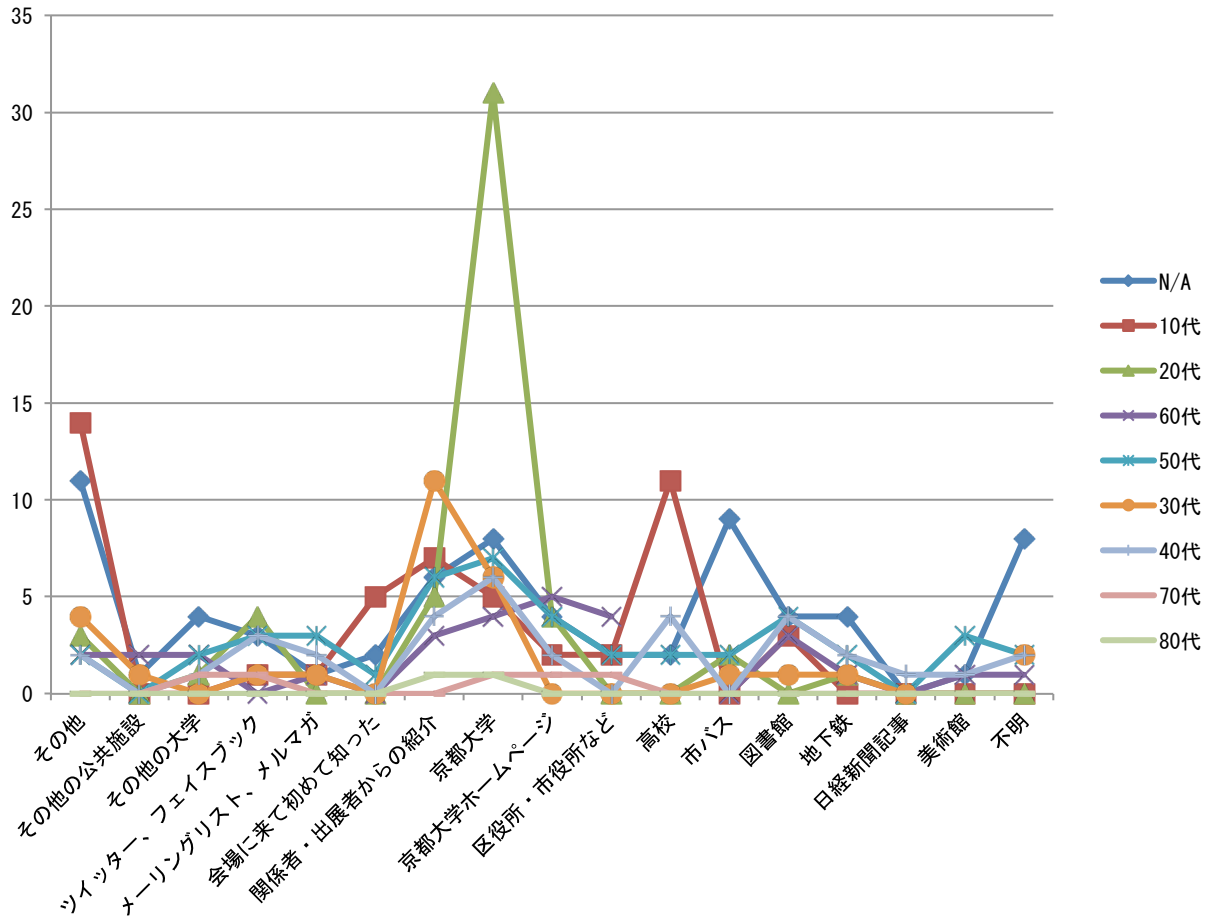


京都大学アカデミックデイの開催を知ったところ(その他の内訳)



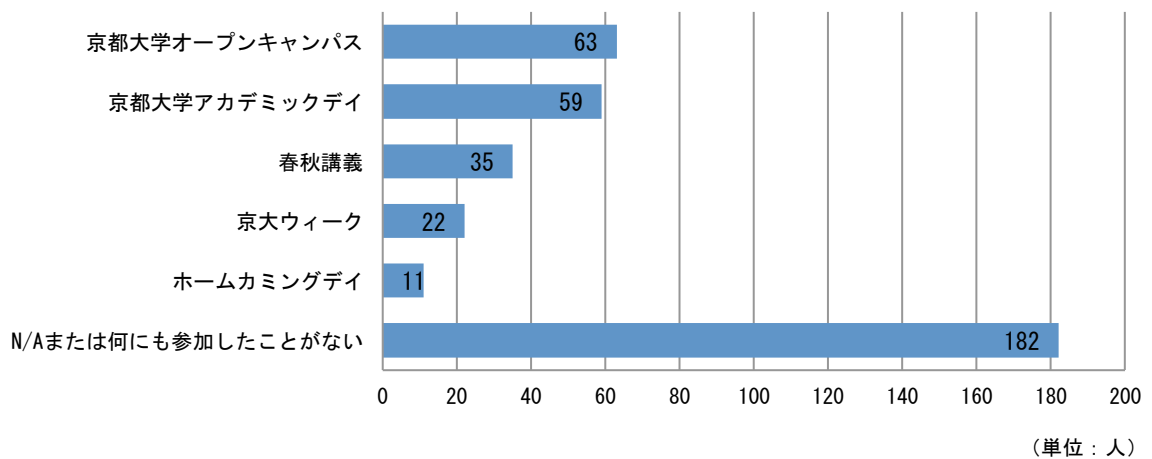
京都大学アカデミックデイの開催を知ったところ（年代別）

(単位：人)

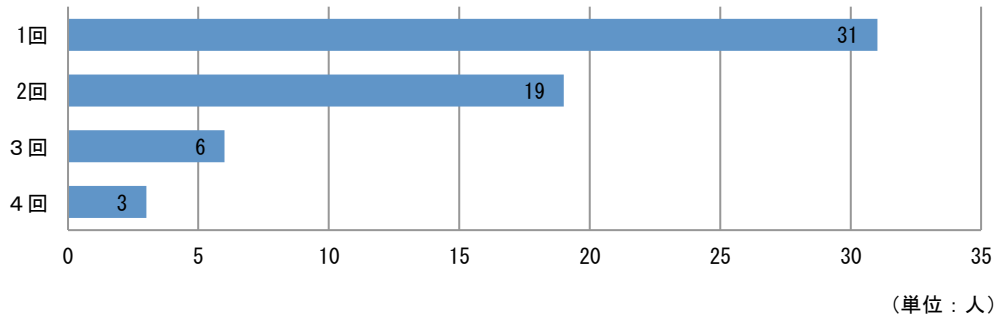


● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

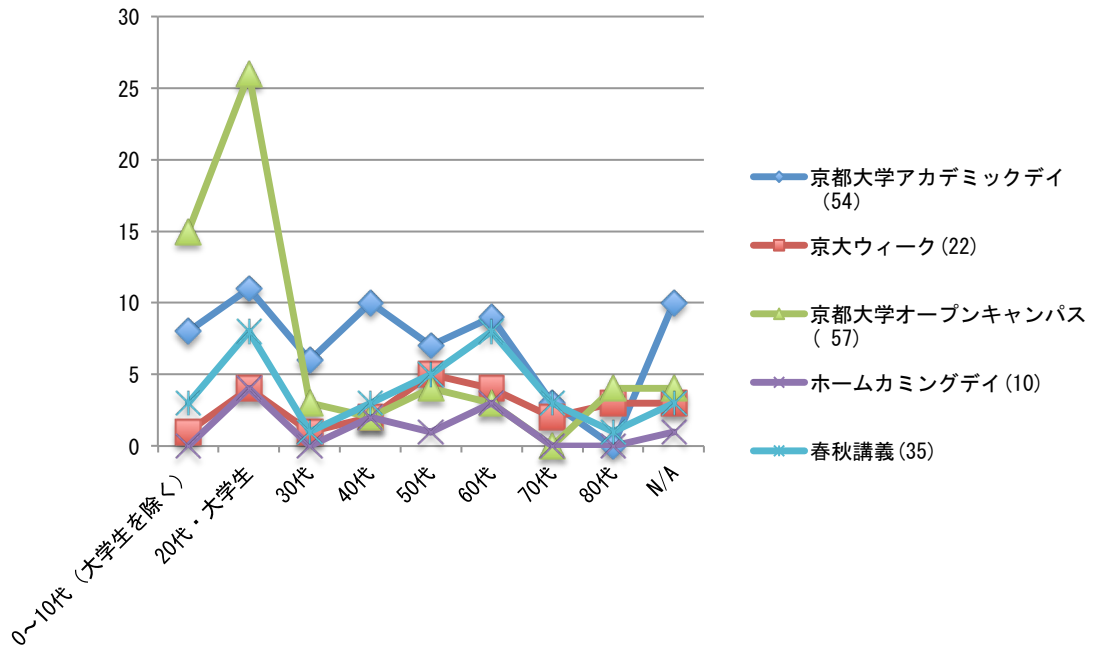
参加したことがある京都大学のイベントは何ですか？
(複数回答可)



京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？



京都大学イベント別リピーターの年齢層分布 (回答者 314 人)

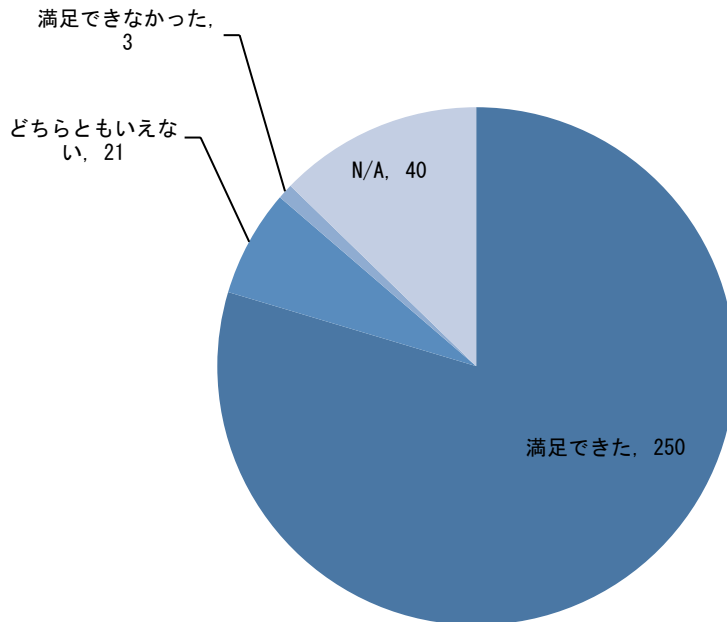


■ 3-1-3. 「記念品と交換アンケート」の結果

来場者 421 人

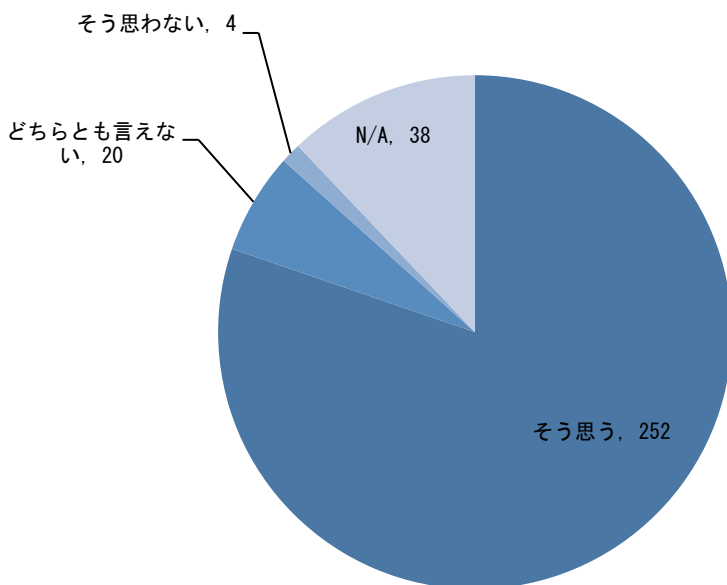
回答者数 314 人（回収率 75%）

- 本日の「京都大学アカデミックデイ」は、総合的にみて満足できましたか？



(単位：人)

- 来年の「京都大学アカデミックデイ」に、また来たいと思いますか？



(単位：人)

- 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉

- 研究者から最前線の話聞いた。(60代)
- ゆっくり説明してもらい楽しかった。
- 1学生として良い刺激だった。(20代)
- 小学生にも丁寧に説明してくれた。
- 英語対応がよかった。(50代)
- 説明が丁寧で辛抱強く対応してもらえた。(60代)
- 先生方が積極的に声をかけてくれたこと。(60代)
- いっぱいお話ができました。
- 同じ場所で同じように続けてほしい。(10代)
- 大学の研究を知るいい機会。(50代)
- 初めて来ても困らない。(10代)
- 異分野交流ができて視野が広がる。(20代)
- 高校生の研究の発表の機会とコラボして応えてくれるのは有意義で素晴らしい。(50代)
- 研究者の本棚が魅力的だった。(30代)
- 来場者が楽しめる工夫がたくさんあった点。(20代)
- 普段見えにくい研究のテーマを身近に感じることができた。(30代)
- 座談会での議論。(60代)
- ガイドツアーのおかげでスムーズに回れた。(10代)
- 研究者との距離が近くなるように工夫がされ良かった。(20代)
- 各ブースで研究者の個性が現れている点、実際に話ができる点良かった。(60代)
- どの研究者も視覚的にわかりやすく伝える工夫がされていたと思います。座談会では研究者の方の本音が聞け、大変興味深かったです。(30代)
- 時間を忘れるほど熱中してしまう分野があった。特に医学に当初拝見したいと思っていたものがなかったにもかかわらず熱中した。
- 全体的によかった。普段から学会などで発表しているが、聞く人の質がとてもよかった。(10代)
- 京大マインドを感じた。(40代)

〈悪かった点〉

- 待ち時間が長すぎた。(50代)
- 昼食をどこでとればいいのかわからなかった。(50代)
- 疲れる(立っているのが)。全研究で説明書がほしい。(10代)
- 全ブースの説明書(パンフレットなど)が欲しい。人が多いので、空間を整えて欲しい。(50代)
- ネットのタイムテーブル等の情報が分かりにくい。(40代)
- ずっと混んでいて入れないブースがあった。(10代)
- 説明員が少ない。(60代)
- 会場が狭い。(30代)
- 途中から説明を聞くのが難しい。(50代)
- 人が多いわりに会場が狭かった。(20代)
- もっと広告を出してください。去年来て面白かったので、再訪を希望してましたが、中々わからずたまたまチラシを見つけました。(60代)
- 京都市内在住だが、関係者から紹介があるまで全く知らなかった。(20代)
- 研究者の本棚のブックリストがほかのパンフレットより早くなくなっていたので来年は多めに印刷して欲しい。(20代)
- 文系がもう少し見てみたい。(20代)
- 1日しかなかったこと。(20代)
- プログラムのネーミングが悪い。実際は気ままに見て回り気になった所だけ話を聞くという形式だが、まるで親睦会のように話をする企画のように感じられ、敷居が高い。(20代)

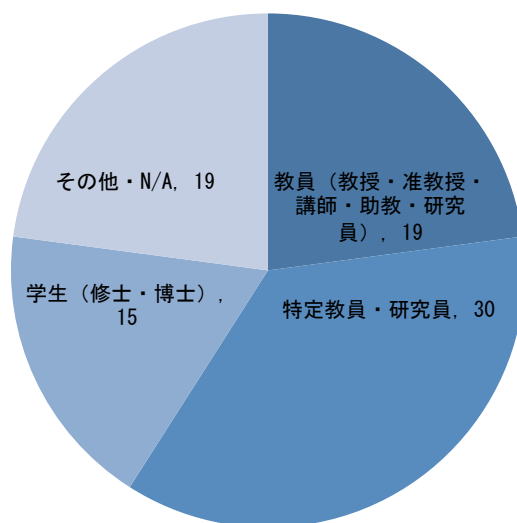
3-2. 出展者アンケート

3-2-1. アンケートの設計とねらい

「京都大学アカデミックデイ」では、京都大学の出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想、印象に残ったことをご記入いただきました。また、今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についての意見・ご提案もご記入いただきました。

回答者の属性

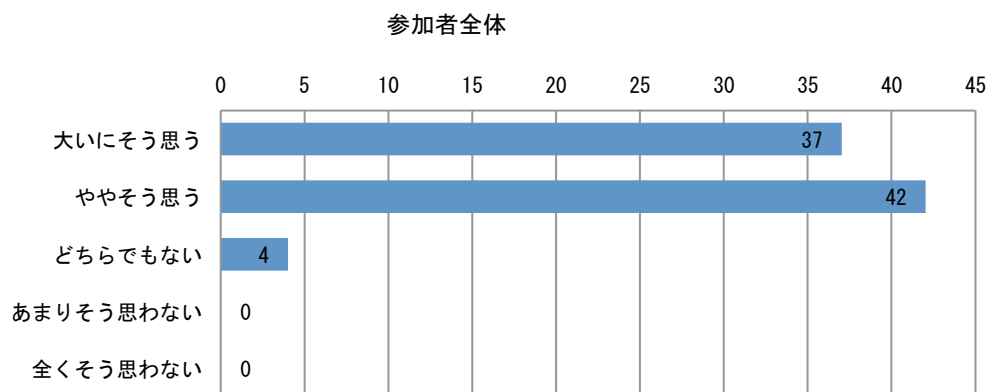
参加研究者 195名
回答者数 83名（回収率 約42%）



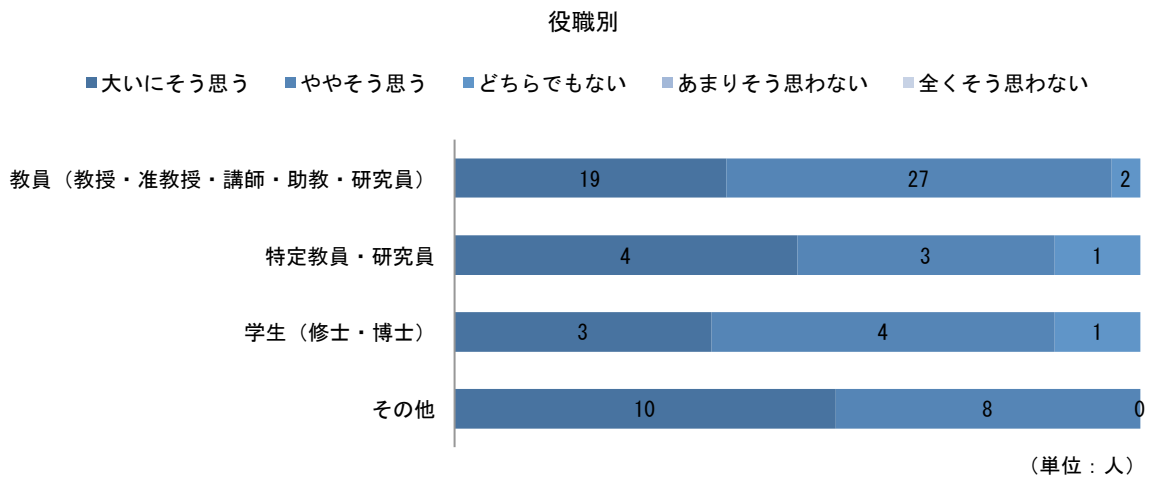
（単位：人）

● 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

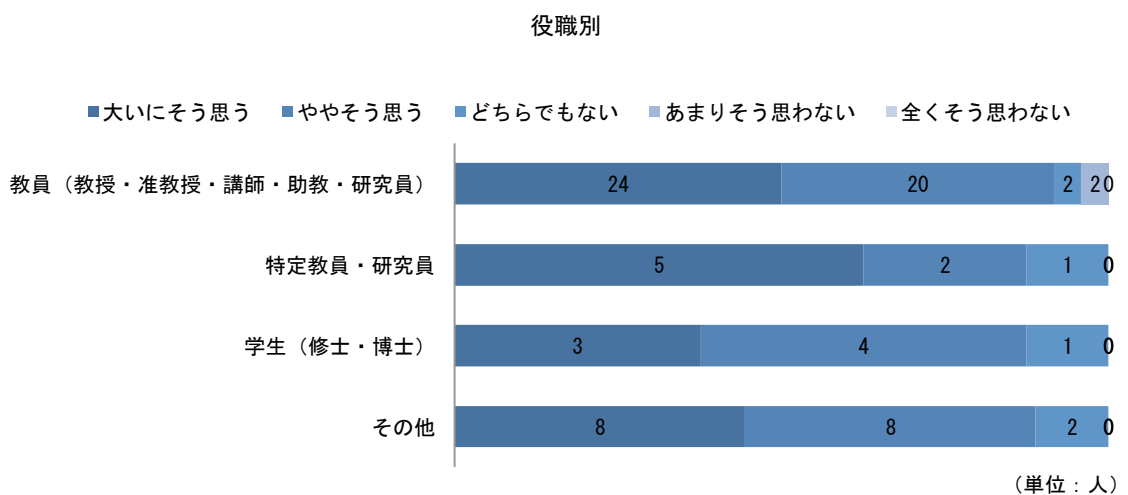
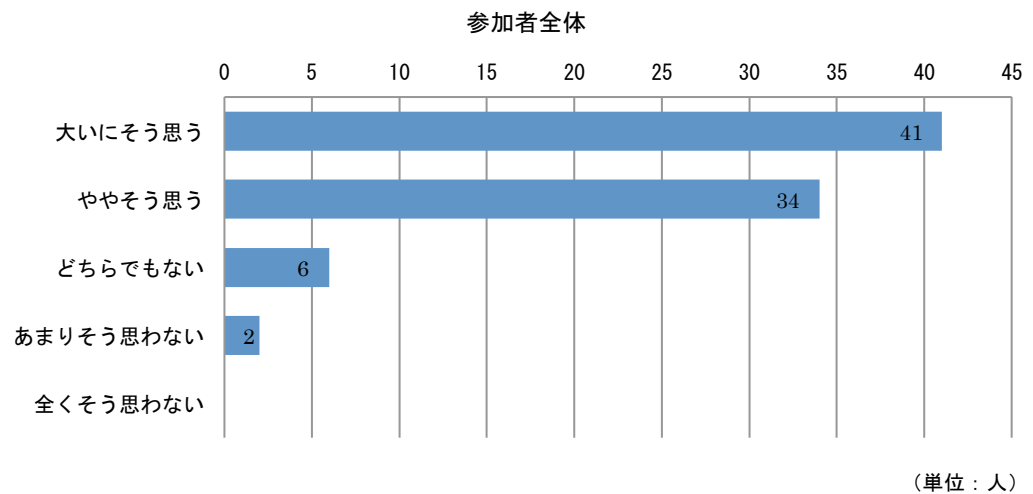
(a) 専門外の人の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた



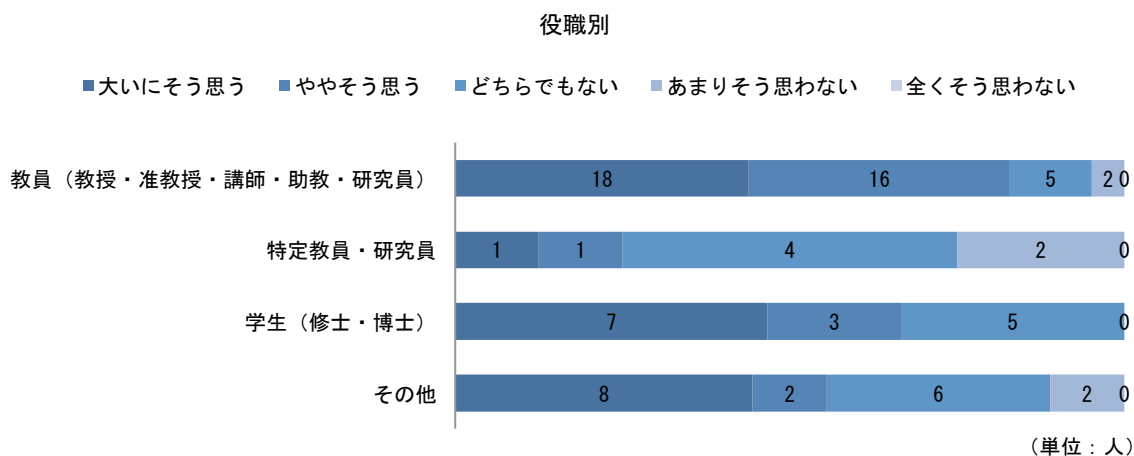
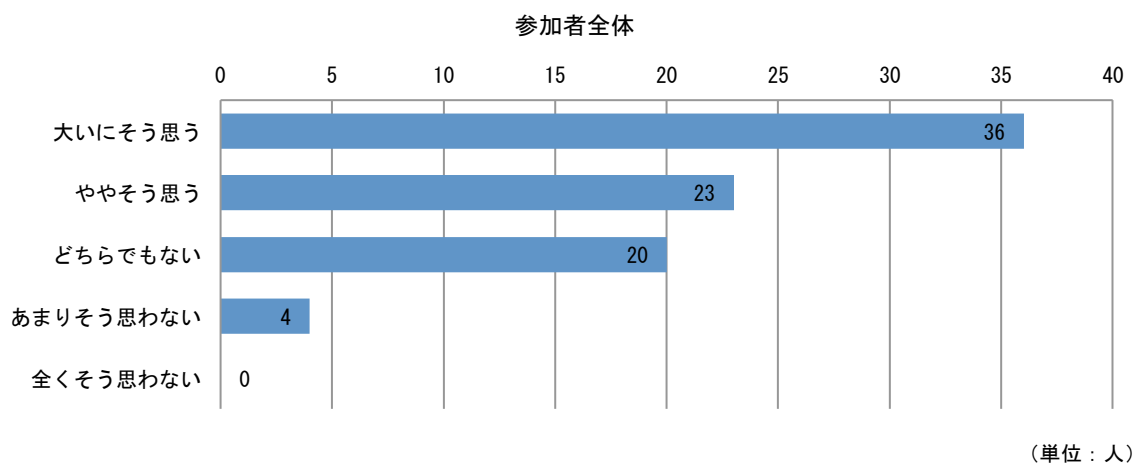
（単位：人）



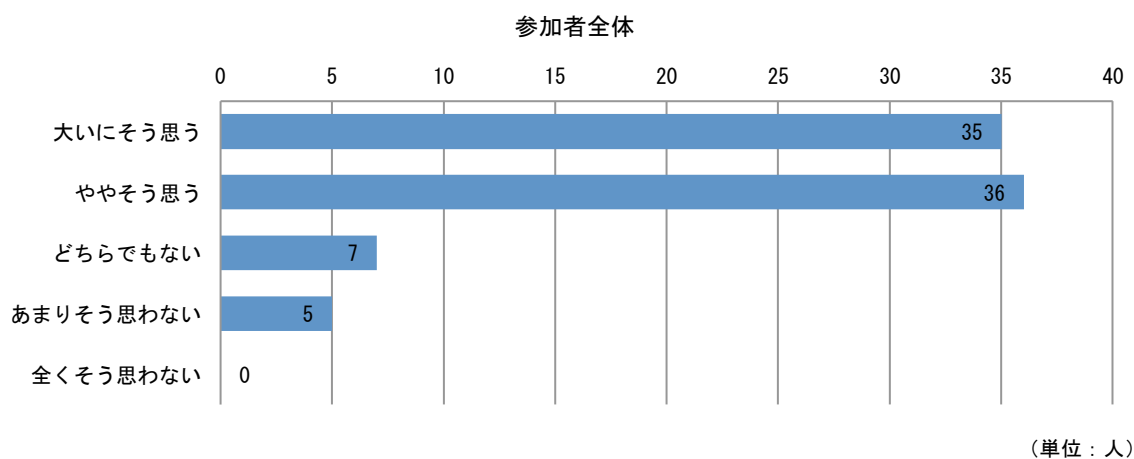
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった

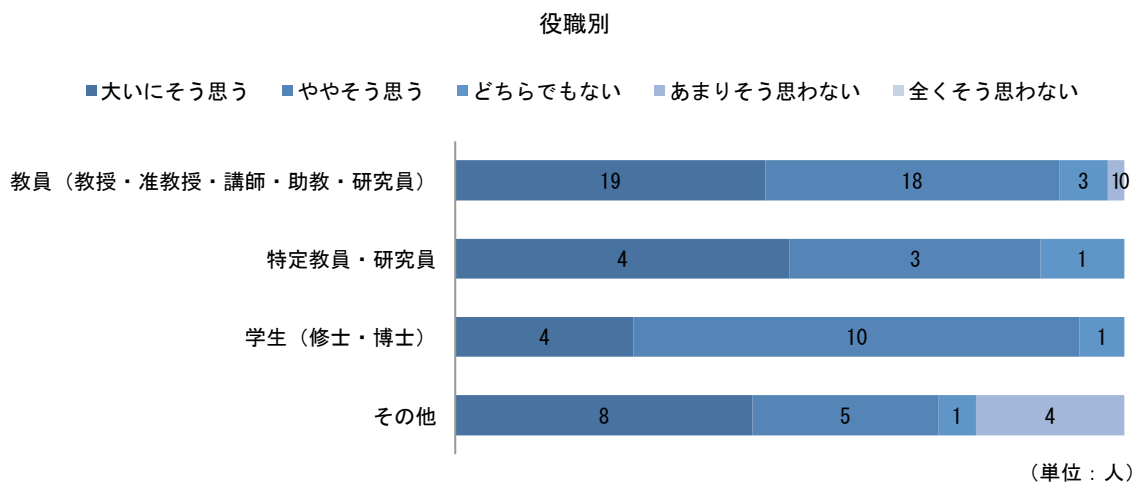


(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった

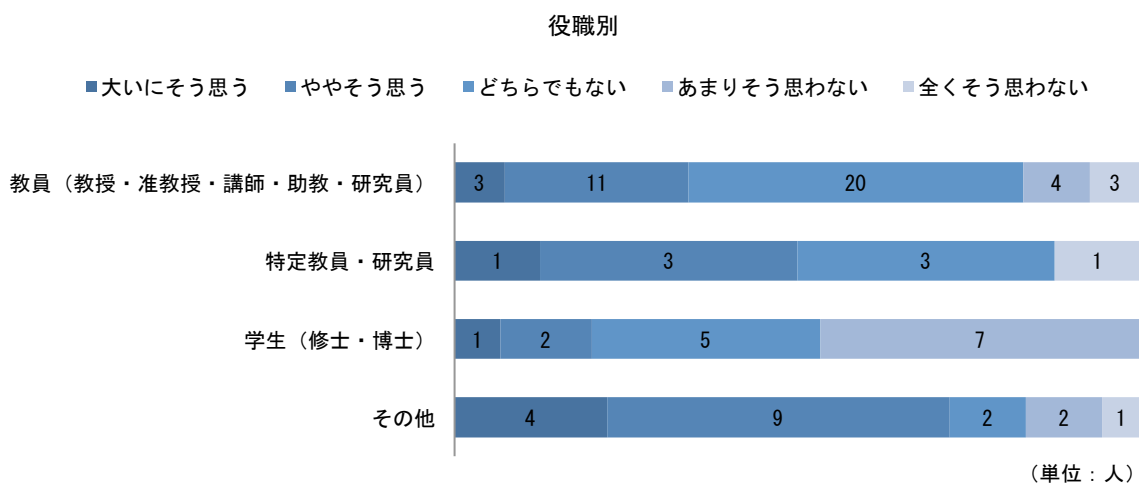
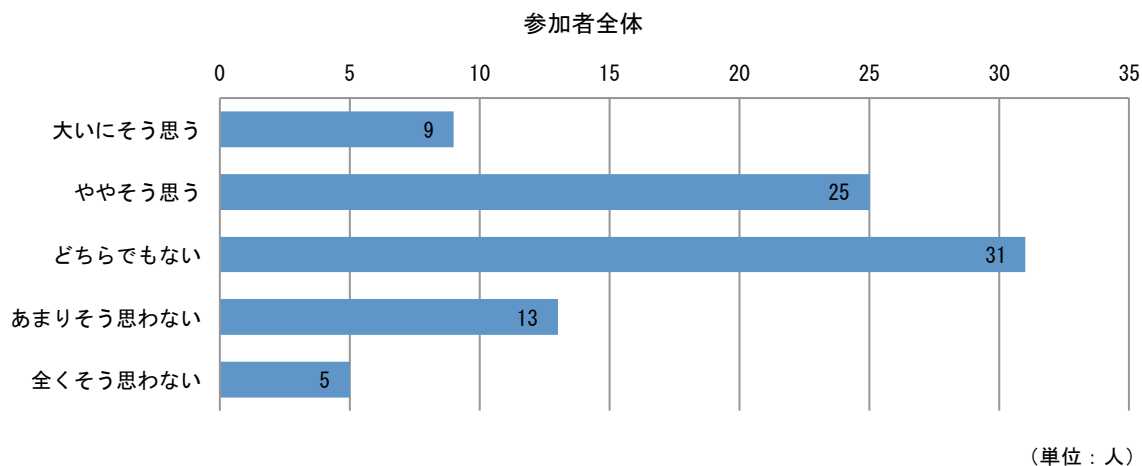


(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた

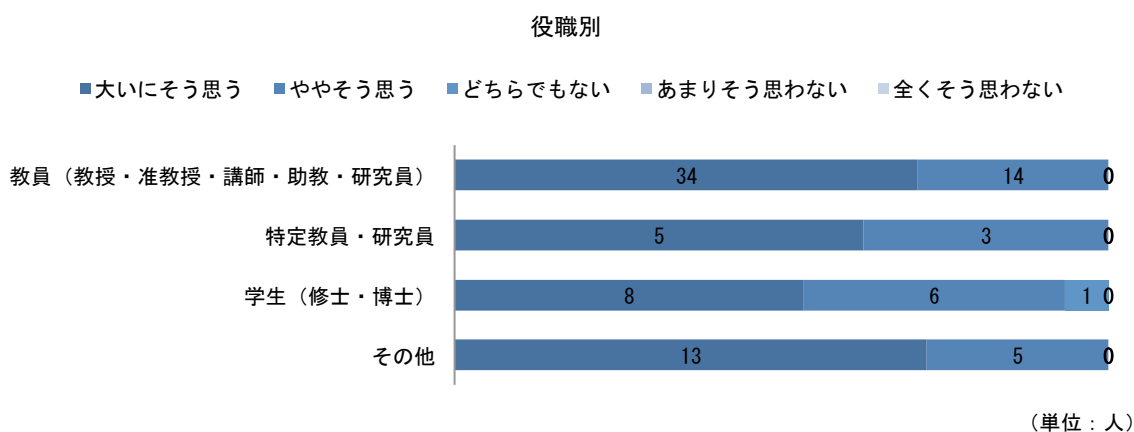
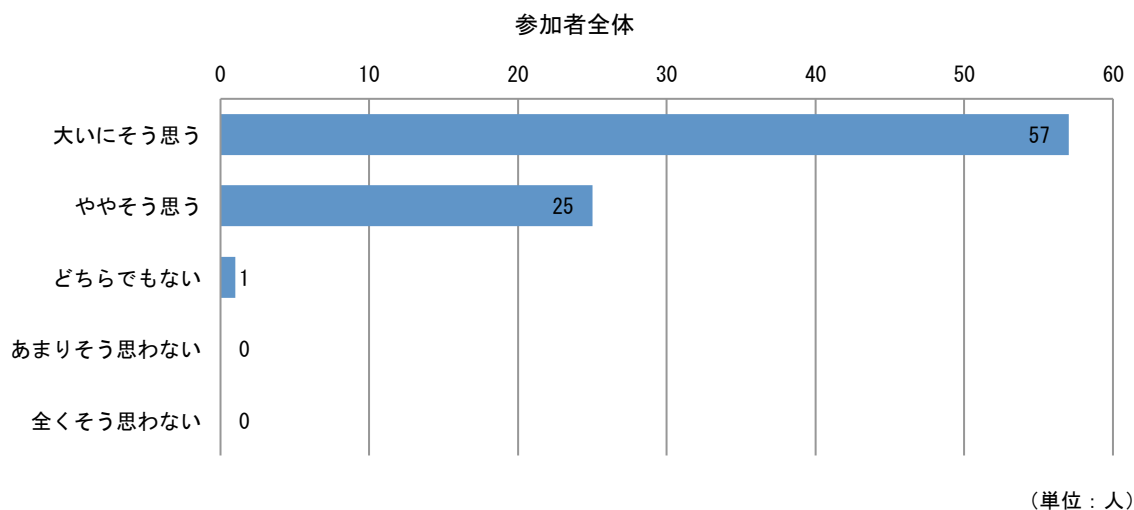




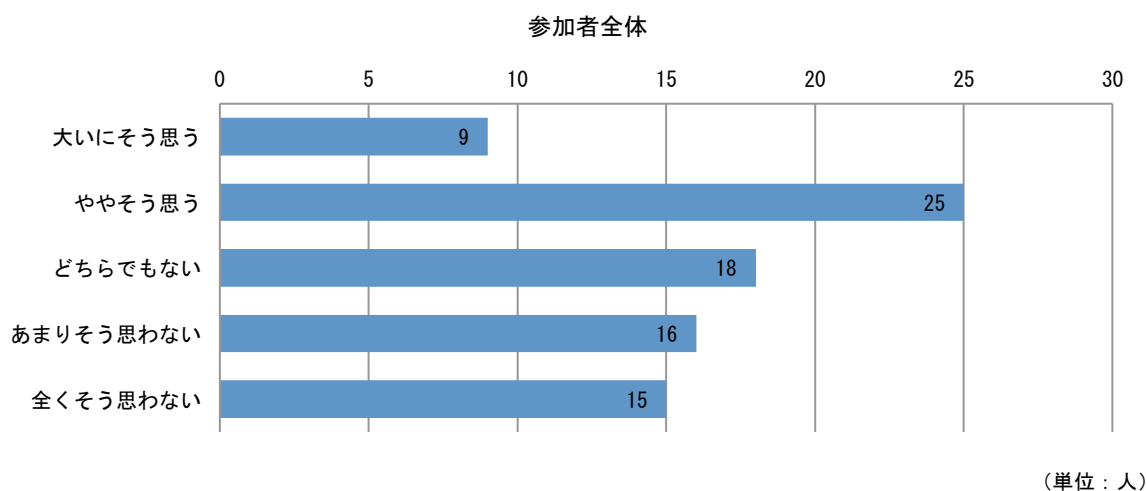
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた

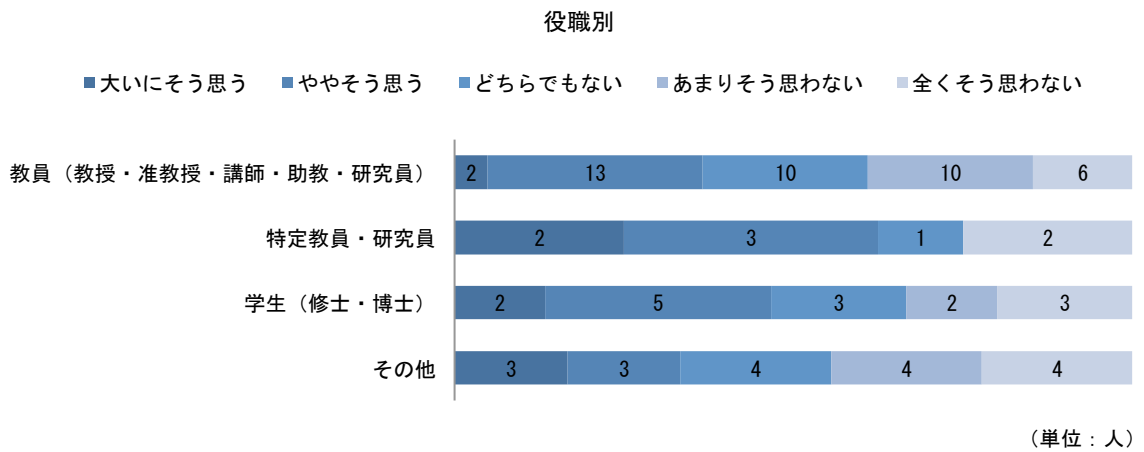


(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった

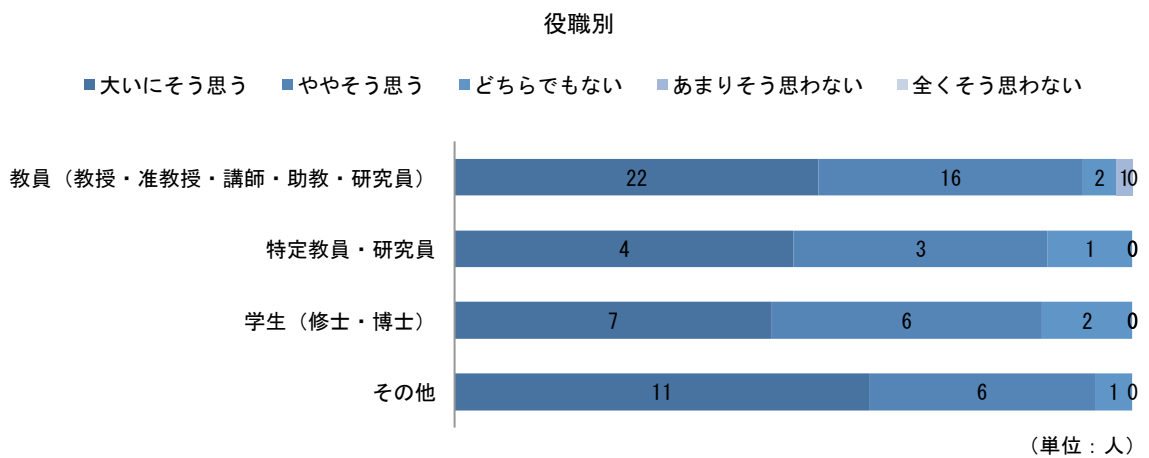
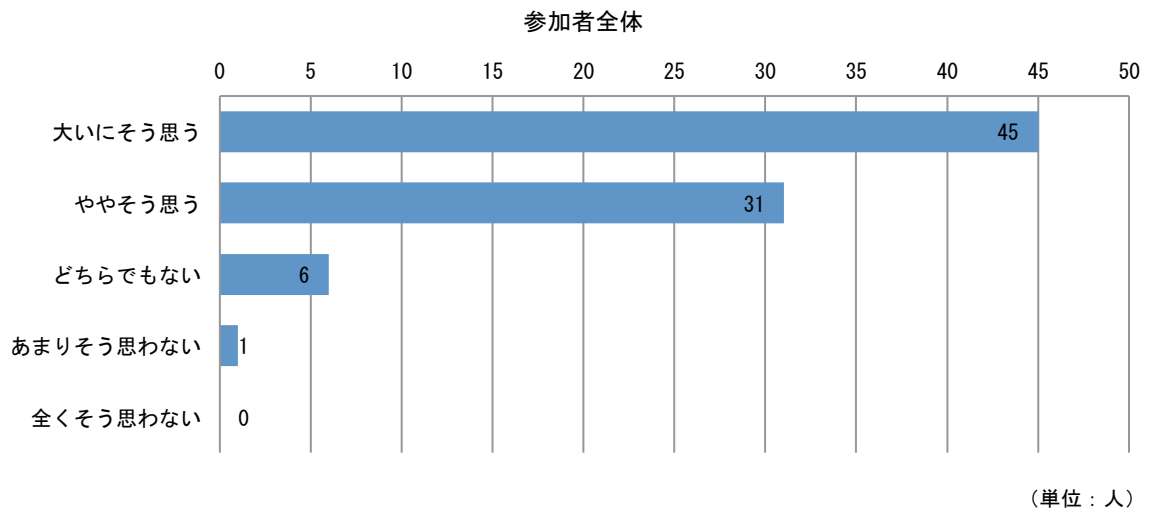


(g) 参加は日々の研究活動の負担となった

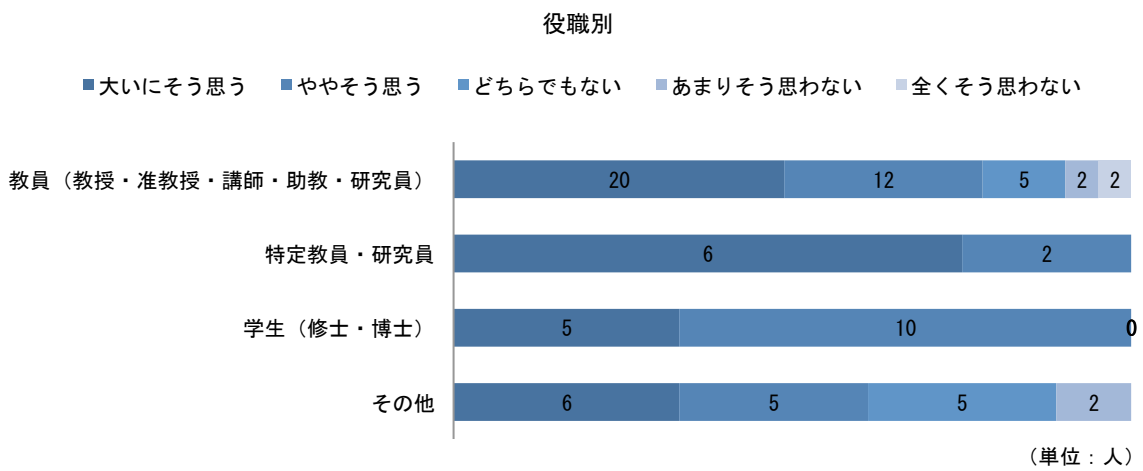
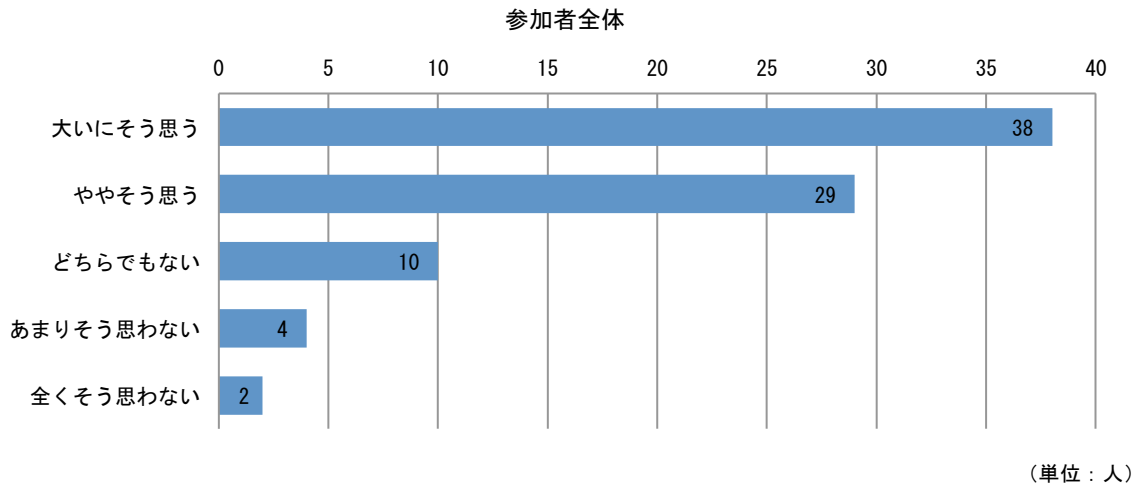




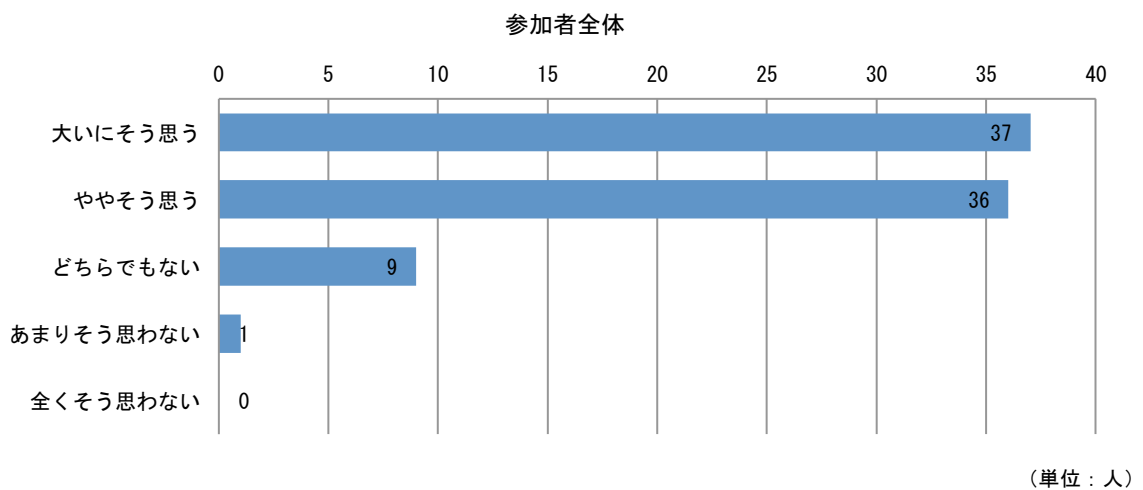
(h) 機会があればまた参加したい



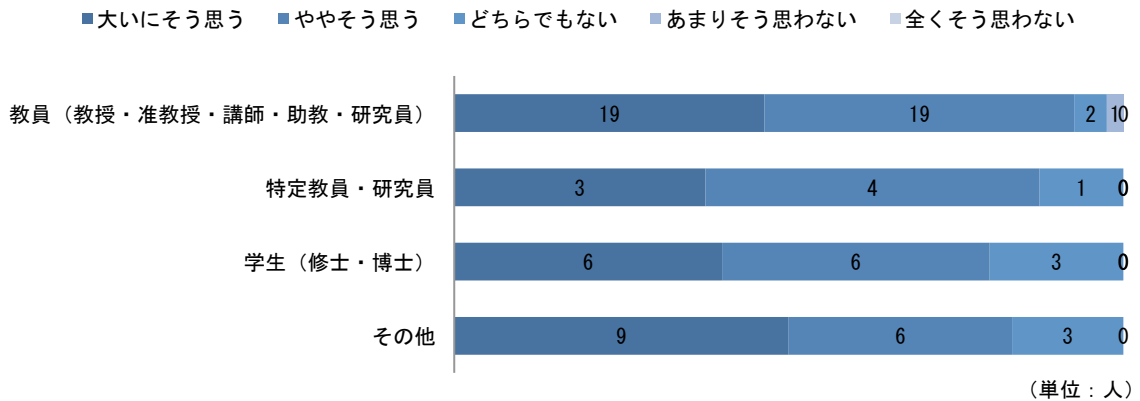
(i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



(j) 他の研究者との交流の機会になった



役職別



● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？

〈京都大学研究者の声〉

「伝える」ことに関して、困難を感じること

- 小学生（幼稚園児？）から退職された教育研究者まで、非常に幅広い層の参加者であり、相手の興味に合わせて話を作っていくのが結構大変であった。それがこのイベントの特徴でしょうか。（理工学系）
- 話に少しでも隙があればそこをついてくるのは当然ですが初参加でしたから少し戸惑った。（医薬生命科学系）
- 相手がどの程度の基礎を有しているかを知るのに多少の時間を要した。（理工学系）
- 参加した来訪者にとって、数分の説明は短く、記憶が薄れやすい。記憶が薄れないように、ごくごく簡単なレジュメや要旨集のようなものがあるといいかもしれない（発表者側には負担になるが）。（理工学系）
- 「近くに住んでいるのよ。」というおばさまが来て、「こんなのをしているなんていままで全然知らなかった。もっとお知らせをしてくれたらよかったのに」と言われた。「必死で広報しているんですけどね。市バスや地下鉄にも広告を出していたんですけどね」と伝えたものの・・・。どうしたらよかったのかは謎だけれど。（社会科学系）
- 「なんのためにこんなことをしているんですか？」という問いが多かったこと。事前に、〇〇のために××しているんです、というテンプレ回答を用意していました。しかし、来場者の反応を見ていて、求められている回答はそういうことではないんだということが分かりました。正しい回答が何だったかはまだよく分かりません…。（社会科学系）
- 前半の来場者の方の数々が、展示の内容は私が何かに遠慮して本当に言いたいことを言い表しているのではないのではないかと言われていた。一人の方は質問ではなく大学と言う場では云々とおっしゃって帰られたのだが、「私は一研究者として未熟な点はあるかもしれませんが、場所によって発言を変えるようなことはしません」と、やんわり一言添えてたほうがよかったのではないかと悔やんでいる。（人文科学系）

来場者に関して、新鮮だったこと・気づいたこと

- 研究に関心のある一般の方が意外に多い印象。（医薬生命科学系）
- 皆さん大変熱心であり、食い入るように私のパソコンを見入り、私の説明に耳を傾けてくださいまし（単位まち）、我々の琵琶湖の研究と、実際の滋賀県の環境行政が組み合わさって動いている実態をご理解くださり、かつ一般市民としてのご意見も率直に開陳してくださり、私と来場者の双方向の議論ができました。これは、私に大変強い印象をくださいました。（医薬生命科学系）
- 内容を基本的なことにしすぎて、よく勉強している高校生に、もっと深いことをききたかったと言われた点。（理工学系）
- 全体的には、じっくり話を聞いてくださる方が多く、驚いたと同時に感謝している。
- 全体的に、かなり鋭いご質問・ご意見が多かった。「そのような考え方があったのか！」「なるほど！」と思うものが多かった。（人文科学系）
- 積極的に意見を出し合う姿勢が印象的でした。（人文科学系）

- 一般論よりも具体的実験結果に興味を持っている点。(医薬生命科学系)
- 一般の人の動物実験に対する漠然とした嫌悪感。(医薬生命科学系)
- 研究内容よりも、その前提となる知識の説明のほうで、感心する人が多かった。(医薬生命科学系)
- 非常に専門知識のある方が来られて驚きました。(理工学系)
- 若い方ほど、純粋な質問が多かったです。例えば、「どうして〇〇という結果になるの?」といった質問です。ご年配の方ほど、「社会的には〇〇はどのように役立っているのか?」といった社会的意義を問う質問が多かったです。(理工学系)
- 研究内容ではなく、実験装置に興味をもって来る学生がかなりいたこと。特に中高生で来る学生は科学館のような面白い現象を見たくて来ているのではないかと思った。研究に興味を持つきっかけとしてやはり実験装置を持ち込むのは大事だと感じた。(理工学系)
- 「量子性」に興味のある人が思ったよりも多いのだな、と気づいた。(理工学系)
- 環境、エネルギー問題に興味のある人が多いと感じた。(理工学系)
- 研究者や大学生の研究内容が聞けたり自分の研究にアドバイスをもらったりと、とてもいい経験になった。(理工学系)
- 哲学的な話をする一般の方が印象に残った。(理工学系)
- 一般参加の人でも様々な知識を保持している点。(理工学系)
- 高校生も最新の話題には関心を寄せているということがわかり、印象深かった。(理工学系)
- 一般の方でも、専門的な研究に関して非常に興味を持っておられるという点。(理工学系)
- 来場者の持っているバックグラウンドのスペクトルの広さ。つまり展示内容に非常に詳しい方もおられる反面、「元素」について一から説明する必要のある方まで様々な方が来られた。(理工学系)

国民への発信などに関して、気づいたこと

- 研究とは直接関係がない、背景に関するものやトリビアなどについて、夢中になって語られる方が多かったこと。これから学ぼうとしていることに関しては、知識不足を痛感しました。専門知識、分野に関する概説、大学教育、進学、留学、などと研究を志す上で関わってくることについての議論へと発展することもあり、カバー可能な知識の広さが求められると感じました。(人文科学系)
- 来場者の方々もいろんなタイプの方がいらっしゃるということが印象に残りました。研究者との対話・議論を楽しんでくださる方もいれば、一方的に研究者の話を聞きたがる方、もしくは、研究者にご自身の知っていることを教えようとする方など。そうしたさまざまなタイプの方がいらっしゃる中、ほぼ共通して(といっても、自分の経験の範囲内ですが)面白いなと思ったことは、こちらが付箋へのコメント記載を依頼すると、それが対話の終局に向かう合図になり得る、ということです。書きたく無い方は別のブースに移られますし、書いてくださる方は書く事に集中していただきます。そういった対話のマネジメントにかかわることを観察できたことも印象深かったです。(社会科学系)
- 当然のことではあるが、科学研究が自分たちの生活をどう向上させてくれるのか?という点に関心を示す方が多かった。国からの研究費を使っている責任からも、成果の還元や研究の意義の理解に努めなければと強く感じた。(医薬生命科学系)
- かなり生活に身近な分野だと思っていたが、意外に一般の方に知られていない分野だと思いました。説明しがいがあったのですが、反面普段からもっと頑張っていかなければならないと思いました。(理工学系)
- 真剣に話を聞いてくれているのが表情から老若男女を問わず理解出来、こういった催しの重要性を感じました。(社会科学系)
- 幅広い年齢層の方々から、興味を持っていただいていること。高校生など若い方からは、研究内容だけでなく普段の研究の様子や生活についても質問をうけたことも印象的。(理工学系)
- 大学でなされた研究成果を国民として享受したいという強い願望を持っている人が多いことを知った。(理工学系)
- HP から私の研究内容を見て、わざわざ遠方から質問に来たという方がいらっしゃいました。京大 HP の威力というか、このイベントの注目度を実感しました。日々の暮らしの中で生じた疑問を、研究者に直にぶつけてみたいということの「ニーズ」を感じました。(社会科学系)
- 5、6年ほど前と比べると、気軽に科学や学問について議論することに馴れた来場者が増えてきていることが印象的だった。知りたいという気持ちをまっすぐ表現する来場者の姿勢に励まされた。人工知能の倫理に関わる主題は、科学・技術と社会とのインターフェースの今後のあり方そのものとも深い関わりをもっている。科学・技術のあり方についての議論など、「対話」の形について、今後、興味のある方々と具体的にもう少し様々な工夫をしていく余地があると思う。(人文科学系)
- 自分が高校生の頃にこのようなプログラムがあればよかったという声をいくつか聞きました。(人文科学系)

嬉しかった・励みになった、と感じたこと

- 多くの方から、「考えさせられる問題だ」と研究に共感していただいた。(社会科学系)
- 「よりマシな悪を選ぶ」というコンセプトに対し、本当に「善」はないのかと懐疑的な気持ちで来た方たちが、選択の困難さを体験することで、戦争と平和の問題に対する理解を深めてくださった点。(社会科学系)
- 高校生が発表しましたが、高度な研究方法の紹介よりも高校生ができることを中心にご助言いただいたことが特にうれしく、印象に残りました。(医薬生命科学系)
- 中国、韓国、台湾、ベトナムなどからの留学生が興味を持って来てくれた点。(人文科学系)
- 特に中学生と高校生などに興味をもらって、良かったです。(理工学系)
- 色々な方が熱心に話を聞いてくださったこと。(理工学系)
- 日常生活に有益であると理解してもらえた点。(理工学系)
- みなさん、とても熱心に、興味を持って聞かれたこと。(医薬生命科学系)
- 疾患研究をやっているの、その疾患についての治療研究が強く求められている印象を覚えました。(医薬生命科学系)
- 高校生が自分の意見や体験を教えてくれたこと。(人文科学系)

研究に関して、ヒント・気づきを得たこと

- 聞く人によったら、私たちがやっている研究を大したことがないと感じる人がいると思っていましたが、やはりいるんだなと実感できました。(理工学系)
 - 島嶼研究が今後いかに日本、ないしは社会的貢献をするのか?という点について、様々な意見を聞くことができた。(人文科学系)
 - 予想していたよりも、アジア太平洋島嶼地域に関心を持ってもらえたので、励みになった。(人文科学系)
 - この研究を農学部で行うことの意義を理解してもらえた。農学部だからこそ、このような研究展開が可能となったこと。(医薬生命科学系)
 - 来場者からの疑問がこれからの研究に繋がっていくきっかけになりました。(理工学系)
 - 知らないことがまだ多いこと。(理工学系)
 - いろいろな応用アイデアをいただきました。(理工学系)
 - 自分の研究に対しては、「ここを変えてみたら少し異なる実験結果が得られるのではないかと、それをもとにより深く考察してみるといいと思う」などとアドバイスをいただけたことが今後の研究に役立つと思った。また、他の人の研究に対しては、様々な分野からの発表があり、あまり詳しくないことも優しく丁寧に教えていただき、とても興味を持って、楽しかったです。(理工学系)
 - 高校生とは違って大学生ならではの指摘や、アドバイスをもらったりして自分たちでは気づかなかった部分もあり、これから研究を改善したり進めていく中でたいへんよい機会になったと思います。また、大学生の参加だけではなく一般の方や専門家の方もいらしたので、専門家の方からは詳しいアドバイスや鋭い指摘を受け、とても参考になりました。(理工学系)
 - マイクロ流路を用いたデバイスを、将来的には病気の診断などに役立てたいという話をしたとき、そのような神に挑むような行為をしてもよいのかどうかという生命倫理、医療倫理的な意見をいただいた。工学部所属の私はそのようなことを意識したことはなかったので非常に新鮮で、深く考えるきっかけになった。(理工学系)
 - 実際に、大きな研究室で研究されている研究者の方と話をすることができたのが、非常に良かったと思います。(理工学系)
 - 遺伝子診療に関する技術が進んで恩恵を受けているのであろうが、倫理的な問題が追いつかず、もっと広い学問領域が関わるべきと考えている方が少なくないこと。(医薬生命科学系)
 - 次のプロジェクトでやろうと思っていた課題点を一般来場者に指摘されたときにはビックリした。重要なことというのはそういうことなのか。(医薬生命科学系)
- 今後「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見
- 〈京都大学研究者の声①よかった点〉
- 一般の方との関わり・全体の雰囲気
- 一般参加者のレベルも高く、双方向的な会話が有意義であった。(医薬生命科学系)
 - とても興味深く聞いてくれるので、話すこと自体楽しいですし、日頃の自分たちの研究の意義を再確認できました。(医薬生命科学系)

- 京大のすごさが分かりました。出展されていた企画は、全て大変高いレベルのものであり、どの発表も面白く、かつ刺激に富んでいました。改めて、「京大はすごい！」と思いました。(医薬生命科学系)
- 今回はじめて参加をしてみて、非常によい取り組みだと思いました。色々な分野が一堂に会して一般向けに発表する機会はなかなかないと思います。サイエンスアゴラのような感じかなと想像していましたが、もう少しアカデミックな雰囲気があり、良かったです。(社会科学系)
- チラシやHPなど、デザインが全般的におしゃれで、気軽に参加できるようになっていました。来場者がひっきりなしで、こんなにも「対話」を求めてくる人たちがいるということに、勇気付けられました。ほんとうに喉が渴いたので、お水がありがたかったです！(社会科学系)
- トピックがバラエティに富んでいた点。(社会科学系)
- 単純に楽しかったです。学内の多くの方とお話しする機会は少ないので、学内関係者の行っている研究を知り、ディスカッションをする機会があるということは充実していると思います。学内外を問わず、学部生の方も多かったのですが、学内の研究者が何をやっているか、日頃は触れる機会がなくとも潜在的に関心を抱いている方が多いと感じました。開催することに意義があると思うので、継続的に実施されているだけで素晴らしいのではないのでしょうか。お疲れさまでした。(人文科学系)
- とにかく来場者・参加者が多く、まったく休む間もなく人と話をする事ができた。あっという間であった。(人文科学系)
- 適当なスペースで、参加者もちょうどくらいの人数だった。(理工学系)
- 分野が関連するものは近くに集めた方が、参加者にとって好都合と思われる。(理工学系)
- 聞きに来てくれた人たちの興味や説明に対する反応を感じられて、とても参考になった。(理工学系)
- 観覧者が途切れなかった。(理工学系)
- すべて！(理工学系)

企画運営に関すること

- 展示ブースのサイズ；ドリンクサービス。(医薬生命科学系)
- 時期。(夏休みに準備と練習ができましたので、高校生にとって良い時期でした。)(医薬生命科学系)
- 飲み物の支給があった点。(医薬生命科学系)
- 老若男女を問わず幅広い層が参加していた点。(医薬生命科学系)
- スタッフの皆さんの配慮が随所にうかがわれました。和やかな雰囲気の中、研究者や一般市民の皆さんが交流しやすい、いい機会と思います。(医薬生命科学系)
- ドリンクサービスは小休止するのに有難かった。お昼休憩を取れなかったので、軽食(サンドイッチなど)の販売があると良いと思った。特に悪天候のときの利用ニーズはさらにありそう。(医薬生命科学系)
- ドリンクサービス。(人文科学系)
- 企画、そして会場案内等のデザインなど、センスがよいまとまりになっていて、感謝しています。(人文科学系)
- 用意周到かつスムーズな運営をしていただき、特に大きな不満を感じなかった点。(これだけ大きな企画ゆえ、スムーズな運営はきっと「当たり前」にできるものではないと思います)(人文科学系)
- きちんとマニュアルが作られていたためスムーズに準備できた。(人文科学系)
- 事前に説明会をしていただけたため、準備をする際に参考になった。(人文科学系)
- 開催中にフリードリンクをもらえたのがうれしかったです。(理工学系)
- 無料の飲み物のサービスがあったこと。(理工学系)
- 事前説明会をしっかりといただけたことは有難かったです。(理工学系)
- 高校からの発表をしまして、いい経験になりました。また参加できることを楽しみにしています。(理工学系)
- 非常によく設計されているように思いました。(理工学系)
- 呼び込み役の係員がいるのは助かった。(理工学系)
- お茶などがあり、気楽にできた。(理工学系)
- 係員のサポートが充実していた。(研究者はお客様の呼び込みに対して不器用な人が多いので。)(理工学系)
- 高校生のグループが研究発表していたのは面白かった。(理工学系)

研究・研究者との関わり

- 色々な研究があって興味も持てたことです。(医薬生命科学系)

- こんな様々なテーマを研究なさっている先生方がいらっしゃるのか、と京都大学の懐の深さを感じました。(理工学系)
- 知らなかったことを知ることができ、自分の研究にたくさんアドバイスをいただけた点がとてもよかったと思う。(理工学系)
- 研究者に話しかけやすく、学会とは違った雰囲気だったこと。(理工学系)
- 研究者に1対1で説明していただけたので、わからないところはすぐに質問できたこと。また、その際非常に丁寧に説明していただけたこと。(理工学系)
- 自分たちの研究を積極的に説明できて、さらにそれに対して非常に興味を持っていただけたこと。(理工学系)
- 自分の研究内容を一般の方や幅広い分野の研究者の方に説明できる点。(理工学系)

〈京都大学研究者の声②改善点、今後に向けた提案〉

会場について

- 今回初めての参加であり、まだ概要を見せていただいただけですので、改善点は思いつきません。あえて言えば、午前中の冷房がやや強く、寒かったです。が、これは、11時以降は改善されました。(医薬生命科学系)
- 「ちゃぶ台」はとてもいい企画なのですが、普段座り慣れていないので、ちょっと、きついです。「洋風ちゃぶ台」すなわち、ミニカフェとして、小さなテーブル取り囲みスタイルだと、体が楽かと思いました。(医薬生命科学系)
- 本の紹介コーナーは別の部屋だったので、少し見つけにくい感じがしました。また、展示していた自著について来場者と語るという企画もあっていよいいのではないかと思います。(人文科学系)
- 会場で声が伝わりにくい状況があり、音の響きについてはもう一工夫あってもよいかと思います。(人文科学系)
- ちゃぶ台の座れるスペースがもう少し欲しかった。(人文科学系)
- 話声が大きく動画の音が聞こえないため、イヤホンなどの設置が望まれる。(理工学系)
- 人文・社会・理工・生物・総合くらいに学術分野で区分けして配置するのもありかもしれない。(理工学系)
- あまりにも領域が広いし、展示が順不同なので混沌とした印象が強かったです。(理工学系)
- 多数の内容でも発表しやすくするために、1つの学校につき1つのブースという制限はなくしてほしい。(理工学系)
- 敢えて逆なのかもしれませんが、医学系は医学系、人文系は人文系とコーナーごとにまとまった方が交流しやすいかもしれません。(医薬生命科学系)
- 研究内容のキーワードや分野(物理とか化学とか哲学とか)もパンフレットにのっているといい。(医薬生命科学系)
- 生物、物理など、分野ごとに展示ブースが固まっていたら見学しやすいと感じたので、よければぜひ検討していただきたいと思います。(理工学系)
- 実演ブースを別の部屋などに、広めに確保するのもよいかと思います。(理工学系)

時間について

- 出展側としては、やや時間が長すぎて負担が大きいに思います。(医薬生命科学系)
- 特にはありませんが、一般の方が16時までいらっしゃるようでしたら、「ちゃぶ台」も16時までにしていただいてもよかったかと思います。(人文科学系)
- 「進撃の巨大科学」がいつ開催されているのかわからなかったです。大ホール内でスピーカーとかからアナウンスがあってもよかったかも。あったのに気付いていなかっただけかもしれませんが。(理工学系)
- 研究を聞きたくても、聞けない時があったりしたので一般の方が帰った後に研究者同士が話せる時間も少し作ってほしい。(理工学系)
- 座敷での1時間半のプレゼンがやや辛い(足が痛い)。(理工学系)
- ポスター発表の時間を短く出来ないでしょうか。(医薬生命科学系)
- 昼の時間を挟まず、午後1時から始めて、夕方から発表者のみのパーティー。(医薬生命科学系)
- 来客が続いて休憩時間もとりにくいので、全体で休憩時間を決めてもらえるとう体的にも助かります。(理工学系)
- 午前の最後の来場者と、十分に話す時間が取れなかったことが心残りです。が、これは、当該来場者がもっと早く来てくれれば良かっただけですね。(医薬生命科学系)

来場者について

- 来場された方のほとんど全ての方が熱心に見学し、質問や意見を仰ってください有難かった。しかし、一方で、何のために来られているのかわからない方も少数おり、しつこく学生にまわりつき、非常に困った。その会話の内

容は、自分で開発した競馬必勝法の本を買ってくれ、とか、芸能ゴシップについて、意見を求めたり。対処方法を学ぶ社会勉強といえそうかもしれないが、度重なり来られると、ただでさえ少ない説明員が実質的に欠員になってしまうので、できれば事務局で引き取ってもらいたい。(医薬生命科学系)

- 小学生くらいの子供が実験装置を乱暴に扱い、一度注意する場面がありました。自由に触って欲しいわけではなく、演示実験のつもりであったことを伝えなかった、こちらの注意も不足していましたが、ご両親が何も注意されなかったのには少し驚きました。できれば、小学生連れのご両親には、子供を自由にして良い場所ではなく、高価な実験装置もあることをご承知いただき、ご両親にも子供をしっかりと見ていてもらいたいと思いました。(理工学系)
- ブースによっては、名札をジロジロと見たあとに、消極的な対応で、ポスターの全容を説明してくれることもなく、聞かれたことに答えるだけ、という残念としかしいような所もありました。何だか値踏みされてる感じがしていい気分ではありませんでした。(理工学系)
- 京大の内部生がほとんどいなかった。(理工学系)
- 学会でのポスター発表などでは聞く側が聞くことが無くなったら去るというのが一般的なパターンなのですが、アカデミックデイの場合、出展者側が終わりを切り出すまで離れませんでした。(こちらの許可がなければ帰ってはいけないように思われていたのかもしれませんが)興味を持っているから残っているのか、こちらの話がまだ途中だから仕方なく残っているのか判別は難しいです。(理工学系)

展示コンテンツについて

- ぱっと見ただけでは内容が分かりにくいと思うポスターが多かった、学会の延長のポスターが多かった、という印象がありました。また、「ザ・科学！」というブースが多い印象を受けました。もう少し多様な分野のブースがあっても面白いのに...とは思いました。アカデミックな雰囲気が伝わるという点では良いと思いましたが、もう少しポスターの内容に手が入っても良いのかなという気はしました。(社会科学系)
- 課題によっては物足りなさが感じられた展示もありました。(社会科学系)
- 人文系だからこそなのであろうが、自身の現在の学振 PD の受け入れ先の所属は教育学研究科であるが、出身学部・大学院は教育学ではない。しかし、パネルに教育学研究科と書かれていたので、私の研究と教育に関連があると誤解された方が多かったようだった。お金の流れは明示する必要があると思うが、できれば所属ではなく学振の専門領域で表示してほしい。(人文科学系)
- 科学研究費では、「国民や社会に研究成果を発信すること」が強く求められるようになっております。今回、展示パネルにはタイトルと研究者からの一言が書かれておりましたが、必要に応じて(展示ポスターに関係する)研究費の情報も書かれていると良いと思いました。(例えば、科学研究費の場合は、種目やタイトルなどの情報です。)出展申込書には、獲得している研究費について記述する欄がありました。それを、展示に反映できると良いと思いました。研究費を出している側の関係者が来場されていれば、研究費が明記されているとうれしいはず。(理工学系)
- 会場の一角に、スライドセッションのような小会場を設けて、発表内容のアピール。(医薬生命科学系)
- 高校生以下の来場者もちらほらいたようなので、そういったちびっこたちが楽しめるコンテンツがひとつふたつあると尚良いのかなとも思います。(社会科学系)
- 英語以外の言語についても、シールを作ってほしい。我々のパネルでは、中国語で対応した例が1件あった。(人文科学系)
- 今回、我々のグループのポスターでは情報量を盛り込みすぎた失敗があった。簡単なものでよいので、アウトリーチの専門家によるポスターの事前チェックサービスなどがあると嬉しい。(理工学系)
- 体験型のブースがもっとあると良いと思いました。ちゃぶ台のようなガチの体験型ではなく、もっと気軽に参加できるようなもの。(社会科学系)
- 子どもも参加できるような企画。(キッズ博士になろう！など)(社会科学系)

広報について

- 京都新聞をとっていますが、広告もなく、当日の様子を伝える記事もなかったかと思えます。
- 学内での広告も、(すくなくとも、医学研究科社会健康医学系、あるいは、医学部校内)では見かけませんでした。(医薬生命科学系)
- ウェブのアクセスに時間がかかるが多かったように思いました。(理工学系)
- もう少し広報をしても良いかと思う。特に、モチベーションの高い学部生(学内外問わず)にとっては、研究に触れる良い機会なので。(理工学系)
- 学内であまり話題になっていないのではないかと思った。私もアカデミックデイというイベントを、今年初めて知った。(理工学系)

- 開催自体に気付いていない人がいるので、宣伝活動を多くするか、オープンキャンパスなどの有名イベントと連動して開催するのはどうか。(医薬生命科学系)
- 広告(学内、学外、新聞など)。(医薬生命科学系)
- SNSでの広報(もうすこし拡散できる?)。(理工学系)
- 学内でより話題になることが、イベント全体におけるさらなる活気に繋がると感じた。(理工学系)
- もっと広く周知してほしい。(医薬生命科学系)

出展者について

- 各ブースごとの人数差の是正。(医薬生命科学系)
- 高校生の発表は必要なのか。(医薬生命科学系)
- 院生の展示が少なかったのが残念でした。まだまだ研究としては発展途上ですが、広く研究をみていただく機会として、「院生も出展可能」ということをよりアピールしてほしいです。上記の提案を実行する場合、希望者が多くなってしまうかもしれません。そのときは土日の2日間開催にするなど、京大の目玉イベントになればいいなと思いました。(社会科学系)
- 出展者は理系の方が多く、文系の研究者の参加をもっと呼びかけてもいいのではないかと思います。(人文科学系)
- 他機関・企業の研究者の出展/来場を促す(京大のみにとらわれない)。
- 産学連携研究を行っている研究者・企業の出展を促す。(医薬生命科学系)
- 出展に1次審査を設け、通過したもののみ展示いただいたらいかがでしょうか。(社会科学系)
- 中高生に来てもらう、出展してもらうよう展開していけると良いと思う。(理工学系)
- 手伝ってくれる学生に対してRewardsがあるとよい。PIは実績に記載可能だが、学生にはないので。(医薬生命科学系)
- 全学として研究室がいくつあるか分からないが、出展している研究室は限られている様子なので、もっと、参加したことのない研究室(学部や研究科)には、積極的な参加を呼びかけていただきたい。(医薬生命科学系)

企画形態について

- 出張経費の問題もあると考えるが、梅田や東京など、京都だけでなく各地で開催しても面白いのではないかと。(人文科学系)
- 説明が続いて、水を飲んでものどがもたない。(理工学系)
- すべて勢ぞろいしてのアカデミックデイ(一日開催)のほかに、アカデミックデイという名称の企画の一部として、研究室で別日程で開催する小さな企画を紐づけることもできたらいいなと思いました。また、社会とのインターフェースということで、「ポスターセッション」と「ちゃぶ台」の間の落語の「高座」のような感じの企画が入るような皿があればいいと思います。(人文科学系)
- 場所などインフラ的に可能であるならばもっとブースの数を増やして、多様性を持たせてもいいと思った。(人文科学系)
- WGの人が各ブースを回ってインタビューするなどの試みもあってもよいと思われる。それを、参加者が見ることができる仕組みも有効と思われる。(理工学系)
- 研究室を見せてもらえれば、高校生にとってよい刺激になると思います。(医薬生命科学系)

開催日時について

- 学会の資料作りと被ったので、日程的に少しつらかったです。他の分野はよくわからないが、自分の知る限り学会シーズンが9月~11月くらいなので、もう少しそこを避けた日程にさせていただけるとありがたいと思いました。(理工学系)
- 開催日を土曜日にしてほしい。(医薬生命科学系)

その他

- 機器の運送(ex. 桂~吉田)への無償サポート・発表者へのお弁当の配布があると嬉しい。(理工学系)
- 託児所(発表者のための)。難しいとは思いますが、、、。(医薬生命科学系)
- 一般参加者と出展者が分かりやすいように首から下げるネームプレートの色を分けて欲しい(既にそうだったのでしたらすみません)。(社会科学系)
- 食べ物の支給もしてほしい。(医薬生命科学系)

- 昨年度の参加者の、体験談などが、事前説明会で語られるとよいのかと思いました。つまり、前年度の出展者で、その年も参加される方が、事前説明会でアカデミックデイ参加への意気込み、楽しさなどを語って下さるとその年の新規出展参加者にとっても勉強になるのでは、と思われます。(人文科学系)
- 控室があまり活用されず、荷物は机の下しかないので、工夫してほしいです。(理工学系)
- 当方の参加者が多く、荷物がポスター近辺に置くだけでは納まりきれなかったのが、施錠できる荷物置き場があると嬉しいです。(理工学系)
- 英語シールを付けていたが英語で話しかけられることはなかった。(人文科学系)

〈京都大学研究者の声③このような来場者ともっと話したい〉

- おそらく、アカデミックデイに参加しよう、興味を持とう、としない層、またはアカデミックデイを知らない方々に伝わるとよいですね。(人文科学系)
- 他大の学生さん。(人文科学系)
- 高校生以下の来場者(出展者以外)が増えるといい。近隣の学校へ周知すべき。(医薬生命科学系)
- 小学生、中学生にも来てもらいたい。(医薬生命科学系)
- 高校生や短大生にもっと来て欲しい。(社会科学系)
- 小中学生、そして、学校の先生方に来ていただきたい。(人文科学系)
- 小学生や中学生の参加が増えるともっと面白くなると思います。特に、小学生。彼ら彼女らに研究を伝えるのは非常に難しく、研究者にとっても学ぶところが多いと思います。また、小学生が「大学」や「研究の現場」を見る機会はかなり少ないと思います。「大学に行けばこんなことができるんだ!」というイメージ(あるいは「憧れ」)を持つ格好の機会にはならないでしょうか。(人文科学系)
- 中高生にもっと多く参加してほしい。学校にもっと広報すべきと思われる。(理工学系)
- 外国の方を念頭に置いた2か国語対応は、なかなか難しいかもしれない。英語だけのポスターコーナーをつくるのが案かもしれないが、果たしてお客さんが集まるかどうか予期できない。(理工学系)
- 高校生、大学生の参加をもっと多くしてほしい。(理工学系)
- 研究者の方にもっと聞いてもらって話をしたいと思いました。(理工学系)
- 大学で研究者がやっていることをざっくばらんに聞けるよい機会だと思うので、進路を決める前の高校1年生あたりに来てもらえたらと思う。(理工学系)
- 学生の来場者が少ないと感じたので、学生にもっと来てもらいたい。(理工学系)
- 関西一円(学生同士でも来校可能な距離)の高校生に来てもらいたいです。(理工学系)
- 科学研究費で言えば、学術振興会の関係者の方々も来場されるようなイベントになると良いと思います。研究費を提供している側の方々からすると、このようなイベントは非常に見ていてうれしいものにしたからです。(理工学系)
- 研究者とはどんな人かと考えて来て下さった学生やご両親にお会いしました。未来の研究者にはぜひ来てもらいたいと思います。そのためにはぜひ近隣の高校(および中学など)への広報をより強化していただけると幸いです。(理工学系)
- 京大生や他大学の学生にはもっと来てもらいたい。(理工学系)
- 学内や他大学の学生、高校生や中学生など。(理工学系)
- もっと様々な分野の研究者の方とお話したい。(理工学系)
- 自分たちが今研究している地質系が専門の方が多くきてほしいのと、私的ですが自分の興味のある宇宙・天体の研究をしている方に来てほしいと思いました。(理工学系)
- 学部生に来て欲しい。(理工学系)
- 高校生以下にもっと来てもらいたい。研究というものに触れてもらえる機会になればと思った。「京大」という名前でも、「ちょっと難しそう・・・」と避けてしまった子がいるかもしれない。(理工学系)
- 研究者を目指す大学生へのアピールができるともっと良くなると思います。(理工学系)
- 文系の人と理系の人ほぼ同数、というのが理想。(理工学系)
- 中学生と高校生に来てもらいたい。(理工学系)
- 中高生の親世代に興味を持ってもらえると良いと思う。(理工学系)

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

「京都大学アカデミックデイ」では、出展研究者に贈られる「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、こういった活動に参加し、さらによりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指し、試みを始めた企画です。

来場者アンケートの中に、こんな質問を設けました。「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」この質問で一番コメントを多く集めた出展研究者が、今年度の「京都大学アカデミックデイ大賞」の受賞者です。また二番目にコメントを多く集めた出展研究者には「京都大学アカデミックデイ賞」が、一番コメントを多く集めた出展高校に「京都大学アカデミックデイ賞 高校生部門」が贈られました。

■ 3-3-1. 2016年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：「人道のための戦争？よりマシな悪を選ぶ」

出展代表者：大庭弘継（大学院文学研究科）



● 京都大学アカデミックデイ賞

出展名：「RNA ～細胞の運命を自在に操る～」

出展代表者：齊藤博英（iPS細胞研究所）



● 京都大学アカデミックデイ賞 高校生部門

出展名：「兵庫県中南部の形成過程をモデル化する」

出展校：兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕



■ 3-3-2. アンケートの上位の出展

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かった上位 11 件は以下の出展でした。

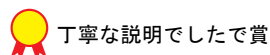
「人道のための戦争？よりマシな悪を選ぶ」出展代表者 大庭弘継（大学院文学研究科）	
・新しい視点をもつことができたで賞	・平和を考えるキッカケになったで賞
・こどもにきっかけを作っていただけで賞	・戦争は嫌で賞
・深く深く考えさせられましたで賞	・世界情勢をわかりやすく教えてくれたで賞
「RNA ～細胞の運命を自在に操る～」出展代表者 齊藤博英（iPS 細胞研究所）	
・いい薬ができたらしいな賞	・ミラクルな研究で賞
「兵庫県中南部の形成過程をモデル化する」兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕	
・研究に対する熱意がよくわかりましたで賞	・安心・安全な未来が感じられたで賞
「アフリカの潜在力が世界を救う」出展代表者 松田素二（大学院文学研究科）	
・アフリカの人々の生活が身近に感じられたで賞	・太鼓で楽しかったで賞
「生物の形の折り線図」出展代表者 井上康博（再生医科学研究所）	
・発想がユニークで賞	・とにかく面白く、役に立たないで賞
「生きることが「アート」であるということ」出展代表者 西郷南海子（大学院教育学研究科）	
・理想の女性研究者で賞	・未来のこどもに触れさせたい内容で賞
「iPS 細胞技術による血小板製剤の開発」出展代表者 杉本直志（iPS 細胞研究所）	
・説明上手でしたで賞	・臨床応用に期待で賞
「ネズミと会話ってできるの？」出展代表者 松田道行（大学院生命科学研究科）	
・細胞に命令もできちゃうなんてすごいで賞	・素晴らしい技術で賞
「アルツハイマー病のより正確な診断手法」出展代表者 入江一浩（大学院農学研究科）	
・未来への希望賞	・超高齢化社会に大切に賞
「待ちに待った重力波物理学の到来」出展代表者 田中貴浩（大学院理学研究科）	
・夢のある話だったで賞	・長年の夢を実現したで賞
「機械加工と生体分子で創るナノシステム」出展代表者 横川隆司（大学院工学研究科）	
・クイズ、動画で分かりやすかったで賞	・生物学と工学のコラボに感激したで賞

4. 出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇で賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ2016のWEBサイトでもご覧になれます (<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2016/>)。

4-1. 研究者と立ち話（ポスター／展示）

1 「小さな磁石を用いたメモリーデバイス」 キムカブジン（化学研究所）

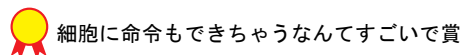


丁寧な説明でしたので賞

情報の記録のためには、メモリーデバイスが必要である。現在までは、ハードディスクなどが大容量のメモリーとして使われていた。しかしながら、技術の発展とともに、超高容量、超高速のメモリーデバイスが必要となっている。本ポスターでは、次世代メモリーデバイスの一つである、新規磁壁メモリーデバイスを紹介する。



2 「ネズミと会話ってできるの？」 松田道行（大学院生命科学研究科）



細胞に命令もできちゃうなんてすごいで賞

ネズミと会話する方法を我々は考えています。光による問いかけと、光による観察を通して、ネズミの中の細胞1つ1つと会話し、なぜ病気になるのか・なぜ病気を防いでいるのかを明らかにしようとしています。



3

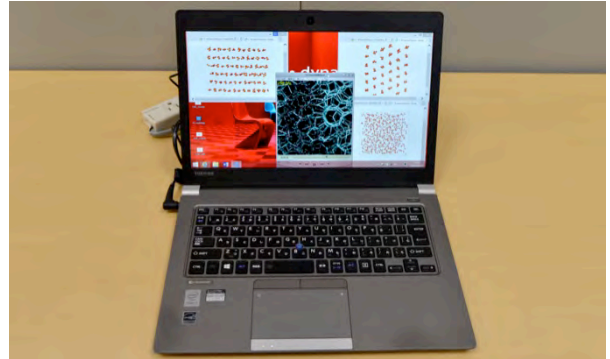
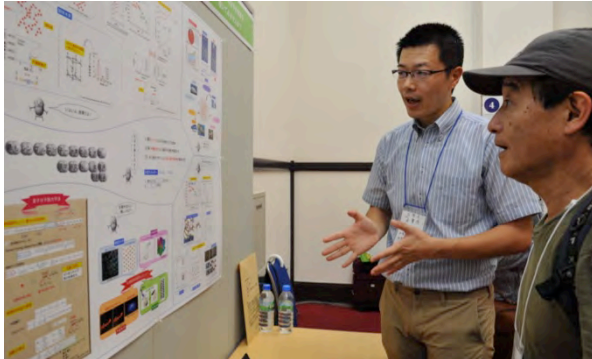
「最もシンプルな分子—水素のおとぎ話」

金賢得（大学院理学研究科）



身近にあるようなものがとても内容が複雑で賞

水素分子は最もシンプルな分子であるにもかかわらず、小さい質量の水素核が持つ特殊性から、その液体・固体・超流動などさまざまな状態の全容はいまだに解明されていません。本研究では、水素核の特殊性である強い核量子性（核の振動と広がり）を取り入れた分子シミュレーション法を確立し、その特異な性質を計算科学的手法によって解明していきます。また、そこでの結果をもとに、次世代クリーンエネルギーとしての水素エネルギー利用を目的とした水素貯蔵材料の設計と開発を目指しています。



4

「スロー地震を地震災害軽減に利用する」

伊藤喜宏（防災研究所）



しっかり対話していただけたで賞

メキシコ太平洋沿岸部に海底観測機器を設置しスロー地震のデータを取得し、陸上の地震・地殻変動観測点と合わせて解析を行い、将来発生しうる巨大地震の大きさを評価する。



5

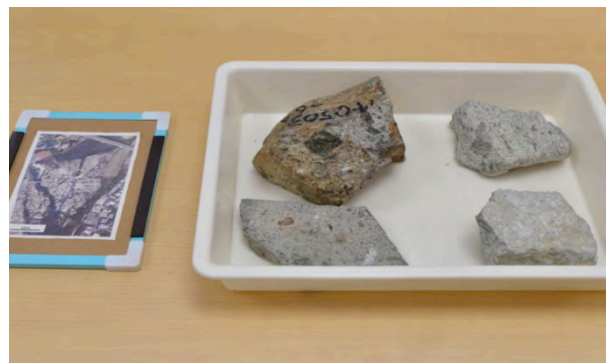
「兵庫県中南部の形成過程をモデル化する」

兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕



研究に対する熱意がよくわかりましたで賞

地学部には、地域を流れる一級河川の加古川の氾濫によっておこる水害被害を受けた生徒が複数在籍している。水害の主な原因のひとつに岩石の分布があると考え、兵庫県中南部を東西 20km×南北 160km にわたって河川沿いに兵庫県を縦断して露頭調査を行い、90 の試料を採取して分析した。その結果、兵庫県中南部の形成過程を明らかにし、水害の原因を解明することができた。この成果は地域行政に提供し、防災計画の策定に役立てられている。



6

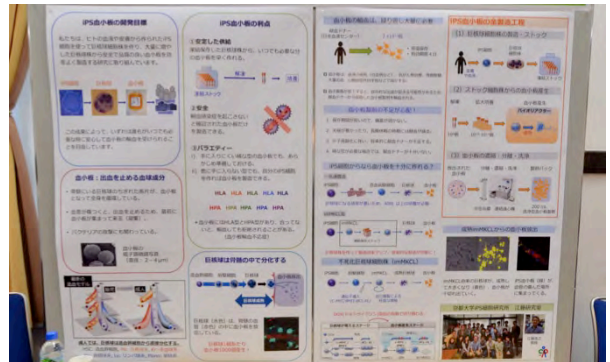
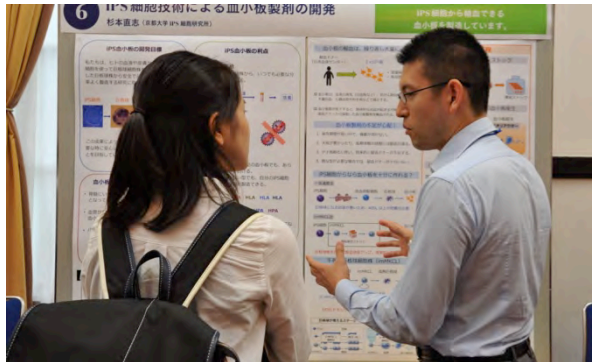
「iPS 細胞技術による血小板製剤の開発」

杉本直志（iPS 細胞研究所）



説明上手でした賞

出血を止めてくれる血小板は巨核球細胞からできます。私たちは iPS 細胞から無限に増殖する巨核球を作って血小板を製造し、誰もが安心していつでもこの血小板の輸血を受けられることを目指しています。



7

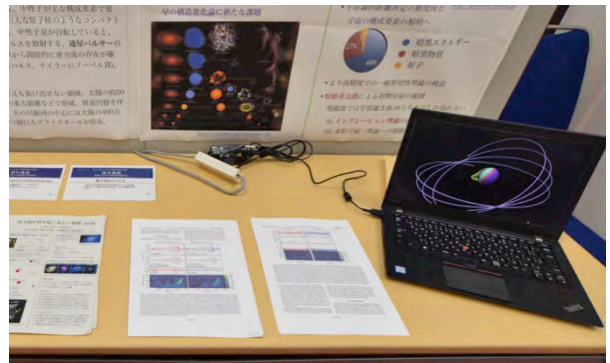
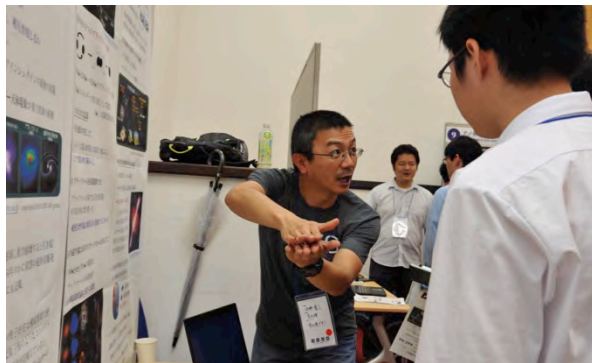
「待ちに待った重力波物理学の到来」

田中貴浩（大学院理学研究科）



夢のある話だった賞

連星ブラックホールからの重力波を初検出のニュースが流れました。いよいよ、重力波物理学の時代が始まります。話題の重力波とは何か、どんな新しい物理が期待されるのか、そして、今後の展開がどうなるのかを語りまくります。



8

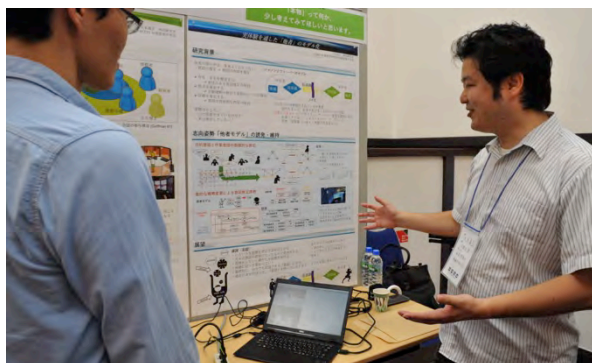
「「仮想」を「実感」するためのあれこれ」

大本義正（大学院情報学研究科）



仮想を実感するためのあれこれ興味深いで賞

仮想世界のものをどう感じるかは、子供と大人でも違いますが、アニメと単なるキャラクターでも違います。人間が、仮想世界のものを実際にあるように感じるためにはどんな要素が必要か。実は結構難しい問題です。



9

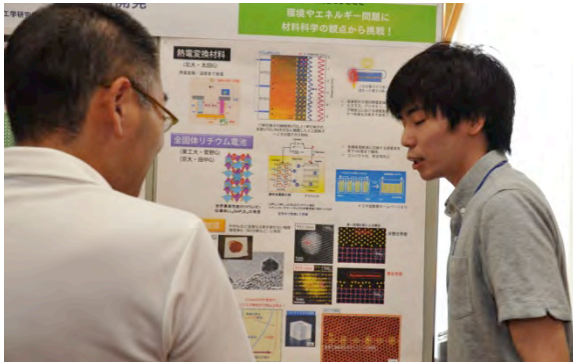
「ナノ構造からの新しい材料開発」

田中功（大学院工学研究科）



ナノで世界が変わるで賞

結晶のなかで原子は整然と並んでいますが、ところどころで原子レベルでの乱れが生じています。これを的確に利用すると、環境やエネルギー問題を解決する革新的な材料開発が可能になります。その最先端をお見せします。



10

「科学でみる木の文化」

田鶴寿弥子（生存圏研究所）



文化財保護に役立つで賞

日本の適所適材観の賜物である木質文化財の樹種情報には考古・美術・建築学をはじめとした様々な研究に有効な情報が含まれている。本発表では樹種識別調査の現状や課題を紹介するとともに、木の博物館的な存在でもある、京大材鑑調査室の紹介を行う。



11

「アフリカの潜在力が世界を救う」

松田素二（大学院文学研究科）



アフリカの人々の生活が身近に感じられたで賞

「アフリカ社会」ってどんなイメージでしょうか？紛争、貧困といった人類社会にとっての「お荷物」のイメージではありませんか？しかしアフリカ社会には、現在の人類社会が直面している困難を解決するための叡智が生成されているのです。



12

「生命体の骨格をつくるアパタイトの科学」

藪塚武史（大学院エネルギー科学研究科）



虫菌が治りそうな気がするで賞

自然界を見渡すと、セラミックスの中には高温を必要とせず、骨や貝殻のように常温でしかも水溶液から作られるものがあります。私たちはこのような生物の営みに学んだ手法で、骨に含まれるセラミックス成分「アパタイト」を人工的に作るプロセスを開発し、骨と強く結合する人工骨や、からだになじみやすい薬のカプセルを開発しています。



13

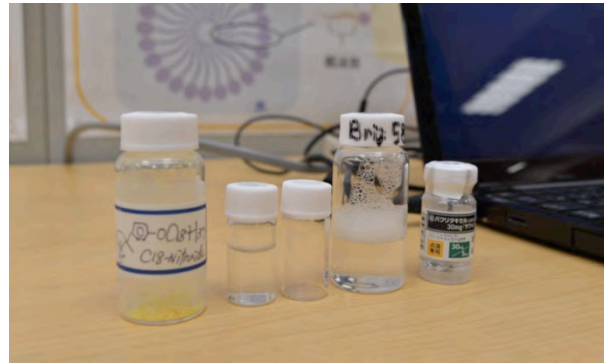
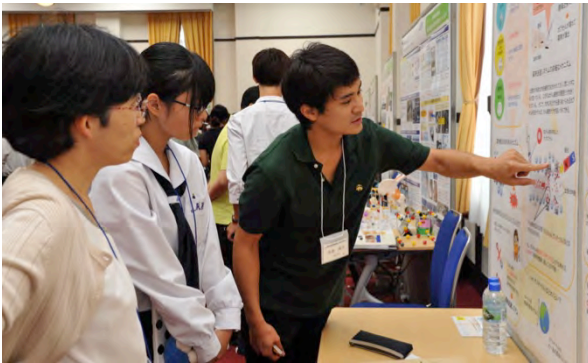
「純有機磁性ナノ粒子の開発と臨床応用」

名倉康太（大学院人間・環境学研究科）



実用化してほしいで賞

我々は磁石に反応して水面上を自由に動く有機ラジカル液晶物質の合成に世界ではじめて成功した。この結果に基づいて、純有機磁性ナノエマルジョン粒子の開発に成功し、これの1) 画像診断（MRI）造影剤や2) 抗癌剤の送達（DDS）キャリアとしての利用を目指している。



14

「ナノ材料で病気を治す」

秋吉一成（大学院工学研究科）



早急に開発して欲しいで賞

我々は、高分子化学やバイオテクノロジーを駆使して、目に見えないほど小さなナノ材料（バイオナノトランスポーター）を開発しています。このバイオナノトランスポーターをドラッグキャリア（薬剤の運び役）等の医療に応用するために研究を進めています。



15

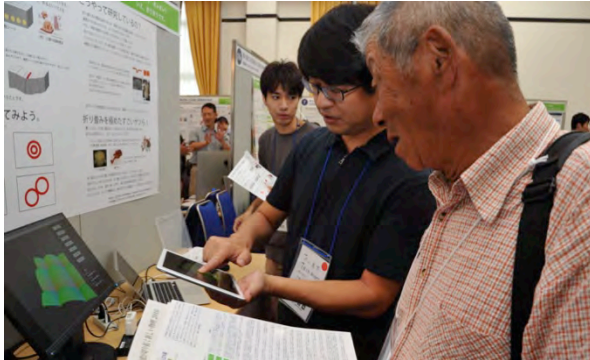
「生物の形の折り線図」

井上康博（再生医科学研究所）



発想がユニークで賞

生物の形ができる仕組みについて、コンピュータを使って研究しています。特に、変態する昆虫は、幼虫から蛹になるときに、超絶複雑な折りたたみ構造を作り、それを膨らますことで形を作る「逆折り紙」をやっています。逆折り紙って何？続きは立ち話で。



16

「微小重力、岩石風化と災害、粉体時計の研究」

兵庫県立加古川東高等学校 自然科学部



熱意が誰よりもどこよりもすごかったで賞

①微小重力下では水のコントロールが難しいため、ISS では水を用いた実験はあまり行われません。先行研究で明らかとなった濡れ性の違いを応用したピペットを作成し、実際に自由落下型微小重力実験装置を自作して実験を行っています。

②私たちは、昨年度から花崗岩が土砂災害発生に及ぼす影響について研究しています。最終的な目標として花崗岩の風化度基準を自分たちで設定し、土砂災害ハザードマップ作成において一つの基準として提案したいと考えています。

③二部屋に区切られた容器の片部屋に、大小2種類の粉粒体を入れて、縦振動を加えると粉粒体が両部屋を往復する現象である「粉体時計」の実現と、数理的考察を目的として実験研究を行いました。



17

「皆で作る京都市避難所割当マップ」

趙亮（総合生存学館）



もっと情報発信してほしいで賞

災害時の避難は、適当に近くの避難所に行くのでは集中したり混雑したりします。収容人数の関係で入れられないこともあるでしょう。本研究では、収容人数を考慮し移動距離も少ない割当法を考え、国や市、学生の協力を得て京都市の割当マップを作ってみました。



18

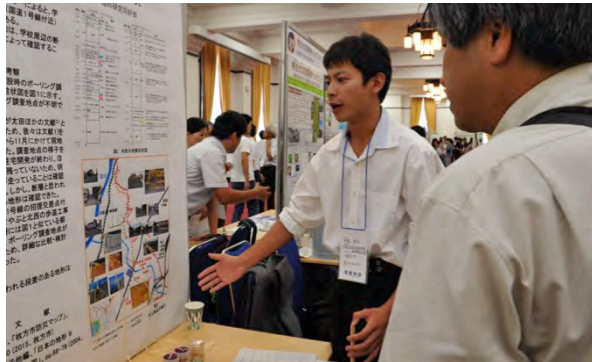
「船橋川の水質Ⅱ & 周辺断層に関する研究」

大阪府立長尾高等学校 理科研究同好会



地元もとても期待してるよ賞

学校のそばの船橋川の水質調査データ 2年半分から、水温が上がると水が無色から緑色になりpHも上がり、水温が下がると水の色もpHも元に戻ることが判明した。また、周辺の断層について文献研究と現地調査をし、断層を確認した。



19

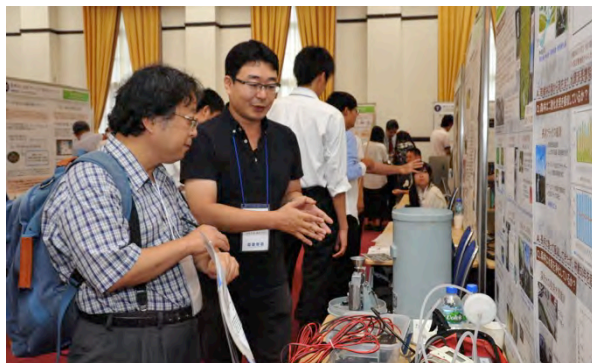
「桐生水文試験地へようこそ」

小杉緑子（大学院農学研究科）



よくぞ測り続けたで賞

農学研究科・森林水文学分野では、琵琶湖の南に「桐生水文試験地」を設け、1972年から継続して、森林の様々な機能を調べています。森林にはどんな機能があるのか、45年間のモニタリング研究をもとに、紹介します。



20

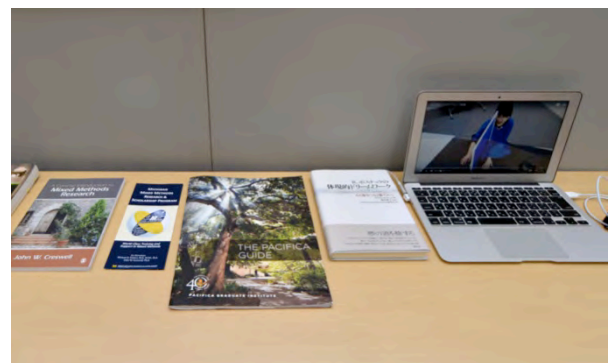
「痛みってナニ？」

八田太一（iPS細胞研究所）



ワクワクしたで賞

人間が感じる痛みには、身体的、心理的、社会的、そして精神的な苦痛の4種類があると言われています。私たちの研究では、がんと向き合う患者さんの語りを通して、痛みの実体にアプローチしています。



21

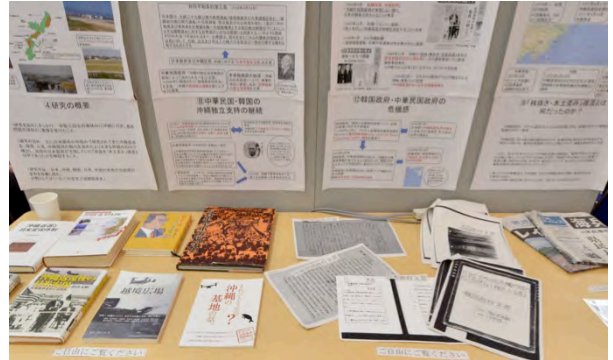
「東アジア国際関係からみた沖縄返還」

成田千尋（大学院文学研究科）



これからも研究をがんばってほしいで賞

主に日米関係の枠組みで研究されてきた沖縄返還を、韓国、台湾、沖縄現地の動向を含めたより大きな枠組みの中で検討し、当時の日本政府が主唱していた「核抜き・本土並み」返還とは何であったかを検証します。



22

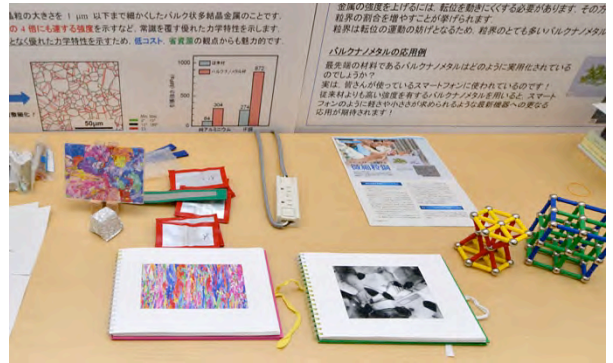
「バルクナノメタル：常識を覆す構造材料」

辻伸泰（大学院工学研究科）



実用化できたらいいな賞

構造材料とは、橋や車などに欠かせないものづくりの基礎となる重要な材料です。従来の4倍以上の強度を示すなど、常識を覆す性質を持つ新しい構造材料であるバルクナノメタルを紹介します。



23

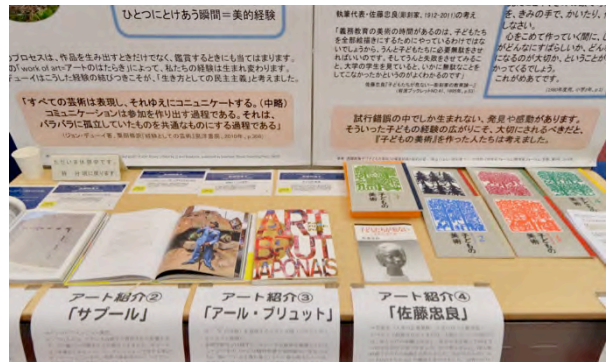
「生きることが「アート」であるということ」

西郷南海子（大学院教育学研究科）



理想の女性研究者で賞

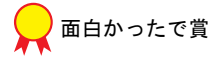
「アート」「美術」と聞くと、何やら高尚な感じがしてしまいますよね。でも、アメリカの哲学者デューイ（1859-1952）は、そうは考えませんでした。生き物が生きる糧をもとめて環境へ働きかけをすること。これがアートの始まりなんだと。そんな視点から、わたしたちの日々の経験を見つめなおしてみませんか。「上手い／下手」にとらわれず表現することのよろこびについて語った図工教科書、『子どもの美術』（現代美術社、1980-1995）も展示します。



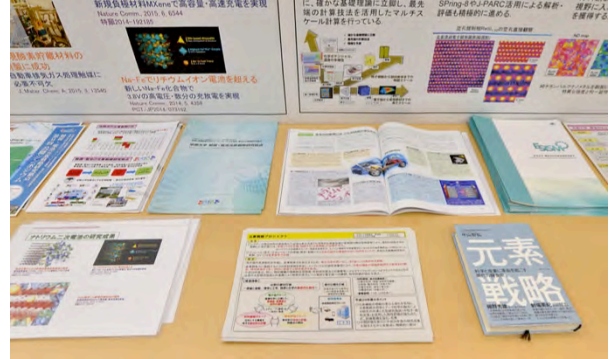
「元素戦略プロジェクト」

24

田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元素戦略研究拠点ユニット）
田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）



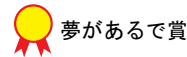
「元素戦略」耳慣れないことばだと思いますが、今、世界中から注目されているプロジェクトです。京都大学では2つの研究拠点を設置し、産官学が密接に連携して研究を行っています。その取組みについてお話しします。



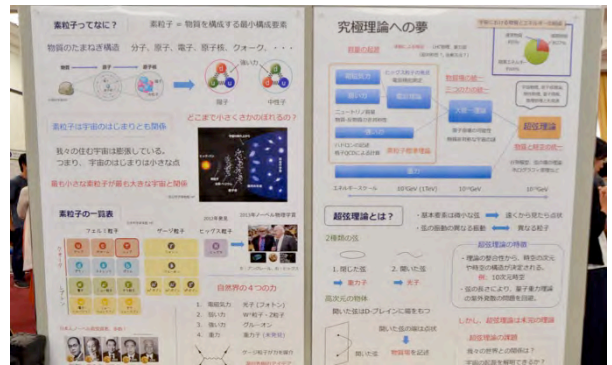
25

「超弦理論とはなにか？」

吉田健太郎（大学院理学研究科）



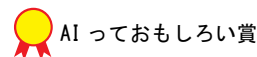
素粒子論研究における最大の目的は、物質を構成する最小の単位を解明し、その相互作用を理解することです。自然界に存在する電磁気力、弱い力、強い力、重力の4つの力を統一する究極理論の最有力候補、それが超弦理論です。



26

「視線・表情・間合いを読むコンピュータ」

川嶋宏彰（大学院情報学研究科）



人は、他者の視線や表情をみて、その人の興味・注意や、集中の有無などといった心的状態を読み取ることができます。コンピュータ・人工知能が人の視線や表情を読む方法や、それに基づいて適切な間合い・タイミングでやり取りする仕組みを紹介します。



27

「RNA ～細胞の運命を自在に操る～」

齊藤博英（iPS細胞研究所）



いい薬ができればいい賞

RNA という物質の機能を拡張し、細胞内の状態を識別して細胞の運命を自在に操る研究をしています。病気の細胞だけを殺す副作用のない薬や、欲しい細胞のみを選別する技術の実現を目指します。



28

「京都大学×高校生の研究＝「ELCAS」」

有賀哲也（学際融合教育研究推進センター高大接続科学教育ユニット ELCAS）



これからも広めてほしいで賞

主体的に科学を究めようとする高校生の育成を目的とし、全国から高校生を受け入れ、「講義、実習、合宿や発表会」を実施しています。昨年度は、日本初の高校生による論文集「ELCAS Journal」を創刊しました。ELCAS 修了生は延べ 500 名を超える大きな事業となっています。



29

「模倣される病—神経回路の病的遷移」

畑中悠佑（大学院医学研究科）



新たな発見が待ち遠しいで賞

脳と心の病は多様な行動表現型を示すが、脳内部においては、神経回路の遷移過程の破綻というただ一点に収斂する。神経変性疾患を動物の身体で再現する試みと、疾患に付随し再編される神経回路の解析手法を紹介する。



30

「炎を制する一超耐熱構造材料」

乾晴行（大学院工学研究科）



タービン効率共闘賞

高融点、高温強度に優れた MoSi₂ 基軸材料と他のシリサイドからなる Brittle/Brittle 複相材料（融点約 2000°C）中の界面の高機能化により、高温高強度、高靱性を兼ね備えた 1800°C 級ガスタービンで使用可能な超耐熱材料の開発を目指しています。



31

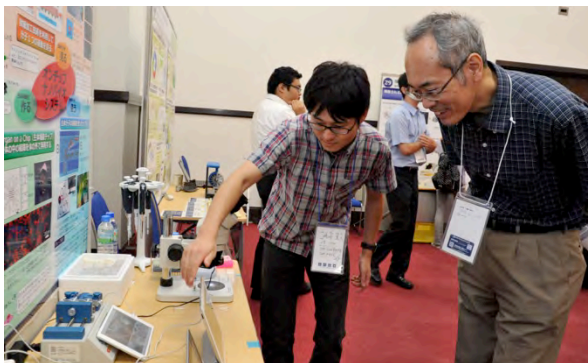
「機械加工と生体分子で創るナノシステム」

横川隆司（大学院工学研究科）



クイズ、動画で分かりやすかったで賞

マイクロ・ナノスケールの微小流体デバイスとモータタンパク質の工学的な設計によって、新たなナノバイオシステムを提案します。電気・機械的な人工モーターだけでは実現できない、タンパク質で駆動する分子操作のための技術を紹介します。



32

「アルツハイマー病のより正確な診断手法」

入江一浩（大学院農学研究科）



未来への希望賞

アルツハイマー病の原因物質であるアミロイドβにおいて、神経細胞に対して毒性を示す立体構造を標的とする抗体を開発しました。より正確かつ早期に診断するためのツールとしての活用が期待されます。



33

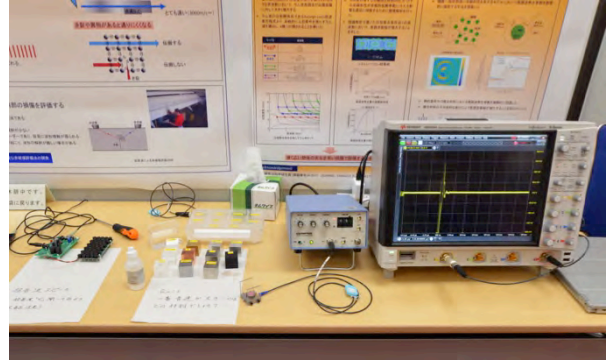
「音で見る ー超音波による非破壊検査ー」

松田直樹（大学院工学研究科）



将来の進路について役に立ったで賞

安全な暮らしを影から支える非破壊評価法についてご紹介します。超音波とは何かから最先端の複合材料の検査まで、幅広く扱います。音に関する疑問・質問にもお答えします。



34

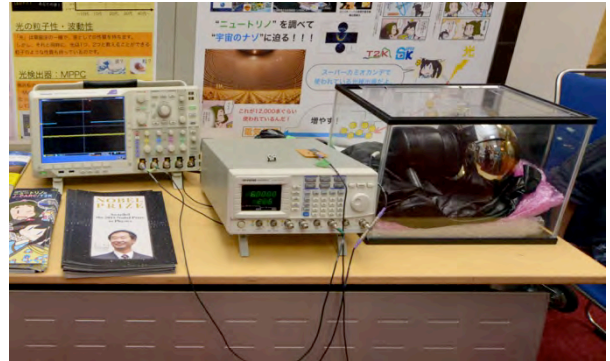
「素粒子実験って何してんの？」

中村輝石（大学院理学研究科）



いつまでも熱心に質問に答えてくれたで賞

巨大な装置でめちゃくちゃ小さい素粒子を見てると宇宙が分かる。かもしれない。



35

「科学とアートの“想像力”が会うとき」

城綾実（物質ー細胞統合システム拠点）



想像力がすごいで賞

科学があまり身近でない人たちにも、科学の面白さや美しさに触れてもらえたら。そこで生まれた感動が科学者の力になれば・・・今回展示する、細胞や分子結晶の写真などを用いたドレスや造形物などは、そんな思いで制作されました。



36

「人道のための戦争？よりマシな悪を選ぶ」

大庭弘継（大学院文学研究科）



新しい視点をもつことができたで賞

虐殺をやめさせるための戦争、それが人道的介入です。しかし、目的が人道でも、中身は戦争であり、民間人の犠牲者も数多く生じます。一方で放っておくと、さらなる虐殺が続きます。介入も不介入も悪の選択です。が、どちらがよりマシな選択でしょうか？



37

「繰返す震度7地震に対する建物の耐震性」

竹脇出（大学院工学研究科）



不安を安心に変える素晴らしい技術で賞

2016年の熊本地震では、震度7の揺れを2回経験するという前代未聞の事態が発生した。建物は、これまで震度7を一度受けることしか想定していないため、それに耐えられるようにするにはどのようにしたらよいかよく理解されていない。それについてわかりやすく解説する。



38

「ハイランドカープの塩分耐性」

京都府立城南菱創高等学校 科学部



熱心に研究してるで賞

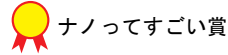
ハイランドカープは出産する珍しい淡水魚で、実験材料として興味深い魚です。今回、ハイランドカープの塩分耐性を調べ、汽水に順化させると海水に近い濃度で生存可能なことがわかりました。他の淡水魚の塩分耐性の結果をあわせて発表します。



39

「幹細胞が精子を作る活性には周期がある」

篠原美都（大学院医学研究科）

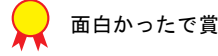


ナノってすごい賞

精巣には沢山の数の精子幹細胞があり、精子はそれらが作り出す産物が混ざったものです。私たちはそれぞれの幹細胞がどのような構成で精子を作っているのかを“数理解析”という手法を使って調べました。このポスターでは最新の研究成果をご紹介します。

「精子を作る幹細胞とその技術」

篠原隆司（大学院医学研究科）



面白かったで賞

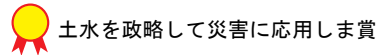
精巣では毎日沢山の数の精子が幹細胞から作られています。私たちは、マウスの精子幹細胞が精子を作るメカニズムの解析や、幹細胞を試験管内や個体の中で操作する技術の開発を行っています。このポスターでは精子幹細胞にまつわるお話や、研究室で得られた最新の話題をご紹介します。



40

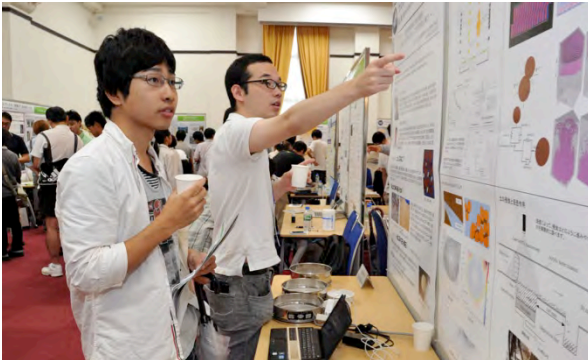
「『土と水の科学』と農業水利施設」

村上章（大学院農学研究科）



土水を政略して災害に応用しま賞

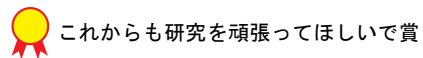
土質材料で構成される農業水利施設は、豪雨、地震、侵食による被害を受けます。「土」の被害は「水」と深く関わっているのです。私たちは、農業水利施設のマネジメントを目的として、土と水に関する力学を基礎および応用の観点から研究しています。



41

「六方晶窒化ホウ素のはく離と化学修飾」

小松直樹（大学院人間・環境学研究科）



これからも研究を頑張ってほしいで賞

近年、二次元ナノシートのはく離を経た合成が盛んに検討されている。本研究では、六方晶窒化ホウ素を各種はく離剤共存下で、液相中、固相中にてはく離を行い、得られたナノシートをポリグリセロールで修飾することで、生体環境下で安定に分散させることに成功した。



42

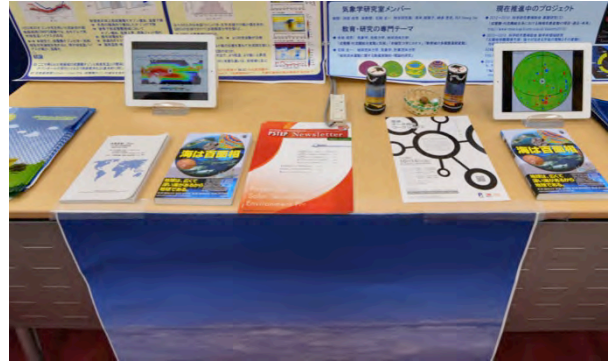
「成層圏と対流圏をつなぐ極端気象変動」

余田成男（大学院理学研究科）



研究のウラ話を聞けたで賞

日々の気象変動のなかでめったに出現しない極端な現象がある。ジェット気流の大蛇行や熱帯域の対流雲活動の組織的活発化などが典型例であるが、はるか上空の成層圏の循環状態が重要な働きをしていることが解ってきた。



43

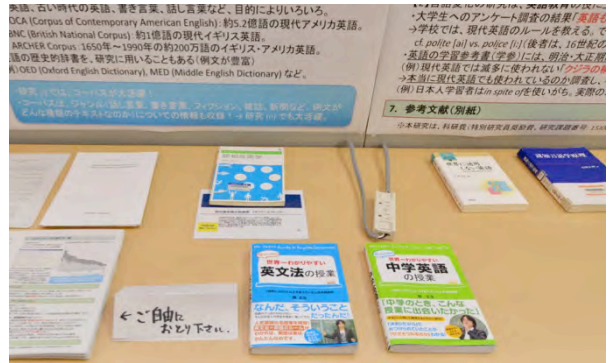
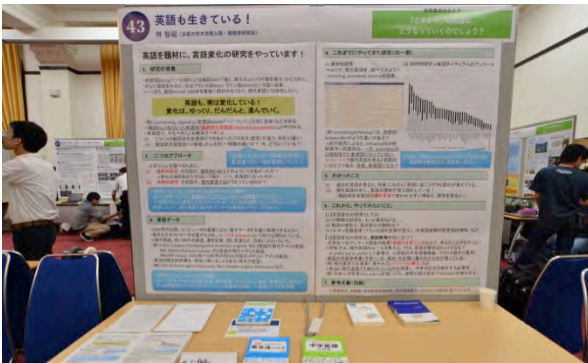
「英語も生きています！」

林智昭（大学院人間・環境学研究科）



英語についてこれからも情報発信してください賞

私たちは、学校では、国語、英文法などのルールを教わり、テストでは「正しい」言葉を尋ねられます。ここで意外と見落とされがちなのは、言葉は絶えず変化しているという事実です。言語変化という視点から、英語を見つめ直してみませんか。



44

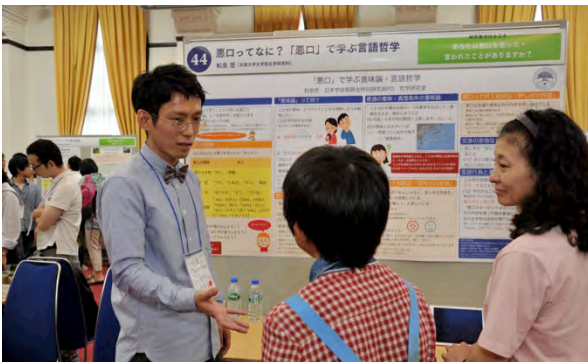
「悪口ってなに？「悪口」で学ぶ言語哲学」

和泉悠（大学院文学研究科）



参加者の関心を集めたで賞

「悪口」(slur) とはなんだろう？どんなことばが悪口で、どうしてそれが悪口なんだろう？なぜ悪口が「成功する」、「効果的」なんだろう？哲学・言語学の最近の研究成果に基づいて、こうした問いにチャレンジします。意外に奥の深い悪口の仕組みの分析を通じて、そもそも言語を研究するとはどういうことか、言語哲学者・言語学者の仕事を紹介します。



45

「ダムから考える植民地台湾」

清水美里（大学院教育学研究科）



日台友好のために知りたいで賞

1930年代に台湾で作られたダム。最近、「日本人が造った」とちょっとした話題になっているが、お金を出したのは誰？働いていたのは誰？どんな技術が使われた？うまくいったのか？何が変わったのか？などなど植民地と開発の孕む問題について研究しています。



46

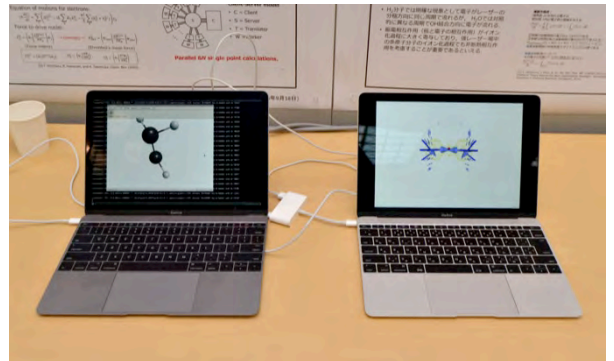
「分子内の電子のダイナミクスを観る・操る」

高塚和夫（福井謙一記念研究センター）



熱心に研究について話していただいたで賞

生体の中の化学反応を含めて、分子レベルにおける物質の性質や変化は、主に分子の中で電子の存在する在り方や移動・流れによって支配される。私たちは、理論（量子論）によって、化学反応を中心に、分子内の電子流によって出現する現象を観測・予測・制御するための理論を展開している。



47

「南の島に生きる」

紺屋あかり（東南アジア研究所）



島民の生活に体を張って密着したで賞

グローバル化の状況下で、島嶼に生きる人びとの生活は急激に変化しています。人びとは自然・社会環境の変化にどのように対応しているのでしょうか？フィールドワークの事例をもとに、アジア太平洋島嶼地域の生活戦略について一緒に考えてみましょう。



48

「遺伝子スイッチでガンを治す」

杉山弘（大学院理学研究科）



ためになったで賞

DNAの塩基配列に対して選択的に結合する化合物である「遺伝子スイッチ」を使ってガン細胞を撃退しようとしています。



49

「地域の持続可能性を計る」

佐藤彰洋（大学院情報学研究科）



地図とデータで明るい未来を作りたいで賞

インターネット、政府統計、衛星などからあつめられたデータの組合せから地域の持続可能性を調べられるWebアプリケーションの開発をおこなっています。このWebアプリを使ってどのようなことが分かるかの実演と、その研究から理解できてきた研究成果についてご紹介します。



4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話（サイエンスカフェ）

50

「ナノ空間の世界と化学」

北川進（物質—細胞統合システム拠点）



すごく分かりやすく教えていただき嬉しいで賞

一般に耳にするナノテクノロジーはナノサイズの物質を作り、物質自体の新しい機能を生み出す技術を指す。では反対に、ナノサイズの空洞（ナノ空間）にはどのような機能があるだろうか。実は、ナノ空間には特定の分子を捕まえたり、溜め込んだりする機能がある。私たちは、そのようなナノ空間をデザインし、環境やエネルギー分野の新技术開発に貢献できる新しい物質開発を行っています。



51

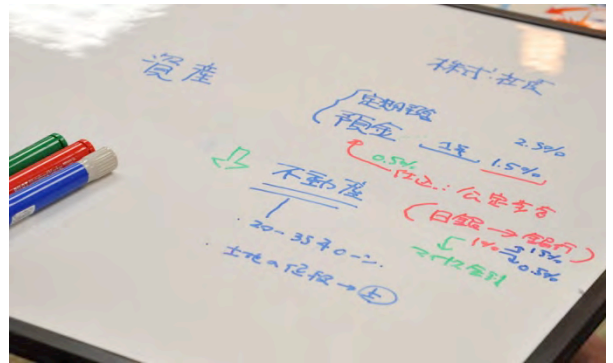
「国際政治経済学への招待状」

坂出健（大学院経済学研究科）



とても勉強になったで賞

近代の国家・集団・個人の関係はどのような構造をもち、どのような歴史を通じて形成され、どのような特性をもっているのか？本対話では、「ウェストファリア体制」とも呼ばれる、国家が相互に主権を認め合うシステムを検討し、リアリズム・リベラリズム・アイデンティティという三つの基本的視点を紹介します。



52

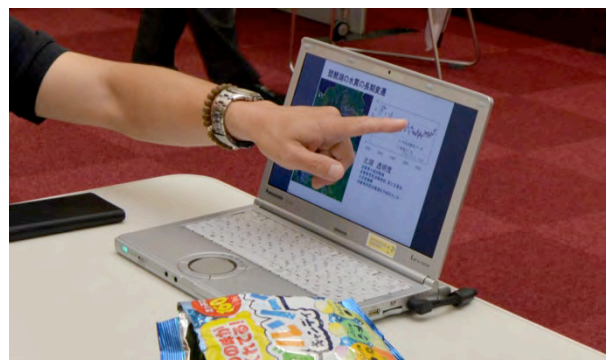
「琵琶湖にひそむちょっと変わった食物連鎖」

中野伸一（生態学研究センター）



バナナのこともっと知りたいで賞

夏の琵琶湖の深い層は、生物の餌が少ない真っ暗な世界ですが、変わった形のバクテリアとバクテリアを食べる原生動物が食物連鎖を作っています。普段は見る事ができない微生物の生態をのぞいてみませんか？



53

「いのちのバトナーヒト遺伝を考えよう」

和田敬仁（大学院医学研究科）



目に見て分かりやすく展示されてたで賞

私たちは「いでん」といういのちのリレーで、祖先から子孫にバトンを受け継ぎます。バトンの色はたった4種類の色の組み合わせでも、多様な個性を作り出します。小中高大学生、親子も大歓迎!一緒にヒトの遺伝を考えましょう!



54

「自動車触媒とコンピュータ計算化学」

榎茂好（福井謙一記念研究センター）



知らない世界をじっくり見せてくれたで賞

高価な白金が自動車触媒に多量に使用されています。白金を多量に存在する安価な金属に代替する研究が行われていますが、その研究にコンピュータによる理論計算化学が参加しています。どのように役に立つのでしょうか。



55

「人工知能は社会や学校をどう変えるか」

鈴木晶子（大学院教育学研究科）



SFを読みたくなったで賞

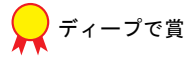
人工知能やロボットが人間を超えてしまう時代が来るのでしょうか。未来を触覚的な判断力で予感しながら行動する「感覚のわざ」タクトの研究成果をもとに、究極の人間らしさについて鉄腕アトムと考えます。



56

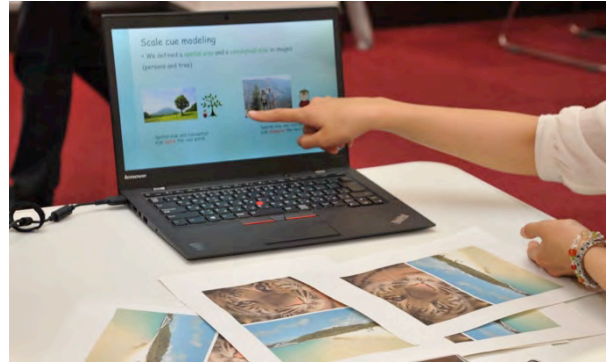
「写真からあなたの気分が分かる（かも）」

梁雪峰（大学院情報学研究所）



ディープで賞

写真は撮ったときの気分と関係あることを知っていますか。気分のいいときには遠景、悪いときには近景を撮る傾向があると言われていています。我々は写真を認識することによって撮影者の気分を推測する技術を開発しました。



57

「福島を見守る「目」」

谷垣実（原子炉実験所）



日本中に KURAMA を走らせま賞

東電事故のような原子力災害への対応では、目に見えない放射線を捉える「目」が重要です。私たちが福島を見守る「目」として開発した放射線計測システム KURAMA や、その「目」を通して見えてきたものをご紹介します。



4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
1	○	キムカブジン／化学研究所 奥野堯也／化学研究所	助教 修士課程 2年
2	○	松田道行／大学院生命科学研究科 小長谷有美／大学院生命科学研究科 今西彩子／大学院生命科学研究科 寺井健太／大学院医学研究科 小西義延／大学院医学研究科 金城智章／大学院医学研究科 九野宗大／大学院医学部医学科	教授 博士課程 1年 修士課程 2年 特定准教授 博士課程 2年 博士課程 1年 5年
3	○	金賢得／大学院理学研究科 阿部紀遥／大学院理学研究科	助教 博士研究員
4	○	伊藤喜宏／防災研究所	准教授
5	○	川勝和哉／兵庫県立西脇高等学校 石井紗智／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕 村上智／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕 田中朱音／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕 戸田亮河／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕 村上凱星／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕 笹倉瑠那／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕 福田俊介／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕 神崎直哉／兵庫県立西脇高等学校 地学部〔マグマ班〕	顧問教諭 2年 2年 2年 2年 1年 1年 1年 1年
6	○	杉本直志／iPS細胞研究所	特定拠点助教
7	○	田中貴浩／大学院理学研究科 瀬戸直樹／大学院理学研究科 中野寛之／大学院理学研究科 野澤真人／大学院理学研究科	教授 助教 日本学術振興会特別研究員 PD 日本学術振興会特別研究員 PD
8	○	大本義正／大学院情報学研究科	助教
9	○	田中功／大学院工学研究科 高橋亮／大学院工学研究科 小田陽之／大学院工学研究科 村井敦／名古屋大学 成瀬大介／名古屋大学 石原佐季／東京大学 藤原弘樹／大阪大学	教授 博士課程 3年 修士課程 1年 修士課程 1年 修士課程 1年 修士課程 1年 修士課程 1年
10	○	田鶴寿弥子／生存圏研究所 反町始／生存圏研究所 杉山淳司／生存圏研究所	助教 技術専門職員 教授
11	○	松田素二／大学院文学研究科 松居和子／大学院文学研究科 桐越仁美／大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	教授 教務補佐員 博士課程 3年
12	○	藪塚武史／大学院エネルギー科学研究科 城所泰孝／大学院エネルギー科学研究科 昼田智子／大学院エネルギー科学研究科 山本雅也／大学院エネルギー科学研究科 栗本翔太／工学部 渡辺慎／工学部	助教 修士課程 2年 修士課程 1年 修士課程 1年 4年 4年
13	○	名倉康太／大学院人間・環境学研究科	博士課程 1年

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
14	○	秋吉一成／大学院工学研究科 澤田晋一／ERATO 秋吉バイオナノトランスポータープロジェクト 向井貞篤／ERATO 秋吉バイオナノトランスポータープロジェクト 奥村成和／ERATO 秋吉バイオナノトランスポータープロジェクト 野田佳菜子／ERATO 秋吉バイオナノトランスポータープロジェクト	教授（研究総括） 助教（研究総括補佐） 特定准教授 研究推進主任 研究推進員
15	○	井上康博／再生医科学研究所 立尾樹／再生医科学研究所 新田泰大／再生医科学研究所	准教授 修士課程1年 オフィスアシスタント
16	○	猪股雅美／兵庫県立加古川東高等学校 藤原聡／兵庫県立加古川東高等学校 玉田麗／自然科学物理班微小重力チーム 頃安祐輔／自然科学部 物理班微小重力チーム 荒谷健太／自然科学部 物理班微小重力チーム 高井みく／自然科学部 物理班微小重力チーム 藤原圭梧／自然科学部 物理班微小重力チーム 澤田さくら子／自然科学部 物理班微小重力チーム 中野勝太／自然科学部 地学班真砂土チーム 中野美玖／自然科学部 地学班真砂土チーム 尾藤美樹／自然科学部 地学班真砂土チーム 岡部和佳奈／自然科学部 物理班粉粒体チーム 籠谷昌哉／自然科学部 物理班粉粒体チーム 三俣風花／自然科学部 物理班粉粒体チーム 大西巧真／自然科学部 物理班粉粒体チーム 小林秀太／自然科学部 物理班粉粒体チーム 多湖崇人／自然科学部 物理班粉粒体チーム 前谷風弥／自然科学部 物理班粉粒体チーム	教諭 教諭 2年 2年 2年 1年 1年 1年 1年 1年 1年 2年 2年 2年 2年 1年 1年 1年
17	○	趙亮／総合生存学館	准教授
18	○	平井俊男／大阪府立長尾高等学校 笹部純史／大阪府立長尾高等学校 山口嵩斗／大阪府立長尾高等学校 理科研究同好会 河内脩作／大阪府立長尾高等学校 理科研究同好会 岡島拓未／大阪府立長尾高等学校 理科研究同好会 大槻奏空／大阪府立長尾高等学校 理科研究同好会 河合陽菜乃／大阪府立長尾高等学校 理科研究同好会	教諭 教諭 2年 2年 2年 2年 2年
19	○	小杉緑子／大学院農学研究科 鶴田健二／大学院農学研究科 鎌倉真依／大学院農学研究科 吉村謙一／大学院農学研究科 勝山正則／学際融合教育研究推進センター	教授 研究員 研究員 研究員 特定准教授
20	○	八田太一／iPS細胞研究所	特定研究員
21	○	成田千尋／大学院文学研究科	日本学術振興会特別研究員 PD
22	○	辻伸泰／大学院工学研究科 柴田曉伸／大学院工学研究科 中村慶彦／大学院工学研究科 吉田修平／大学院工学研究科 黄錫永／大学院工学研究科 毛文奇／大学院工学研究科	教授 准教授 修士課程1年 修士課程1年 修士課程1年 修士課程1年
23	○	西郷南海子／大学院教育学研究科	日本学術振興会特別研究員 DC1
24	○	田中庸裕／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元 素戦略研究拠点ユニット	教授
	○	田中功／構造材料元素戦略研究拠点ユニット	教授

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
		大石毅一郎／構造材料元素戦略研究拠点ユニット 落合庄治郎／構造材料元素戦略研究拠点ユニット 太田浩二／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元素戦略研究拠点ユニット 細川三郎／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元素戦略研究拠点ユニット 大谷裕子／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元素戦略研究拠点ユニット	特定准教授 特任教授 特定教授 特定准教授 特定研究員
25	○	吉田健太郎／大学院理学研究科 津村浩二／大学院理学研究科 坂本純一／大学院理学研究科 京野秀紀／大学院理学研究科	助教 助教 博士課程1年 博士課程1年
26	○	川嶋宏彰／大学院情報学研究科 下西慶／大学院情報学研究科 澤信吾／大学院情報学研究科 西出智貴／大学院情報学研究科	准教授 博士課程2年 修士課程1年 修士課程1年
27	○	齊藤博英／iPS細胞研究所 大野博久／iPS細胞研究所 川崎俊輔／大学院医学研究科 弘澤萌／大学院医学研究科 長島瑠子／総合生存学館	教授 特定研究員 博士課程3年 博士課程1年 博士課程1年
28	○	有賀哲也／学際融合教育研究推進センター 高大接続科学教育ユニット 渡部祐司／学際融合教育研究推進センター 高大接続科学教育ユニット 橋爪圭／学際融合教育研究推進センター 高大接続科学教育ユニット 高田美砂／学際融合教育研究推進センター 高大接続科学教育ユニット 門川朋樹／学際融合教育研究推進センター 高大接続科学教育ユニット 古川悠／学際融合教育研究推進センター 高大接続科学教育ユニット 飯尾一輝／大阪府立豊中高等学校	高大接続科学教育ユニット長 コーディネーター サブコーディネーター サブコーディネーター サブコーディネーター サブコーディネーター サブコーディネーター 2年
29	○	畑中悠佑／大学院医学研究科 上村紀仁／大学院医学研究科 生野真嗣／大学院医学研究科 奥田真也／大学院医学研究科	特定助教 特定助教 博士課程4年 博士課程2年
30	○	乾晴行／大学院工学研究科 岸田恭輔／大学院工学研究科 岡本範彦／大学院工学研究科 松野下裕貴／大学院工学研究科 丸山拓仁／大学院工学研究科 神原佑季／大学院工学研究科	教授 准教授 助教 博士研究員 修士課程2年 修士課程1年
31	○	横川隆司／大学院工学研究科 磯崎直人／大学院工学研究科 浮田一輝／大学院工学研究科	准教授 博士課程3年 修士課程1年
32	○	入江一浩／大学院農学研究科 村上一馬／大学院農学研究科 久米利明／大学院薬学研究科	教授 准教授 准教授
33	○	松田直樹／大学院工学研究科	助教
34	○	中村輝石／大学院理学研究科 田中駿祐／大学院理学研究科 芦田洋輔／大学院理学研究科 赤塚駿一／大学院理学研究科 野口陽平／大学院理学研究科 潘晟／大学院理学研究科	特定研究員 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 博士課程1年

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
35	○	城綾実／物質一細胞統合システム拠点 一方井祐子／物質一細胞統合システム拠点 馬場美恵子／物質一細胞統合システム拠点 水町衣里／大阪大学／物質一細胞統合システム拠点	特定研究員 特定研究員 研究支援員 客員助教
36	○	大庭弘継／大学院文学研究科 眞嶋俊造／北海道大学 中村長史／東京大学	研究員 准教授 特任研究員
37	○	竹脇出／大学院工学研究科 藤田皓平／大学院工学研究科 小島紘太郎／大学院工学研究科 鍋島国彦／大学院工学研究科	教授 助教 博士課程 2年 博士課程 1年
38	○	林博之／京都府立城南菱創高等学校 今西康史郎／京都府立城南菱創高等学校 科学部 蔵貫優果／京都府立城南菱創高等学校 科学部	教諭 2年 2年
39	○ ○	篠原隆司／大学院医学研究科 篠原美都／大学院医学研究科 渡邊哲史／大学院医学研究科 森本裕子／大学院医学研究科 森圭史／大学院医学研究科	教授 助教 助教 ポスドク 博士課程 4年
40	○	村上章／大学院農学研究科 藤澤和謙／大学院農学研究科	教授 准教授
41	○	小松直樹／大学院人間・環境学研究科 丸山恭平／大学院人間・環境学研究科	教授 修士課程 1年
42	○	余田成男／大学院理学研究科 西本絵梨子／大学院理学研究科 納多哲史／大学院理学研究科 BUI Hoang Hai／大学院理学研究科	教授 特定研究員 特定研究員 特定研究員
43	○	林智昭／大学院人間・環境学研究科	日本学術振興会特別研究員 PD
44	○	和泉悠／大学院文学研究科	日本学術振興会特別研究員 PD
45	○	清水美里／大学院教育学研究科 余姿慧／教育学研究科	日本学術振興会特別研究員 PD 修士課程 2年
46	○	高塚和夫／福井謙一記念研究センター 松岡貴英／福井謙一記念研究センター 山本憲太郎／福井謙一記念研究センター 市川雄一／福井謙一記念研究センター	リサーチリーダー 研究フェロー 研究フェロー 研究フェロー
47	○	紺屋あかり／東南アジア研究所 佐久間香子／東南アジア研究所 古川文美子／神戸大学	連携助教 連携研究員 特命助教
48	○	杉山弘／大学院理学研究科 板東俊和／大学院理学研究科 柏崎玄伍／大学院理学研究科 谷口純一／大学院理学研究科 朝光世煌／大学院理学研究科	教授 准教授 特定研究員 博士課程 2年 博士課程 1年
49	○	佐藤彰洋／大学院情報学研究科	助教
50	○	北川進／物質一細胞統合システム拠点 細野暢彦／物質一細胞統合システム拠点 日下心平／物質一細胞統合システム拠点 尾本賢一郎／物質一細胞統合システム拠点 Ko Nakeun／物質一細胞統合システム拠点	拠点長・教授 特定助教 特定助教 特定研究員 特定研究員

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
51	○	坂出健／大学院経済学研究科	准教授
52	○	中野伸一／生態学研究センター	教授
53	○	和田敬仁／大学院医学研究科 鳥嶋雅子／大学院医学研究科 秋山奈々／大学院医学研究科 高嶺恵理子／大学院医学研究科 松浦香里／大学院医学研究科	准教授 認定遺伝カウンセラー 博士課程 2年 修士課程 2年 修士課程 1年
54	○	榊茂好／福井謙一記念研究センター	シニアリサーチフェロー（名誉教授）
55	○	鈴木晶子／大学院教育学研究科 山名淳／大学院教育学研究科 鈴木重利／大学院教育学研究科 奥山恭平／大学院教育学研究科 鳥原悠人／大学院教育学研究科 佐藤里保／大学院文学研究科 山本賢太／工学部	教授 准教授 聴講生 修士課程 修士課程 修士課程 修士課程
56	○	梁雪峰／大学院情報学研究科 郭健／大学院情報学研究科	准教授 修士課程 1年
57	○	谷垣実／原子炉実験所	助教

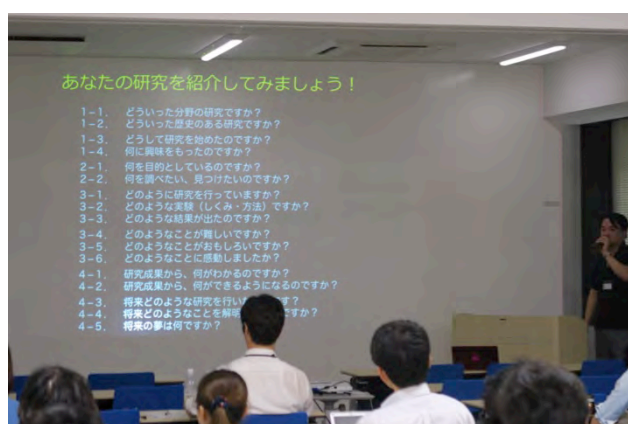
5. その他

5-1. 出展研究者向け事前説明会

■ 概要

2016年8月22日及び25日に学術研究支援棟地下会議室において、「京都大学アカデミックデイ」に参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主なねらいでした。

学術研究支援室の白井哲哉より「京都大学アカデミックデイ」開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話をするようになるのかを事前にお伝えすることで、準備がしやすくなることを狙っています。その後、専門外の人に研究を紹介する方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてのレクチャーを行いました。学会発表との違いをもとに紹介をしました。



5-2. イベント終了後の学内限定タイム（出展者交流）

■ 概要

京都大学アカデミックデイ閉幕後、参加研究者どうしの交流の場として出展者や出展者の研究室の学生などを対象とした学内限定タイムを設けました。参加研究者どうしでポスターを見たり、対話したりするなど研究者間の異分野交流のほか、京都大学アカデミックデイ賞の発表も行いました。



5-3. 広報物

「京都大学アカデミックデイ」のポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関及び公共機関等に配布を行いました。また、京都市バス・地下鉄へ広告掲載を行いました。

■ 5-3-1. ポスター (A2 サイズ)

京都大学 *Kyoto University* アカデミックデイ *Academic Day* 2016



研究について、いろいろな人と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

開催日時 **2016年9月18日(日) 10:00-16:00**
会場 **京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館**
参加費 **無料(申込み不要)**

Date
10am-16pm, 18 September, Sunday, 2016

Venue
Kyoto University
Clock Tower Centennial Hall

No charge / No registration required

1 研究者と立ち話 50件
Casual Chat with Researchers 50 groups
10:00-15:30 *ガイドツアーあり(随時開催)
Guided tours will be organized between 10am and 15:30pm to explore posters.
約200名の多様な京都大学研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。
Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.

2 ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 8件
Round-table Conversations with Researchers 8 groups
10:30-12:00 | 13:30-15:00
ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話。お茶の間風分で、ほっこりお話ししましょう。
You can sit around a tea table with our researchers. Enjoy open conversations to know what's going on behind their research.

3 お茶を片手に座談会
Tea-time Dialogues with Researchers
「進撃の巨大科学」◀ Attacks on Titanic Science ▶
10:00-16:00 展示 Exhibition
13:00-14:30(予定) 議論 Special talk

4 研究者の本棚
Bookshelves of Researchers
10:00-17:00 京都大学研究者のオススメの本を紹介・展示しています。
What inspired our researchers?
Their recommended books are on display with their personal reviews.

お問い合わせ先 Contact Information : 京都大学研究推進部「国民との科学・技術対話」担当 Research Promotion Division, Kyoto University Tel: 075-753-5659 E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
主催: 京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、[国民との科学・技術対話]ワーキンググループ)
後援: 京都大学生活共同組合、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Division, and Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with Citizens" at Kyoto University
Co-sponsors: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education, Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education, and Shiga Prefectural Board of Education

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/> #KyodaiAcaDay2016



■ 5-3-3. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

● 学術研究支援室ウェブサイト

参加研究者と高校生・高専生グループ募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

- 参加研究者募集案内 : <http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/62>
- 参加高校生・高専生グループ募集案内 : <http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/67>
- 開催案内 : <http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/72>

● 京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」ウェブサイト (K. U. RESEARCH)

京都大学アカデミックデイ専用ページを設置し、トップにハッシュタグ「#京大アカデイ 2016」がついたコメント等が流れるように設定しました。

● 京都大学アカデミックデイウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

また、出展研究についても、個別ページを作成しました。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2016/>

● 京都大学アカデミックデイ公式 (@KyodaiAcaDay) Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

昨年度から利用を始めた Twitter では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2016」を活用し、様々な情報を発信しました。「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手に座談会」の詳細を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。

● 京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」(K. U. RESEARCH) Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

イベントページを設置したほか、ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの更新情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2016」を活用しました。

本年度も「京都大学アカデミックデイ 2016」告知ならびに集客のため、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を利用しました。使用した SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウントです。開催日前日までは開催情報や出展情報などを告知し、開催当日は主に Twitter を使って会場の様子を伝えました。

● Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay>

ライブ感に重点を置き、拡散性を期待。ターゲットはスマートフォンのユーザー。

アカウント ID : @KyodaiAcaDay ハッシュタグ : #京大アカデイ 2016

「京都大学アカデミックデイ 2016」の参加研究者を募るツイートを 6 月 7 日に発信。同時に、公式アカウントの「半年ぶりの復活」を伝えました。その後、7 月にかけて出展者の募集を呼びかけ、8 月からは出展情報の詳細を URL と研究者名、研究者の Twitter アカウントが判明している場合はそのアカウントを含めて、1 出展につき 1 ツイートしました。また、出展研究者向け事前説明会開催情報ならびに説明会の様子を、写真をつけてツイートしたほか、京都大学アカデミックデイ開催日前日までは準備の様子をツイート

しました。開催日当日は、学生スタッフの協力を得て会場の様子などを写真付きでツイートし、来場者の誘導も促しました。

- ・公式アカウント開設から開催日までに同アカウントから流したツイート数：119
- ・総閲覧数：延べ8万7143人
- ・Engagement 率：平均3.28%（最高：19.16%）

● Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research/>

PC ユーザをターゲットに、K. U. RESEARCH のアカウントを利用して情報を発信しました。

Twitter と違い、同じ内容の投稿を繰り返すと「飽きられ」感が出るため、内容を絞って投稿しました。

ハッシュタグ「#京大アカデイ 2016」で、検索しやすさを向上したほか、SNS における一体感を出しました。

- ・K. U. Research のアカウントで流した件数：5 件（イベントページ含む）
- ・流した内容ならびにリーチ数は以下の通り

投稿日	内容	リーチ	シェア・クリック等
2016 年 7 月 5 日	参加高校生・高専生グループの募集開始！	161	16
2016 年 8 月 15 日	出展情報を公開！	281	18
2016 年 8 月 19 日	ポスターとチラシの PDF を掲載	753	62
2016 年 9 月 6 日	#京大アカデイ 2016：ポケゼミ生が企画デザイン	1026	145
2016 年 9 月 6 日	イベントページ開設	764	-

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

「京都大学アカデミックデイ」は、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

工藤洋	生態学研究センター	教授
楠見孝	大学院教育学研究科	教授
渡邊大	大学院医学研究科	教授
喜多一	国際高等教育院	教授
伊勢田哲治	大学院文学研究科	准教授
磯部洋明	総合生存学館	准教授
塩瀬隆之	総合博物館	准教授
元木環	情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教
城綾実	物質－細胞統合システム拠点	特定研究員
一色博	総務部渉外課	課長
岡田智恵美	企画・情報部広報課	課長
林史晃	研究推進部研究推進課	課長
佐治英郎	学術研究支援室	室長

URAネットワーク

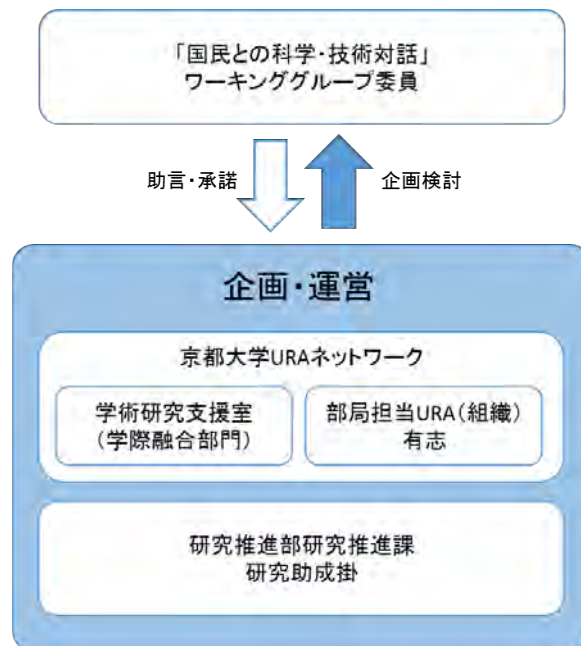
天野絵里子	学術研究支援室	URA
笠原のりこ	学術研究支援室	URA
神谷俊郎	学術研究支援室	URA
白井哲哉	学術研究支援室	URA
仲野安紗	学術研究支援室	URA
吉岡佐知子	学術研究支援室	URA

研究推進部研究推進課

山下絵理子	研究助成掛
藤永澄夫	研究助成掛
巴山涼子	研究助成掛
中村順子	研究助成掛
時武広美	研究助成掛

6-2. スタッフリスト

企画	URAネットワーク 研究推進部研究推進課
デザイン（広報・サイン）	須山悠里（suyama design）
学生スタッフ	有限会社関西教育考学： 原田真実（大学院地球環境学舎 修士2年） 倉田康平（大学院農学研究科 修士1年） 伊佐治俊策（農学部 4年） 降旗大岳（理学部 4年） 吉田雄介（工学部 4年） 楊木萌（農学部 4年） 古賀貢史（大学院工学研究科 修士2年） 千代延良介（大学院文学研究科 修士1年） 瀧川晶文（農学部 5年） 谷崎可菜子（文学部 4年） 村瀬亜美（医学部 2年） 松浦正典（農学部 1年） 奥田尚（理学部 1年）
写真撮影	大森貴生
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



6-3. 準備スケジュール

2015年	6月	会場予約（百周年時計台記念館）
2016年	4月 中旬	第1回ミーティング（開催趣旨・経緯確認）
		第2回ミーティング（ワーキング開催検討、スケジュール確認）
		下旬 第3回ミーティング（予算・業務分担確認）
	5月 中旬	第4回ミーティング（ワーキングの日程確認、出展募集・申込スキーム確認）
		下旬 出展者募集チラシ作成 ウェブサイト・SNS 公募情報アップ
	6月 月上旬	第5回ミーティング（附属図書館連携打合せ）
		第6回ミーティング（生協連携打合せ）
		参加研究者募集 会場設営・託児業者連絡（日程確保）
	中旬	ワーキング開催（京都大学アカデミックデイ 2016 の進捗確認・方針決定）
	下旬	チラシ・ポスター作成開始 後援依頼（教育委員会）
	7月 月上旬	京都府教育庁訪問（京都府下高校への周知依頼） 参加高校生・高専生グループ募集
		中旬 参加研究者募集締切 チラシ・ポスター納品 オープンキャンパス連携打合せ
		下旬 第7回ミーティング（参加研究者決定、参加高校生・高専生グループ募集の進捗確認） チラシ・ポスター発送 参加研究者へ出展申込書送付 参加高校生・高専生グループ募集締切・審査・出展申込書送付
	8月 月上旬	第8回ミーティング（出展申込状況・事前説明会確認、配置・最終案内検討） 参加研究者・参加高校生・高専生グループ出展申込書とりまとめ、ブース番号検討 ブックリスト作成開始 会場デザイン作成開始 京都大学アカデミックデイ WEB 入力開始
		中旬 学生バイト募集開始
		下旬 第9回ミーティング（各企画進捗確認） 事前説明会開催 会場デザイン完成・発注
	9月 月上旬	第10回ミーティング（進捗最終確認） 会場デザイン物納品 ブックリスト完成 パンフレット・アンケート発注 京都大学アカデミックデイ WEB 入力完了
14日 中吊り広告掲示開始～17日（地下鉄・市バス） ノベルティ納品		
16日 パンフレット・アンケート納品		
17日 前日設営準備		
18日 京都大学アカデミックデイ 2016		

6-4. デザイン・制作物スケジュール

		出展募集チラシ	ノベルティ	開催チラシ ・ ポスター	会場配置案 ・ 会場サイン	当日プログラム ・ 来場者アンケート
2016	5月 下旬	作成 ↓				
	6月 初旬	納品				
	下旬		検討開始 ↓	作成 ↓		
	7月 上旬			入稿・印刷 (外部発注) ↓		
	中旬			納品		
	下旬		外部発注 ↓			
	8月 上旬				作成 ↓	
	中旬		納品			
	下旬				入稿・印刷 (外部発注) ↓	
	9月 上旬				納品	作成 ↓
	中旬					納品
	下旬					

京都大学アカデミックデイ2016



『研究者の本棚』 ブックリスト



項目説明

ブックリストとは・・・研究者のオススメの本を紹介します。

※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

- ブース番号 出展者のブース番号
- 出展区分 「研究者と立ち話(ポスター／展示)」
「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」
「お茶を片手に座談会」
- 所属・職名・氏名 出展代表者の所属・職名・氏名
- 出展タイトル 出展研究者の出展タイトル
- ジャンル ※今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本
※今ハマっている本(誰かはこの本について話したい)
※若者にお勧めしたい本
※自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。
- 書名／著者名／出版社名 オススメする本の書名／著者名／出版社名
- 推薦理由、コメント、エピソード等 オススメする理由、コメントなど
- 『書名』の横の★★ 『研究者の本棚』コーナーに展示あり



ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
2	研究者と立ち話(ポスター/展示)	大学院生命科学研究所 教授 松田 道行	ネズミと会話ってできるの?	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』★★ フィリップ・K・ディック ハヤカワ文庫 SF (229)	「フィリップ・K・ディックの作品は、『現実』の脆さや個人のアイデンティティ構築をテーマにすることが多いと一般に評価されています。本作は数ある彼のSF作品の中でも、映画化やパロディ化がなされ広く知られた作品です。彼が問いかける、「あなたの信じる現実本当に本物か」という問い、この姿勢はサイエンスに通じるものがあると思います。彼の構築する世界観への最適な導入として本書を推薦します。」
				若者にお勧めしたい本	『栄光なき天才たち』 伊藤 智義 (著), 森田 信吾 集英社文庫—コミック版	いわゆる漫画であるが、偉人伝でもある。山極勝三郎先生や、鈴木梅太郎先生の話は中学生の私には印象的でした。
					『精神と物質』★★ 利根川進、立花隆 文春文庫	利根川進博士の大学院時代からノーベル賞受賞にいたる研究の流れをまとめた本です。インタビューをベースに、利根川博士の研究に対する哲学が語られていて、一流の研究者の考え方がよくわかります。適宜分子生物学のバックグラウンドに関する解説が入っているのですが、その解説もとてもわかりやすく楽しく読めるのでおすすめです。
4	研究者と立ち話(ポスター/展示)	防災研究所 准教授 伊藤 喜宏	スロー地震を地震災害軽減に利用する	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『東日本大震災を解き明かす』 NHKサイエンスZERO取材班、古村孝志、伊藤喜宏、辻健 HNK出版	私が防災に関する研究の重要性を再認識した災害でした。
6	研究者と立ち話(ポスター/展示)	iPS細胞研究所 特定拠点助教 杉本 直志	iPS細胞技術による血小板製剤の開発	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『優雅な留学が最高の復讐である』★★ 島岡要 医歯薬出版	留学を題材にして、人生設計の考え方を示してくれる良本でした。
				今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『村上春樹、河合隼雄に会いに行く』 村上春樹、河合隼雄 岩波書店	心理学と村上春樹の本についてわかった様な気になるお得な本でした。生物学の実験も、心理学の実験も、小説も同じことなんだと理解しました。どれも極端な状況をつくることで、本質をあぶり出していくということであると。
				若者にお勧めしたい本	『天才! 成功する人々の法則』★★ マルコム・グラッドウェル 講談社	原題はOutliersといい、並外れた人たちが生まれた環境背景がこれでもかと例示されます。才能と努力はし環境要素は見逃されがちですが、読むまで気づかなかった環境要素の様々な例は、子育てでのヒントになると感じます。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『再生医療叢書(幹細胞)』★★ 日本再生医療学会 監修 朝倉書店	iPS細胞を含め、幹細胞の生物学から、再生医療まで網羅された充実した書籍です。
7	研究者と立ち話(ポスター/展示)	大学院理学研究科 教授 田中 貴浩	待ちに待った重力波物理学の到来	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『学研の図鑑 宇宙』 学研	宇宙すげー、ロケット格好良いなあ。小学校の理科の授業での太陽観測と合わせて、非常に刺激になった。天文ガイド(誠文堂新光社)を買うようになり、下手な天体写真を撮るようになった。
				若者にお勧めしたい本	『時空のさざ波—重力波を求めて—』 坪野公夫	この本がきっかけで、大学院の入試の面接で重力波の話をしました。そのときは自分が重力波の研究をすることになるとは思ってもいなかったのですが。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『On the Electrodynamics of Moving Bodies』 Albert Einstein	本ではなく論文(原論分の英訳版)だが、こんな風に新しい理論が作られるのか!と感動する。 http://www.fourmilab.ch/etexts/einstein/specrel/www/
		『重力波をとらえる』 中村卓史、三尾典克、大橋正健 編著 京都大学学術出版会	この本の出版後も様々な研究の発展があるが、重力波を(もうすぐ)とらえるためのバイブルとしていつもそばに置いておきたい。(京都大学学術出版会によると在庫無しだそうです。)			

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
11	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院文学研究科教授 松田 素二	アフリカの潜在力が世界を救う	若者にお勧めしたい本	『アフリカ社会を学ぶ人のために』★★ 松田素二編 世界思想社	多様な民族・言語・生態環境をもつアフリカが体系的にわかる入門書。アフリカの経験してきた過去・困難・絶望のなかから、アフリカの潜在力を描きだし、人類社会の希望と可能性を展望する。21世紀のアフリカを理解するための必携書。
					『日常人類学宣言！』★★ 松田素二 世界思想社	パワフルなフィールドワークと透徹した論理で人類学の閉塞状況を突破する、高らかなマニフェスト。
					『ケニアを知るための55章』★★ 松田素二・津田みわ編 明石書店	エリアスタディーズのシリーズ101番目に刊行された。他に世界各国を知るための本が刊行されている。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『紛争をおさめる文化 アフリカ潜在力1』★★ 松田素二・平野（野元）美佐編 京都大学学術出版会	誰もが不完全であることを認める。これこそが、アフリカ文化に内在した世界観である。自らの「完全」性を信じ、それ以外のものへの不寛容や攻撃を「遅れたものを救済する」正義として正当化してきた西洋的近代の誤謬を糺す可能性がそこにはある。緻密な民族誌から、アフリカの日常的実践の持つ、紛争を回避し和解を進める力を析出する。
12	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院エネルギー科学研究科助教 藪塚 武史	生命体の骨格をつくるアバタイトの科学	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『知的生活の方法』★★ 渡部昇一 講談社現代新書	渡部昇一氏の名著。知識人とはどのような人間なのか、そこに近づくにはどのような生活を送ったらよいかを教えてくれたのが本書です。その領域にはまだまだ程遠い私ですが、数々の悩みをやり過ごしながらかも、研究と知識で飯を食う生活に憧れを持ち続けることができたのは、本書のおかげだったと今にして思います。絶版ですが、本書の続編「続・知的生活の方法」（講談社現代新書）の方が個人的には好きで、こちらは古書で現在も流通しています。
					『医学生』★★ 南木佳士 文春文庫	著者が秋田大学医学部で実際に医学生だったころをモチーフにして書いたとされる名作中の名作。私は医学部を志したことはありませんでしたが、今にして思えば、本書が医学のお手伝いをする「生体材料学」という分野を志すきっかけの一つだったように思います。エリート養成機関が舞台の話にしては実に泥臭く、切ないエピソードが満載です。人の命をあずかる仕事に就くことの大変さが、内臓をえぐられるかのようなリアルな文章で描かれています。
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『人類を変えた素晴らしき10の材料：その内なる宇宙を探検する』★★ マーク・ミーオドヴニク（著） 松井信彦（翻訳） インターシフト	医療、情報、電気、食生活、交通、…私たちは普段何の疑問もなく最新の科学技術を享受しながら日常生活を送っておりますが、それらを根幹で支えているのが「材料」の技術です。本書では鋼鉄、ガラス、紙、プラスチックなど、陰ながら私たちの生活を支えている10の材料にまつわるエピソードがまとめられています。なお第10章では、高齢者の生活を支援するインプラントについて語られています。
					『不屈の棋士』★★ 大川慎太郎 講談社現代新書	近年のコンピュータ将棋の発展には目を見張るものがあります。つい数年前までは「果たしてコンピュータはプロ棋士に勝てるのか」という図式だったのが、現在では「果たしてプロ棋士はコンピュータに勝てるのか」という図式にあとという間に塗り替えられました。株式会社ドワンゴ主催の「電王戦」を題材として、プロ棋士がコンピュータと人間との関わり合いについて赤裸々に語った興味深い一冊です。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
12	研究者と立ち話(ポスター/展示)	大学院工ネルギー科学研究科 助教 藪塚 武史	生命体の骨格をつくるアバタイトの科学	若者にお勧めしたい本	『世界で一番美しい分子図鑑』★★ セオドア・グレイ(著) ニック・マン(写真) 若林文高(監修) 武井摩利(訳) 創元社	ベストセラー「世界で一番美しい元素図鑑」の続編。前書では、周期表を題材に「元素」という物質を構成する最小単位について、様々な角度から解説されていましたが、本書では複数の元素(原子)が集まって構成される「分子」に着目し、実生活で使われている身近な「材料」等に着目した内容に仕上がっております。本書に限らず、写真入りの化学書は実に楽しいもので、おすすめです。
					『格闘するものに〇』★★ 三浦しをん 新潮文庫	直木賞作家・三浦しをんの処女作。漫画好き文系女子大生の抱腹絶倒就職活動奮戦記です。著者の初期の作品に特有な、ライトなタッチの文章が読者をグイグイ引き込みます。男性の方にも、もちろんおすすめです。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『セラミックバイオマテリアル』★★ 岡崎正之・山下仁大(編著) コロナ社	日本を代表するセラミックス系生体材料の第一人者の面々が執筆している本書。この分野の骨子が目白押しでお勧めです。内容が専門的すぎてよくわからない方は、第1章「バイオマテリアルとは」と、各章に時折登場する「コーヒープレイク」という囲み記事だけでも是非ご一読いただきたいと思います。セラミックス系生体材料の科学が、単なるマニアックな知識の塊で構成されているのではなく、物語性を持った研究分野であることを感じさせてくれる一冊です。
13	研究者と立ち話(ポスター/展示)	大学院人間・環境学研究科 博士課程1回生 名倉 康太	純有機磁性ナノ粒子の開発と臨床応用	若者にお勧めしたい本	『キラル化学-その起源から最新のキラル材料研究まで』★★ 日本化学会編 化学同人	今日のキラル化学に関する最先端の研究を平易に解説している。
					『世界で最も美しい10の科学実験』★★ ロバート・P・クリース 日経BP社	科学現象を実験的に解明してきた歴史を分かりやすく解説している。
					『自己組織化と進化の論理-宇宙を貫く複雑系の法則』★★ Stuart Kauffman 筑摩書房	非平衡自己組織化の観点から、生命の起源・生物進化・経済システム・民主主義の誕生を解説している。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『対称性-レーダーマンが語る量子から宇宙まで』★★ L. M. Lederman, C. T. Hill 白楊社	複雑系の真髄である相転移とそれに伴って発現する対称性の破れについて平易に解説している。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
19	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院農学研究科 教授 小杉 緑子	桐生水文試験地へようこそ	自分の研究に関連して紹介したい本	『森林飽和-国土の変貌を考える』★★ 太田猛彦 NHK出版	この本には、私の専門分野である「森林水文学」や「砂防学」がこれまで研究してきたことをもとに、日本の森林について、ぜひ皆さんに知って、考えてほしいことがまとめられています。我が国の国土の66%を占める森林が、どのような変遷をたどり、現在どのような状況なのか、また将来どのようにしていけばよいのか、について考えることは、我が国の未来を考えることでもあります。
21	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院文学研究科 日本学術振興会特別研究員（PD） 成田 千尋	東アジア国際関係からみた沖縄返還	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『沖縄戦後史』 中野好夫、新崎盛暉 岩波書店	沖縄には本土と全く違う戦後史があったということ、最初に気づかせてくれた本です。1945年から1972年までの米軍統治下の歴史について、主に政治面から記述されています。
				今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『琉球独立論—琉球民族のマニフェスト』★★ 松島泰勝 バジリコ	沖縄では独立論を求める人は多数派ではありませんが、数年前から議論が盛んになっています。この本は2014年に出版されたもので、琉球独立について歴史、理念、政治経済、国際関係など多角的なテーマから述べられています。何故現在独立論が出てくるのかということを考えるために、読んでもらいたい一冊です。
				若者にお勧めしたい本	『沖縄現代史—米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』★★ 櫻澤誠 中央公論新社	戦後から2015年前半までの沖縄の政治、経済、文化などの変遷についてバランスよく描かれています。沖縄の現状がどのような経緯を経てきたのかを知るために、ぜひ読んでもらいたい一冊です。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『冷戦期日韓安全保障関係の形成』★★ 崔慶原 慶応義塾大学出版会	日韓関係がテーマなので、沖縄についてはあまり触れていませんが、日米韓三国の史料を用いて実証的に記述されており、1960年代後半から70年代半ばの日韓関係について知る上でとても参考になる一冊です。
23	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院教育学研究科 日本学術振興会特別研究員 西郷 南海子	生きることが「アート」であるということ	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『子どもの美術』★★ 佐藤忠良・安野光雅ほか 復刊ドットコム	「（この本は）じょうずにものを作ったりすることがめあてではありません」という文章から始まる、図工教科書。私は2011年に、絶版になっていたこの本に偶然出会い、衝撃を受けました。なぜなら小学校のとき、私は先生の顔色を見て、先生の気に入らそうな絵を描いていたからです。「教育」とは何かまで考えさせられる1冊です。私の呼びかけで、2013年に復刊を果たしました。
				今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『経験としての芸術』★★ ジョン・デューイ（栗田修訳） 晃洋書房	デューイは、芸術を、作品自体（モノ）としてはとらえず、作品の経験への「はたらき」としてとらえました。作者の経験の一部が、鑑賞する人の経験へと流れ込み、相互作用が生まれるのです。何か作品を見たときに「ぐっ」とくる、あるいは「じわじわ」くるあの感覚を、とてもよく表した本だと思います。
				若者にお勧めしたい本	『アートで平和をつくる 沖縄・佐喜真美術館の軌跡』★★ 佐喜真道夫 岩波書店	時事問題としても注目される、沖縄の普天間米軍基地。政府との交渉の末、その敷地の一部を返還させて、美術館を立てた人がいます。この美術館では、丸木位里さん・俊さんなどの作品を通じて、人間が人間らしく生きられる世の中を求めています。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『アウトサイダー・アート 現代美術が忘れた「芸術」』★★ 服部正 光文社新書	正規の美術教育を受けなくても、独学で独創的な作品を生み出す人たちがいます。中には精神疾患や知的障がいをもつ人たちもいます。彼ら彼女らの作品からは「作り出さずにはいられない！」という、エネルギーのほとばしりを感じます。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
24	研究者と立ち話（ポスター／展示）	学際融合教育研究推進センター 特定准教授 大石毅一郎	元素戦略プロジェクト	自分の研究に関連して紹介したい本	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	元素戦略プロジェクトのプログラムオフィサーが著した本で、「元素戦略」のねらいがわかるように書かれている。
25	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院理学研究科 助教 吉田 健太郎	超弦理論とはなにか？	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ファインマン物理学〈5〉量子力学』★★ ファインマン、レイトン、サンズ、翻訳：砂川重信 岩波書店	経路積分法の発見者であるファインマンによる量子力学の講義。大学生時代に読んで、深い感銘を受けた。いま読み直しても、尚、その説明の鮮やかさ、洞察の深さに驚嘆するばかり。何度も読み返したい座右の書。
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『数学の大統一に挑む』★★ エドワード フレンケル 文藝春秋	最近、NHKの番組で放送があった。数学者はとっつきにくい人という先入観があったが、この著者は全く異なる。難しい概念を丁寧にわかりやすく説明するために創意工夫をこらし、一般人の視点から初等的な解説を試みる。彼の最先端の仕事に関する概説もあり、とても壮大な本だと思う。
				若者にお勧めしたい本	『超ひも理論をパパに習ってみた天才物理学者・浪速阪教授の70分講義』★★ 橋本 幸士 講談社	超弦理論という研究分野は、非常に高度な数学が必要で、その理解をするためには膨大な勉強時間が必要である。そんなイメージを払拭するがごとく、平易な言葉で明快な説明がなされる。いつか自分の子供たちに、超弦理論の話ができる日が来たらなあ、と思う。親にもお勧めしたい本。
			自分の研究に関連して紹介したい本	『はじめての〈超ひも理論〉』★ 川合 光 講談社	超弦理論の研究における第一人者による一般向けの書。ひもに関する初等的な解説からはじまり、宇宙論的な応用まで話が展開される。イラストも多く、説明も丁寧であり、その文章の勢いに乗って一気に読み通せる。専門家が読んで、その洞察の深さに強い感銘を受ける一冊。	
26	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院情報学研究科 准教授 川嶋 宏彰	視線・表情・間合いを読むコンピュータ	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『愛は脳を活性化する 岩波科学ライブラリー (42)』★★ 松本 元 岩波書店	立花隆の100億年の旅で著者の研究を知って、学部生の頃に読みました。自分で学習して自分で頭がよくなっていく脳型コンピュータやチップが開発されているということに驚きました。Deep Learning が話題の今こそ読み返すと新たな発見があるかも。
				若者にお勧めしたい本	『『少年探偵団』シリーズ』★★ 江戸川乱歩 ポプラ社	小学生のころワクワクしながら読んでいました。小林少年。表紙の絵がまたなんともよかったです。今年からパブリックドメインらしいです。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『SYNC (シンク)』★★ スティーヴン・ストロガッツ（蔵本由紀監修、長尾力訳） 早川書房	蛸はリーダーがなくとも光り方が同期して秩序が現れる。そんな話から始まって、宇宙、生物、脳、物理現象など、いたるところに存在する「同期（シンク）」の謎（原理）に迫ろうとします。周期的なものの同期ではなく、どうやって人同士の、もっと自由度の高い、間の合わせ方などへ展開できるのだろうかと思いつつながら読むのも面白いと思います。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
29	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院医学研究科 特定助教 畑中 悠佑	模倣される病—神経回路の病的遷移	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『脳のなかの幽霊』 V・S・ラマチャンドラン 角川文庫	切断された手足がまだあると感じる幻肢、両親を本人と認めず偽物と主張するカプグラ妄想。著者が出会った様々な患者の奇妙な症状を紹介しながら、脳の働きや不思議さに迫っていきます。大脳高次機能、brain science、神経内科に興味を持ったきっかけになった思い出の一冊です。
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『レナードの朝』★★ オリヴァー・サクス ハヤカワ・ノンフィクション	20世紀初頭に流行した脳炎の後遺症（パーキンソン症状）で、言葉や感情、体の自由が奪われてしまった患者が、奇跡の新薬L-DOPAの投与によって目覚める。しかし副作用で効果は長続きせず…。パーキンソン病に興味を持ったきっかけの一つでした。映画化されていて、ロバート・デ・ニーロの名演が印象的です。本当のパーキンソン病の患者さんも出演しています。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『ナチュン（マンガ）』 都留泰作 講談社	事故で左半球を失った、天才数学者・デュラム教授。言語でのコミュニケーションを失った彼はイルカの生態を映したビデオを「論文」として学会に発表する。誰もが嘲笑する中、主人公はそのビデオが人工知能を実現するためのヒントが示されていると気が付き…。沖縄から始まり、脳科学、人工知能、意識の誕生と壮大なスケール。こんな漫画は「火の鳥」以来ですよ！
					『ピコピコ少年』★★ 押切蓮介 太田出版	No game, No life. あの頃、ゲームがすべてだった自分を思い出します。押切蓮介の描く自伝的ゲーム青春グラフィティ。なお、この漫画は脳科学と全く関係ありません。
30	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院工学研究科 教授 乾 晴行	炎を制する—超耐熱構造材料	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『耐熱合金のおはなし』 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減、省エネルギーに寄与しているか、どのようにして材料設計が行われているのかなどについて初心者にもわかりやすく書かれた本で、非常に感銘を受けた。
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『元素戦略』 中山智弘 ダイヤモンド社	「材料を制する者が世界を制する。」元素を原子スケールでマニピュレートすることで、これまでない素晴らしい材料をいかに作り上げるかを考えさせられる。
				若者にお勧めしたい本	『航空の世紀』★★ 吉川康夫 技報堂出版	航空機における耐熱材料の重要性を系統的に理解するのに最適な書。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『金属間化合物入門』★★ 山口正治, 乾 晴行, 伊藤和博 内田老鶴圃	耐熱材料の中のエース, 金属間化合物について平易に述べられている。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
31	研究者と立ち話(ポスター/展示)	大学院工学研究科 准教授 横川 隆司	機械加工と生体分子で創るナノシステム	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	修士課程の時に留学したUCLAで教科書として使われていました。この本から、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえるようになりました。京大の大学院でも、このような英語の教科書でワールドクラスの講義ができるようになることを期待しています。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『小説東京帝国大学』 松本 清張 新潮社	移動中など時間を見つけて清張作品を読むのが趣味です。単なる推理小説ばかりでなく、フィクションからノンフィクションまで昭和の闇の部分や人間性についての描写が、日常の喧噪を忘れさせてくれます。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『生体分子モーターの仕組み』 石渡 信一 共立出版	異分野の研究者がモータタンパク質(生体分子モーター)について学ぶのに最適です。日本の研究者が主導してきた、一分子生物物理学の分野からとらえたモータタンパク質についてわかりやすく書かれています。
34	研究者と立ち話(ポスター/展示)	大学院理学研究科 特定研究員 中村 輝石	素粒子実験って何してるの?	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『ホーキング、宇宙を語る』★★★ スティーヴン・W. ホーキング 早川書房	なぜか家にあって、高校の時によく分からないながらもワクワクしながら読んでいたのを覚えています。かろうじて分かった相対性理論によると面白い現象がたくさんあって、これが全て科学的に正しいのかと思うと胸が熱くなりました。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『素粒子実験の世界』★★ 秋本 祐希 洋泉社	つい最近出たばかりの秋本さんの素粒子実験紹介本。こちらイラスト満載、というか四コマ漫画形式なので老若男女問わず楽しめます。内容も最近発見された重力波や梶田さんのノーベル賞受賞となったニュートリノ振動なども載ってます。
				若者にお勧めしたい本	『宇宙素粒子物理学』★★ クラウド・グルーベン 丸善出版	宇宙・素粒子の最先端な面白い話がだいたい書いてあります。宇宙や素粒子に進もうかなど考えている学生さんは一度読んでみて下さい。楽しそうな分野が多すぎて進路を決めるのが悩ましくなります(笑)
				自分の研究に関連して紹介したい本	『素粒子の世界』★★ 秋本 祐希 洋泉社 『場の量子論』★★ 坂本真人 裳華房	宇宙素粒子の最先端の実験がかわいいイラストつきで(←重要)色々紹介してあります。素粒子実験に興味があるならとっても参考になります。ちなみに、私が博士号を取得したNEWAGE実験についても書いてあります。 読者を突き放さない系の素粒子の教科書です。この本の出版数が伸びたら続編が出るらしく、周囲の人にしきりに勧める学生がいるとかいないとか。
35	研究者と立ち話(ポスター/展示)	物質-細胞統合システム拠点 特定研究員 城 綾実	科学とアートの"想像力"が出会うとき	若者にお勧めしたい本	『科学技術Xの謎-天文・医療・文化財、あらゆるものの姿をあらわすX線にせまる』★★ 京都大学総合博物館(監修), 塩瀬隆之, 元木 環, 水町 衣里, 戸田 健太郎(編) 化学同人	この本の前半は「X線を使った研究を美しく見せる」ということにこだわったコーナーです。ぜひ手にとってご覧ください。出展メンバーの水町より。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『子育ての会話分析-おとなと子ども』の「責任」はどう育つか』★★ 高田明, 嶋田容子, 川島理恵(編) 昭和堂	日常の何気ないふるまいに面白さや美しさを感じて研究する人たちがいます。私もその一人です。この本は、子育てを対象とした研究の成果がまとめられています。難しい部分もありますが、子育て中の人、子育てがひと段落した人、これから子育てをするかもしれない人に読んでいただきたいです。そして、その感想を共有できたら、研究と社会がもっと強く結びつく気がします。出展代表者の城より。

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
36	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院文学研究科 研究員 大庭 弘継		人道のための戦争？よりマシな悪を選ぶ	自分の研究に関連して紹介したい本	『国際政治のモラル・アポリアー 戦争/平和と揺らぐ倫理』★★ 高橋良輔・大庭弘継編 ナカニシヤ出版	問題解決を目指す前に、なぜ多くの努力が払われてきた国際政治の問題が解決しないのか、を探求した学術書です（自画自賛）。国際政治が直面している解決できない問題（アポリア）を、人道的介入、対テロ戦争、核廃絶、防衛戦争、平和構築、民主化、国家主権、人権のトピックごとに議論しています。なお本書の執筆は、深夜までの激論を支えてくれた酒の神（バッカス）のご尽力の賜物でもあります。記して感謝します。
						『正しい戦争はあるのか？—戦争倫理学入門』★★ 眞嶋俊造 大隅書店	西洋哲学が培ってきた正戦論を整理したうえで、現代の戦争が抱える正しくない部分を明らかにし、「制戦論」（戦争を正当化する論理ではなく、戦争を制限するための論理）への再構築を目指した入門書／学術書です。なお戦争を扱うというだけで白眼視されることも多いのですが、本書で筆者が語る、高名な先生にディスられたというエピソードは、一部界限で話題をさらっております。
						『人道的介入：秩序と正義、武力と外交』★★ 小松志朗 早稲田大学出版部	人道的介入の事例を紹介するとともに、その成功条件を、政府と軍隊のコミュニケーションに着目分析した学術書です。本書に対し、高名な先生は書評で、人道的介入ではなく人道危機の原因の除去が重要だ、と批判しています。ですが、予防も重要だが悲劇が生じた場合の対処も必要じゃないのか、と出展者は違和感を感じました。なお高名な先生の書評は、厳しい批判を求めた筆者御自身の指名です。それでもショックのようでした。
37	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院工学研究科 教授 竹脇 出		繰返す震度7地震に対する建物の耐震性	若者にお勧めしたい本	『理系のための独創的発想法』 ア・ベ・ミグダル著、永田好弘訳 東京図書、1992年	「科学における創造の動機」、「どのように科学的探究を行えばよいのか」などの項目を通じて、科学者にとって独創性・創造性が如何に重要で、それを育むにはどうすればよいかについて、わかりやすくかつ興味深く書かれています。
						『研究と独創性』 学術月報編集委員会編 日本学術振興会、1991年	独創的研究とは何かについて、ノーベル賞・フィールズ賞受賞者を含む多くの研究者の意見をまとめています。
					自分の研究に関連して紹介したい本	『図解・超高層ビルのしくみ』★ ★ Blue Backs, 鹿島編, 2010年	超高層ビルのしくみについて、建物耐震設計の歴史から読み解いています。昭和初期の柔剛論争から、最新の制振構造に至る幅広い内容を含んでいます。
『みんなが知りたい超高層ビルの秘密』★★ 尾島俊雄・小林昌一・小林紳也 サイエンス・アイ新書, 2010年	超高層ビルのしくみについて、構造安全性だけでなく、実際の施工方法や維持管理についてわかりやすく解説しています。また、超高層ビルの高さの限界や地下の深さの限界など、興味深い内容についても触れています。						

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
37	研究者と立ち話 (ポスター/展示)	大学院工学研究科教授 竹脇 出	繰返す震度7地震に対する建物の耐震性	自分の研究に関連して紹介したい本	『東京スカイツリーの科学』★★ 平塚桂・たかぎみ江 サイエンス・アイ新書, 2012年	東京スカイツリーについて、「どうやって設計したか?」、「どうやって建てたか?」、「設備はどんなになっているか?」などについて、初心者向けにわかりやすく書かれています。
					『材料力学史』★★ SPティモシェンコ著, 最上武雄・川口昌宏訳 鹿島出版会, 1974年	材料力学は、構造物を安全に設計する際の基礎をなす学問である。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ガリレオ・ガリレイから始まり、17世紀から20世紀に至る材料力学の歴史的発展を興味深く解説しています。
					『Improving the Earthquake Resilience of Buildings: The worst case approach』 I. Takewaki, A. Moustafa and K. Fujita Springer (London), July, 2012	建物の地震に対するレジリエンスを向上させるための方法について解説した英語の本です。建物の地震に対するレジリエンスについて論じた本は世界的にもめずらしく、世界各国の研究者に広く読まれています。この本は、2014年の日本建築学会著作賞を受賞しています。
					『Critical Excitation Methods in Earthquake Engineering, Second Edition』 I. Takewaki Elsevier, 2013	建物の最悪地震動について英語で解説しています。建物の最悪地震動に関する本は世界でもめずらしく、世界各国の研究者に広く読まれています。
					『超高層ビルの簡易動的設計法: 簡易耐震診断および簡易耐震補強』★★ 高島秀雄, 北田幸彦, 竹脇 出 鹿島出版会, 2016年	南海トラフ地震などの長周期地震動を受ける建物の挙動を簡単なPCソフトを用いて実体験できます。
43	研究者と立ち話 (ポスター/展示)	大学院人間・環境学研究科 日本学術振興会特別研究員PD 林 智昭	英語も生きている!	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『認知言語学原理』 山梨正明 くろしお出版	身の回りに溢れる言語表現を取り上げ、認知科学の一分野としての言語学の立場から、一貫したアプローチに基づき分析を行う。言語研究の魅力とともに、学問に臨む上での姿勢を絶えず批判的に検討し、研究に従事する山梨先生の言語観・人生観が詰まった名著。大学院へ進学する前後の時期、理論言語学に触れるきっかけとなり、言語研究への姿勢を教わった一冊。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『世界に通用しない英語 あなたの教室英語、大丈夫?』★★ 八木克正 開拓社	教室で教えられている英語は、どんな英語なのだろうか。本書では、学習文法の歴史、学習・英和辞典の記述をめぐる問題点をまとめ、英語語法研究の最前線を走る研究者の視点から「教室英語」への積極的な提言が行われている。英語教育への疑念を抱いているあなたに、考えるきっかけを提示してくれる一冊。
				若者にお勧めしたい本	『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー (英語学モノグラフシリーズ第20巻)』★★ 谷口一美 研究社	1980年代以降、概念メタファー、メタファー写像、イメージ・スキーマなどの研究が盛んになった。これらの理論的 개념の背景と主旨を、主要な文献を取り上げ、丁寧に紹介していく。何事に対しても真摯に向き合う谷口先生の謙虚な姿勢から、言語現象のみならず、学問に対する研究者としてのあり方を学んだ一冊。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『英語の歴史 過去から未来への物語』★★ 寺澤盾 中央公論新社	英語に借用語が多い理由は?綴り (spelling) と発音の繋がりが見えにくい理由は?英語を学ぶ過程で抱く、素朴な疑問の数々を紐解く手がかりを、その歴史が教えてくれることがある。今日の世界共通語である英語は、昔からその地位にあったわけではない。現代英語へ至るまでの変化の歴史を、本書はわかりやすく丁寧に教えてくれる。長年の疑問に答えてくれること請け合いである。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
45	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院教育学研究科 日本学術振興会特別研究員PD 清水 美里	ダムから考える植民地台湾	今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『開発を問い直す―転換する世界と日本の国際協力』★★ 西川潤ほか編 日本評論社	開発援助や復興支援が応援する側の独りよがりにならないために考える本です。とくに第12章「声なき声を聴く」踏査のために（平山恵）は秀逸です。なぜ格差が生まれ、なぜ平和が乱されるのか、現地のニーズにそった開発援助や復興支援のためには何が必要か、具体的事例から考えさせられます。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『帝国日本の「開発」と植民地台湾―台湾の嘉南大圳と日月潭発電所』★★ 清水美里 有志舎	推薦者の約10年間の研究成果です。学部の卒論からダム開発について考え、大学院から植民地とは何かを問いに研究してきました。歴史認識問題の解決やより良い開発援助の形を考える時、参考にしてほしい本です。
47	研究者と立ち話（ポスター／展示）	東南アジア研究所 連携助教 紺屋 あかり	南の島に生きる	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『文化と両義性』★★ 山口昌男 岩波現代文庫	70年代の日本の文化人類学を代表する一冊。「中心と周縁」という概念を軸とした、新しい文化理論を提起するもの。「違和」と「異和」の違いって何だろう?!文化や社会への見方を広げるための訓練書。
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『周辺民族の現在』★★ 清水昭俊 世界思想社	以下に引用する文章が研究のきっかけといっても過言ではありません。「周辺民族は、世界の構造の中でほとんど見るべき役割を果たしていないがゆえに無視してよい存在なのではない。事実は全く逆である。彼らは世界の構造的な中心から不可視にされた存在であり、それゆえに、彼らの存在自体が世界の構造の不可視の存在を代表している。（中略）この意味で、不可視の存在である周辺民族を認識することなしには、現代世界を理解することはできない」
				若者にお勧めしたい本	『部分的つながり』★★ マリリン・ストラザーン 水声社	人と出来事と自然のつながりを考える本。ポストブルーラル人類学と呼ばれる新しい学問的潮流を提示する一冊。「彼らの視点」と「私たちの視点」が共立する時、一体何が見えるのか?
				自分の研究に関連して紹介したい本	『知の大洋へ、大洋の知へ! 太平洋島嶼国の近代と知的ビッグバン』★★ 塩田光基 彩流社	クラ交易、カヌー、呪術。太平洋の島々を知るためのエッセンスが盛り込まれた古典書。著者のマリノフスキ博士が島の文化や社会をどのように観察しているのか?調査が行われた1917年の歴史的背景と重ねながら、当時の島を想像してみてください。
48	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院理学研究科 教授 杉山 弘	遺伝子スイッチでがんを治す	自分の研究に関連して紹介したい本	『基礎ケミカルバイオロジー』 杉山 弘・板東俊和 化学同人	今、太平洋地域社会で何が起きているのか?!宗教、ジェンダー、権力、集団性など様々なテーマから島嶼世界を読み解く、島の現在を知るための必読書。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『Forests of Fortune? The Environmental History of Southeast Borneo, 1600-1880 Knappen, Han KITLV Press	1600年から1880年のボルネオ島南東地域のバリト川流域を中心とする一帯が本書の舞台です。この地域における林産物交易を含む、在地民による森林利用と彼ら生業経済・儀礼・家族構成などの生活の変遷から、熱帯雨林の環境の変化を分析した本書は、歴史研究における港市分析以外のアーリーナを提示している点で人類学者にとっても読みごたえのある1冊です。
48	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院理学研究科 教授 杉山 弘	遺伝子スイッチでがんを治す	自分の研究に関連して紹介したい本	『基礎ケミカルバイオロジー』 杉山 弘・板東俊和 化学同人	生物、化学、薬学的な視点から高校生～大学生に向けて、DNA,RNA、タンパク質の構造と機能に関して分かりやすく説明しています。ケミカルバイオロジーという学問の入門書として本書を推薦します。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
49	研究者と立ち話（ポスター／展示）	大学院情報学研究科 助教 佐藤 彰洋	地域の持続可能性を計る	自分の研究に関連して紹介したい本	『Applied Data-Centric Social Sciences』 Aki-Hiro Sato Springer, Japan	2014年に発表者が出版した著書。データに基づく社会経済システムの研究に関するアイデア、方法論、分析結果をまとめた書籍です。今回紹介する地域の持続性を測るための仕組みMESHSTATSはこの書籍にある方法論と技術を用いて実現されています。
					『金融市場の高頻度データ分析—データ処理・モデリング・実証分析—』★★ 林高樹・佐藤彰洋 朝倉書店	2016年7月に発表者が著者のひとりとして出版した書籍です。金融市場の時系列データ分析に関する分析方法、モデリング、実証分析の結果について紹介しています。手軽にデータ分析の勉強を始めたい方にお勧めの一冊です。
50	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	物質—細胞統合システム拠点 拠点長・教授 北川 進	ナノ空間の世界と化学	若者にお勧めしたい本	『化学物質はなぜ嫌われるのか』★★ 佐藤 健太郎 技術評論社	科学には負の側面が付き物ではあるが、時として根拠のない偏見により強調されがちである。科学技術の恩恵とリスクに対してどのように向き合っていくべきか、本書ではそうした負の側面の代表格と言える「化学物質」に焦点を当てて分かりやすく解説している。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『実験室の笑える?笑えない!事故実例集』★★ 田中陵二・松本英之 講談社	化学実験(特に有機化学)で起こりがちな実験事故事例を紹介しています。プロ向けの指導書というよりは化学に興味のある高校生、学生実験を控えた大学1~2年生向けのちょっとした読み物と言えます。やや真面目さに欠ける点がありますが、むしろこの位の方が印象に残りやすいのではないかと思います。
					『集積型金属錯体』 北川 進 講談社	ナノ空間は単なる小さな空間ではなく、設計により特異な構造と機能を発現させることが出来る。ナノ空間を創生するための代表的手法である集積型金属錯体を設計・構築するための基礎理論・実例を解説した研究者向けのバイブルです。
『革新的な多孔質材料』★★ 日本化学会 化学同人	ナノ空間の化学の研究トレンドを基礎から先端研究まで広く紹介しています。この分野の入門として最適な一冊です。					
51	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	大学院経済学研究科 准教授 坂出 健	国際政治経済学への招待状	若者にお勧めしたい本	『ウエストファリアは終わらない—国際政治と主権国家』★★ 柴田純志 虹有社	「1618年〜年三十年戦争、1648年ウエストファリア条約」と世界史の授業で暗記したおぼえのある方もおられるでしょう。ここで成立した「ウエストファリア体制＝主権国家体制（主権国家が相互の主権を認め合う体制）」の歴史的・理論的評価は、今日の国際紛争（イスラム国の活動等）を分析する上で大きな意味を持ちます。この点についてコンパクトにまとめられた良書です。
52	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	生態学研究センター 教授 中野 伸一	琵琶湖にひそむちよつと変わった食物連鎖	自分の研究に関連して紹介したい本	『地球を「売り物」にする人たち—異常気象がもたらす不都合な「現実」』★★ マッケンジー・ファンク (著), 柴田 裕之 (翻訳) ダイヤモンド社	地球温暖化は、我々人類が避けて通れない環境問題であり社会問題である。本書は、変わりゆく地球環境に柔軟に対応して、しぶとく生き抜く人間たちを紹介している。このように書くとポジティブな印象となるが、環境科学の研究に携わる身としては、勉強になるとはいえ、複雑な気持ちを抱かせる一冊である。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
54	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	福井謙一記念研究センター・シニアリサーチフェロー（名誉教授） 神 茂好	自動車触媒とコンピュータ計算化学	自分の研究に関連して紹介したい本	『物理化学（上）（下）』★★ マッカーリ・サイモン 東京化学同人	標準的な物理化学の教科書
55	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	大学院教育学研究科教授 鈴木 晶子	人工知能は社会や学校をどう変えるか	今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『図説 鉄腕アトム』★★ 森 晴路 河出書房新社	心やさしい科学の子、心正しい科学の子として登場した鉄腕アトムのことがわかる本。アトム誕生のエピソードや御茶ノ水博士のことなどなど、アトムの情報が満載です。また、手塚治虫がアトムに託して伝えようとしたことを考えさせてくれます。人工知能やロボットのことを考えるときに鉄腕アトムの存在は欠かせません。未来社会を議論するための助けとなる一冊です。
				若者にお勧めしたい本	『アンドロイドは人間になれるか』★★ 石黒 浩 文春新書	マツコロイドの生みの親でもある世界的ロボット工学者・石黒浩。本書では、アンドロイドと人間の境界線という現代的な問いについて、わたしたちの常識を覆すような議論が展開されています。「人の気持ちを考える」ということを徹底的に突き詰めた先には、果たしてどのような世界が開かれるのか。人工知能やロボットが急速に発展する今だからこそ、お勧めしたい一冊です。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『智恵なすわざの再生へ - 科学の原罪』★★ 鈴木晶子 ミネルヴァ書房	3.11以降の日本で、科学・技術と人間はどのように付き合っていっていいのかわからない、という思いに突き動かされ、『星の王子さま』の言葉に促されつつ、哲学・倫理・教育の観点から綴りました。人工知能をはじめとする先端的な技術文明と人間との共生・共進化をしていくための智恵を探ります。
				『日本人のための科学論』 毛利衛 PHPサイエンス・ワールド新書	推薦者の鈴木晶子は日本未来館館長で、初の日本人宇宙飛行士の毛利衛さんとは、科学コミュニケーション推進のために色々なサイエンス・カフェなどを企画してきました。本書では、彼が宇宙で掴んだ科学技術のエッセンス、科学未来館のことなどが盛り込まれています。後半では、科学コミュニケーションの未来や、科学とアートについて毛利さんと鈴木さんの対談を載せています。	
57	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	原子炉実験所助教 谷垣 実	福島を見守る「目」	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『相対性理論の考え方』 J.L.シンジ 講談社	高校時代に読みあさったブルーバックスの中でも一番印象に残っている。女王の浮気疑惑に悩む王様の話から同時性の説明をする話など、相対論での物事の捉え方が丁寧に説明され、これを読んだ当時の私にも物理をやっている人の頭の中が少し見えたような気がした。
				若者にお勧めしたい本	『ファインマン物理学 1～5』★★ R. P. ファインマン 岩波書店	自分なりの物理の捉え方を育ててくれた大事なシリーズ。特に量子力学を何度もなんども読み返したのは学部時代の良い思い出。講義の書き起こしながら大変読みやすい日本語訳も魅力。最近ネットで英語版が無料公開されているので、それに挑戦してみるのもいいかも？
					『誰のためのデザイン？—認知科学者のデザイン原論』★★ D.A.ノーマン 新曜社	身近な道具に潜むデザインの問題を、道具はユーザのにとっての良いデザインとは？という観点から捉えた本。その根底には「本来の目的を正しく見据えた最適なアプローチ」という考えが貫かれており、デザインを超えた普遍的な物事に取り組む時のあるべき姿勢が示されていると思います。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
登壇者	お茶を片手に座談会	宇宙総合学 研究ユニット 特定研究員 呉羽 真	進撃の巨大科学	今の仕事（研究、進路）を選ばなかった本	『プラネテス（全4巻）』★★ 幸村誠 講談社	いま宇宙開発について研究していますが、最初に興味を持ったきっかけはこの本だったと思います。
				今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『パンダが来た道』★★ ヘンリー・ニコルズ 白水社	パンダというのきな動物が人間の都合に翻弄されてきた経緯を、パンダの生息地である中国の浮沈や保護活動の歴史・現状と合わせて解説した本です。パンダを通して人間のあり方を見つめ直させてくれます。パンダ関連の本はいろいろ読みましたが、本書がベストです。
					『マイコフィリア』★★ ユージニア・ボーン パイインターナショナル	キノコ好きの著者（フードライター）がキノコの魅力を紹介した本です。目くるめくキノコワールドに圧倒されます。
					『〈文化〉を捉え直す』★★ 渡辺靖 岩波書店	グローバル化を背景に「文化」というものが提起する諸問題について論じた本です。読み応えがあり、勉強になりました。
				若者にお勧めしたい本	『日の名残り』★★ カズオ・イシグロ 早川書房	この著者は『わたしを離さないで』が有名ですが、わたしはこっちのほうが好きです。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『生まれながらのサイボーグ』★ アンディ・クラーク（著）、呉羽真ほか（訳） 春秋社	わたしが訳した本です。認知科学・認知技術の話題と哲学の手法をベースに、「人間は生まれながらのサイボーグだ」という驚きの主張を展開する、野心的な本です。原書で読んであまりにも面白かったので、自分で翻訳しました。買ってください。
	『偶然の宇宙』★★ 伊藤邦武 岩波書店	わたしの学生時代の先生（哲学者）が書いた本です。「わたしたちが存在するこの宇宙は、偶然の産物なのか？」という深遠すぎる問いについて論じています。とはいえ、それに答えを出すよりは、この問いを前にして立ちすくむ人間の姿を描こうとした作品だと思っています。読んでたやすく理解できる代物ではないですが、哲学という学問の深みを味わえます。				



生協ショップルネ書籍コーナーにて「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

編集者 白井哲哉（学術研究支援室）
仲野安紗（学術研究支援室）
神谷俊郎（学術研究支援室）
笠原のりこ（学術研究支援室）
山下絵理子（研究推進部研究推進課研究助成掛）
藤永澄夫（研究推進部研究推進課研究助成掛）

デザイン 永田奈緒美（学術情報メディアセンター）

写真 大森貴生

発行日 2017年1月31日

発行 学術研究支援室
研究推進部研究推進課
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 学術研究支援室
Tel : 075-753-5113
E-mail kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。



Dialog with the Public